

[研究報告]

1995年 9月

情報化(マルチメディア化)による 家庭生活の変容

研究者 奥野卓司
(甲南大学文学部教授)

調査協力 株式会社 ミューズ

財団法人 ハイライフ研究所

研究内容

1. 目的

コードレスホンや携帯電話、家庭用ファクシミリなどの情報手段が普及するにつれて、日本の家庭のありようは大きく変容しつつある。その流れは、大きく言えば〈家メディア〉から〈個メディア〉への系譜とまとめることができる。それにより、家族の成員はそれぞれ家庭外の社会や情報への接触の度合いを深め、家庭内の人間関係をゆるやかなネットワーク化の方向に向かわせることとなった。

このような前提にたったとき、では近未来に実現が予想されるマルチメディア社会においては、家庭にさらにどのような変容がもたらされると考えられるだろうか。

第1回の今回は、さまざまなマルチメディアの中で、すでにかなり普及しつつあり近い将来家庭に大きな影響をもたらすことが確実視されるパソコン通信とケーブルテレビを中心に、その利用の仕方、情報との接触度合い、今後の期待などを調査により探索し、現実にはどのような変容が生じているかを明らかにする。そしてさらに、この結果の解読から一步進めて、情報機器の今後の進化にともない、近未来の家庭像を抽出する試みにも着手したい。

2. 対象

- ケーブルテレビの特性を考慮し、特定のケーブルテレビ局の放映エリアに限定したうえで、さらにそのエリア内で成立しているパソコン・ネットワークを選定し、その条件にあてはまる家庭を中心にスクリーニングを行なった。
- 具体的なエリアとしては、東急ケーブルテレビジョンが放映している首都圏城西南部地区（東急田園都市線沿線の横浜市緑区、青葉区）を中心に、比較のために小田急線、東急東横線など該当エリアの私鉄沿線の家庭も若干含めた。
- また地域社会と家庭との関係の変容をとらえるために、該当エリアの東急田園都市線沿線の主婦を対象にしたパソコン・ネットワーク『セランネット』加入家庭を重点的に調査した。
(調査エリアの特性については後述)
- 調査対象は10家庭とし、そのうちパソコン通信利用とケーブルテレビ視聴家庭が約半数を占めるよう考慮した。
- まとめにあたっては、プライバシー保護の観点から、実名を希望した1ケースを除き、すべて仮名とした。また、同様の理由から調査の趣旨と分析に支障をきたさない程度に、若干事実関係に修正を加えた部分もある。

3. 手 法

調査は以下の二つの方法により行なった。

(1) 訪問面接によるデプスインタビュー

対象家庭を訪問して、デプスインタビューを行なう手法により、家族の情報メディア接触の現状を探り、家族関係についての意識や今後のあり方について分析した。

(2) 情報生活日誌調査

上記対象家庭に、留置式で家族の情報生活を一週間にわたって記述してもらい、デプスインタビューで抽出しきれない意識の深層を探る補助素材とした。

4. 時 期

- インタビュー調査、情報生活日誌調査ともに、平成6年6月～9月にかけて実施した。
- なお、調査後の平成6年11月より横浜市緑区が分区し、他に青葉区、都筑区が新設されたが、報告書では分区前の住所でまとめている。

5. 調査エリアの特性の補足

以下、報告書を読むにあたって、基礎知識として必要と思われる用語について、簡単に解説をしておく。

1) 東急田園都市線沿線の生活文化

東急電鉄はかなり早い段階から首都圏城西南部に重点的に沿線開発、ニュータウン開発を展開してきたが、なかでも田園都市線については、新しい郊外居住型都市生活の拠点として、沿線文化形成に力を入れてきた。近年は、トレンド分析誌「アクロス」（パルコ出版）によって、「第4山の手」地域のシンボルとされるなど、高感度の消費者による先端的な消費感覚と情報感覚が形成されたエリアと見なされている。またこのエリアでの若い主婦を中心とするライフスタイルは、「金妻」などの風俗や流行語を生み出した。

2) 東急ケーブルテレビジョンについて

本格的放送開始は昭和63年（1988年）と比較的歴史は浅いが、現在、渋谷区、世田谷区など東京区部と神奈川県下（川崎市、横浜市）、町田市など首都圏の広範囲にわたって放送し、加入者数は約7万7000世帯（平成5年6月現在）で全国第2位の規模を誇る。平成7年度中に10万世帯の加入が目標。双方向への取り組みも積極的で、近い将来、ホームショッピング、医療、交通情報、教育などでの双方向化を検討している。

3) セランネットについて

セラン(Selun)とは、Systems for an Exclusive Life for Urban Nature（緑豊かな都市にみがかれた人生を送るためのシステム）の略で、その頭文字をとった造語。平成3年6月に東急電鉄が田園都市線沿線の主婦を対象にしたパソコン・ネットワークとして設立したもの。ノート型パソコンの無料貸し出し、講習会開催、在宅での仕事の提供などが話題となり、350人の定員に対して1600人以上もの応募があるなど人気を集めた。参加者の大半は30代の主婦で、子どもが小さいため外に働きに出られないが何か仕事をしたい、社会とつながってみたいなどが主要な応募動機。

現在会員数は350人で、パソコンによるデータ入力、翻訳、DTP編集、マーケティングなどの事業を手がけているほか、会員に対するパソコン利用のアンケート調査なども活発に行なっている。

4) ケイネット(K-NET) について

「21世紀に向けて神奈川県内の情報インストラクチャーを整備」という趣旨のもと、神奈川県、神奈川県市町村振興協会、および企業、団体の共同出資によって作られた、官民一体の大規模地域ネットワーク。地域ネットワークとしては後発のため、モデムと通信ソフトの無料貸し出し、画像通信の推進などの差別化をはかっている。

運営主体は株式会社ケイネット。

総括にかえて（要旨）

自らの安定のために、家庭はもとより共同体は本来、外部から情報が侵入することを嫌う。かつての日本の家庭に「お袋の味」とか「イエの文化」というものがありえたのは、各家庭が独自の情報環境を外部環境から独立して維持していたからだった。

近代には、それ以前の社会で家庭の機能とされたことの多くが、社会に産業化されていった。この過程で、それまで家庭の集合体であった社会は家庭と分離していき、企業の集合体となった。つまり、家庭と社会という2つの場が生まれて、成人男性がこの間をほぼ直線的に往復しだしたのである。

だが、社会から家庭にラジオやテレビなどのメディアを通して情報が一方向に流れるうちに、家庭の壁が溶けだしてきた。それまで家庭内に閉じこめられていた生活者たち、主婦や子供や高齢者たちが街にでてきたのである。同時に、「外ビジネス」を志向する会社もまた、その壁が溶けだし始めた。

ビジネスマンも、営業活動だけでなく業際の研究会や交流などで、勤務時間中にも会社の外にいることが多くなった。オフビジネスも会社から自宅へ直行するか、バーや居酒屋に寄るだけではなくなり、家庭と会社の間にも自分のもうひとつの居場所をもつようになった。

こうして、家庭と会社の間にも「新・社会」が生じている。ホテル、駅、病院、ゲームセンター、各種のお稽古事教室にはじまり、ボランティアや様々なバナキュラー・ワークの場が生じている。ここでは、人々はしばしば家庭と社会を離れ、時間を遊び、気の合う友達と自由につながることで、自分の物語を織りなそうとする。

この空間での人間関係は、家庭から溶けだしてきたものである。したがって多くの場合、他の家族にはここでの関係がさして重要なものとは思われていなかったり、あるいはその存在さえ知られていなかったりする。今日の犯罪捜査が困難になっているのは、人々が会社や家庭とその近辺ではないところに、このような知られざる強い人間関係をもっていることが多いために、従来の捜査パターンではその関係が浮かんでこないからであろう。

良きにつけ、悪きにつけ、こうした新しい人間関係をネットワークしているのが、現在個人化していきつつあるメディア（個メディア）である。携帯電話やカーナビなど移動するマルチメディアの先駆けとしての個メディアがヒットしているのは、こうした「新・社会」の携帯つながり装置だからである。

また、この新社会の浮上によって、これまでの一方的な放送（ブロードキャスト）の流れは意味を失い、新社会の多様なクラスターが相互に交流する双方向のマルチメディアに向かっている。だが、このクラスターは時間と空間を超越するメディアによって結ばれているため、一定地域的で網をかけることは不可能である。

さらに、この調査から以下のことを読み解くことができた。

- (1) 従来の地縁を補完するものとしてパソコン通信が利用されるのではなく、むしろパソコン通信のネットワーク参加者には従来の地縁を忌避する傾向が強い。この人々は地縁は忌避しているが、社会活動の指向は大いにある。
- (2) 家庭の主婦がパソ通に参加する場合は、全く体面接触のない人々と通信するためであることは少なく、主婦どうしの対面コミュニケーションを媒介として始まる場合が多い。つまり、「情縁」（情報によってのみ結ばれる人間関係）ではなく、電子情報によるコミュニケーションによって友情を強化していることが多い。
- (3) パソコン通信は自分の部屋から世界につながることができ、またそれが腕力や体力を必要としないものであるため、障害者や社会的弱者の生活を豊かにすることに直接、間接に貢献できるメディアである。
- (4) マルチメディアは、本質的に時間と空間を越えていく傾向がある。このため、地域から人々を分離し、地縁を離れた人間関係や隠れたクラスターをつくる方向に進むであろう。
- (5) 上記のような理由から、一定地域に根ざしたケーブルテレビは、当面、大変熱心に視聴する家庭と、全く無関心な家庭に分離する。このため、経営的に困難な時代がしばらく続くものと思われる。
これに対して、地域を限定しない無線系の衛星テレビ放送や全国ネットのパソコン通信の商用ネットワークは、広い範囲に点在する熱心な愛好家に支えられ、ビジネスとして早い時期の成功が見込まれる。
- (6) この過程で、家庭はメディアによって家族が拡散して外部志向化する傾向と、より家族的であろうとする傾向のアンビバレントな場になる。この二つの要求を矛盾なく実現するために、お互いの自由な活動を認めあい、マルチメディアの情報によって結ばれるネットワーク家庭の方向に進むと予測される。

メディアには人間どうしを結びつける力と同時に、人間を個人化させる力がある。だが、「メディア」というとすぐに「コミュニケーション」という言葉が連想されるように、前者のイメージばかりが強調されてきた。後者が忘れられているのである。

しかし今日のメディアの現実の影響をみると、この調査でも明らかなように人間関係の基本のはずの家庭の中ですらメディアによる個人化が急速に進んでいる。妻と夫はパソコン通信でまったく別々に家庭外の情報と交流している。家族が同じテレビを見ていても、ケーブルテレビの多チャンネル化によって母と娘では選択するチャンネルがまったく異なっている。

だが一方で、今回の調査を通じて、家庭外に地域をこえた新しい人間のつながりがメディアを通じて生じはじめていることを、私たちは明確に知ることができた。ボランティアや自分自身の興味にそったネットワークが広がっているのである。このような新しい人間関係では、従来の運命的な日本人間関係である“縁”をこえて、個人が自分の選択で帰属集団や経済的利益以外の、とりわけ共通の専門的な情報によって結ばれる。

このようにみえてくると、21世紀のハイライフを構築するために、私たちはメディアのもつ両義的な力のうち、まず「家庭を拡散する力をどう調節し、単身者家庭やDINKS家庭の可能性も含めて家庭内の個人を尊重したネットワーク型家庭」をどう運営していくか、そしてそのために家庭に入ってくるマルチメディアをどう生かしていくのかといった具体的なデザインを現実に行進する道として構想すべき時にきていることがわかる。

そして、メディアのもうひとつの力である人間と人間を結びつける力を家庭や地域外にさらに拡張して、時空間をこえた人間関係の新たな可能性をグローバルに探るべきだと考える。この意味で、人間は個人レベルでの“縁”をゆるやかな運命的つながりとしての「家庭」に癒されながら自分の知的関心や社会のために地球規模に広げていく時代がはじめて来ていると言えよう。

パソコン通信あるいはCATV視聴と家庭生活
インタビュー調査報告

●●●目次●●●

パソコン通信

- 01/高齢者一人暮らし家庭……………1
ダイニングテーブルから広がる世界との交流
- 02/新婚ディンクス家庭……………12
車椅子人生がもたらした通信と結婚の幸福と葛藤
- 03/50代定年夫婦家庭……………22
時もち・自然もち生活にリズムを刻む通信ライフ
- 04/40代インストラクター家庭……………33
「ただの主婦」を变身させたパソコンへの探求心
- 05/30代在宅ワーキング家庭……………46
家族に溶けこむコンピュータのある暮らし

パソコン通信&CATV

- 06/30代インストラクター家庭……………54
育児と仕事を両立させるパソコンは生活のすべて
- 07/30代在宅ワーキング家庭……………65
社会とつながっていたい欲求を充足させる地域ネット
- 08/60代定年夫婦家庭……………75
パソコン点訳で模索するボランティアを越えた関係

CATV

- 09/東急CATV視聴家庭……………86
多チャンネル・専門チャンネルでCATVならではの満足感
- 10/小田急CATV視聴家庭……………96
難視聴対策のCATVはフツアのテレビと同じ感覚

		家族構成／居住環境	情報環境	取材の概要
1		高齢者一人暮らし家庭 中村 克己	●電話はファックス共用の1回線 ●ワープロは3台目で、OB会の名簿づくりなどに活用 ●パソコン通信(ワープロ通信)を始めて6年目、ニフティに加入し、高齢者向けフォーラムをよく利用し、1日数時間は画面に向かって ●海外の友人とは、KDD、ファックス、インターネットで交流	●60歳過ぎてからワープロを始め、70歳過ぎてからパソコン通信のおもしろさに開眼、高齢者向けのフォーラムを中心に積極的に発信を続ける。 ●なくなった妻ともども積極的にオフラインの会合にも参加し、全国に交流仲間をもつ。また、長年ペンパル活動が続いているため、世界各地の仲間とワープロ通信、ファックス、手紙などで交流しあっている。 ●反面、マンションの近隣とはほとんど交流がないが、スーパー、駅、郵便局、銀行などが徒歩圏内にある恵まれた生活立地のため、一人暮らしにも格別の不自由さは感じていない。健康にも不安がないため、子どもとの同居はむしろ、高齢者専用マンションなどへの入居も考えていない。 ●ワープロ通信の楽しさを高齢者に広めることをめざし、新聞への投稿、高齢者向けワープロ教室のモデル役など、啓蒙運動にも熱心。
2		新婚ディンクス家庭 中川 浩之・綾乃	●電話は、ファックス専用も含め2回線 ●大は仕事の関係でニフティに加入し、当初はパソコン通信もよく利用していたが、最近はやや遠ざかっている ●妻はパソコン通信歴、ネットワーク歴ともに夫より長く、今でもシスオベの補助的な役割もこなしつつ、毎日2時間程度は利用している	●大は20歳過ぎに、飲酒運転の暴走車に巻き込まれ、車椅子の生活に。手足が不自由になったので、コンピュータのCADシステムを導入し、設計の仕事再開。建築関係の最新情報を手手するために、ニフティに加入。仕事関係の情報提供のかわり、パソコン通信も始めるようになる。 ●妻は早くからパソコン通信に関心があり、一時はいくつものネットワークに加入し、月10万円以上もかけていたこともあるほど。またニフティのフォーラムで夫とのメールのやりとりが始まり、何度か会ううちにメールでプロポーズされ、1年前結婚。 ●大は自由に外出できないハンディを克服するための手段として、新書情報や天気予報など必要に応じてパソコンを活用している。しかし、マンネリ感から、アクセスの頻度ははだいに減少しつつある。現在、パソコン通信的ではない、人間関係のありかたを模索している。
3	パソコン通信家庭	●夫(58歳)、妻(55歳)の二人暮らし(子ども2人はそれぞれ独立し、別居) ●横浜市港北区の「リ」建て(築約25年)在住。約50坪の家業菜園つき ●大は大手コンピュータ会社を退職後、晴耕雨読の生活でほとんどの時間を自宅の居間で過ごす	●電話は1回線。黒電話が玄関に置かれ、通信には2階の書斎の子機を利用 ●ワープロは息子のおさがりのもの(カシオ)で1台目 ●パソコン通信(ワープロ通信)は始めて数カ月。ニフティに加入し、高齢者向けフォーラム、モデム関係のフォーラムを利用しているが、自ら発言することはほとんどない	●「時間ももち」「自然もち」をモットーに、無駄なモノは買わない、資源のリサイクルに努めるなど徹底したエコライフを実践する。 ●新聞の投書欄でパソコン通信に関心をもち、ニフティに加入。息子のおさがりのワープロで通信を始める。ほとんど自分で発言することはなく、他人の意見を読んでいる程度。メール交換もほとんどしていない。またオフラインの交流にも参加した経験はない。 ●2人の子どもとのコミュニケーションにパソコン通信を利用することはなく、100%電話で行われている。また夫が終日家にいるようになってから、逆に語学、ヨガなどでよく外出するようになった妻も、パソコン通信にはまったく関心がない。 ●地域の中で高齢者の役にたちたいと願い、近所でワープロを教えることもある。将来は、携帯性のあるパソコンが欲しいと思っている。
4		40代インストラクター家庭 小森 冴子	●使用パソコン機種は、デスクトップ型NEC98と98ノート ●加入ネットワークは、ニフティ、セラン、Kネットの3つで、Kネット以外は毎日数回は必ずアクセスしている ●電話は2回線あるものの、親世帯と使い分けているため、現在でも不便を感じており、ISDNを契約する予定 ●大との連絡にはパソコン通信は活用していない	●田園都市線の子機を対象にしたパソコン・ネットワーク、セランの募集を知り、応募。加入後、すでに買ってあったパソコン操作を、ほとんど自分一人で独習する。ふとしたことからパソコン教室のインストラクターをすることになり、現在、高齢者向けの教室で教えているほか、セランでもMOS-DOS講習会などの講師を引き受けている。経済的にはほとんどボランティア価格だが、金銭にはかえがたい充実感を感じている。 ●今ではパソコンがなければ一日も過ごせないと感じ、たまに名古屋に単身赴任中の夫を訪ねるときも、98ノートを携帯するほど。それに対して夫は、仕事では業務上のメールのやりとりはしているものの、まだ仕事を離れてパソコン通信の世界に入ってはいない。 ●今後は、高齢者や主婦のための基礎的な講習会の継続や、幼児がいて外出しにくい若い母親のためのパソコン通信の啓蒙をしたいと願っている。
5		30代在宅ワーキング家庭 佐藤 亜由子	●電話はファックス共用の1回線ですきど不便を感じていない ●使用パソコン機種は、デスクトップ型マックとIBM、NEC98ノートの3台 ●加入ネットワークはセラン、ニフティ、ビーブルの3つだが、セラン以外はほとんど利用していない ●大は自宅でも、業務の続きや私用で長時間画面に向かう	●3年ほど前、電車の広告でセランの募集を知り、パソコンにはなじみもなかったので応募。同時に、途中から今の閉地に引っ越したため、同年代の友人が近所にいなくなったので、友達でなければとの願いもあった。目下、お互いの家でランチパーティや旅行など、おおいに楽しんでいる。 ●現在、週に数日、午前中から東急CATVの力の仕事をしながら、自宅でも単発の力の仕事をしている。ただし、それほど仕事にのめりこんでいるわけではなく、おこづかい程度感覚。今後も育児と家庭を優先させるほか、外に働きにでるつもりはあまりない。 ●大は、自宅でも画面に向かって時間が長く、休日などはほとんど一日費やすこともある。息子も遊び感覚でマックを楽しみながら操作しており、生活の中に自然にコンピュータが溶けこんでいる。今後もパソコンを生活の柱にしながら、現在の家族のペースを大事にしたいと考えている。
6	パソコン通信&CATV視聴家庭	●夫(37歳)、妻(35歳)、小学生の息子2人(9歳、7歳)の4人家族 ●横浜市緑区藤が丘の分譲マンション在住 ●大はコンピュータ関係の商社勤務、妻はパソコン教室のインストラクターのほか、在宅入力の仕事もこなす	●使用パソコン機種は、デスクトップ型NEC98と98ノート ●加入ネットワークは、ニフティ、セラン、ビーブルの3つ ●電話はファックス共用の1回線だが、頻繁にパソコン通信でアクセスするため、回線を増やすか、ISDNにすることを検討中 ●人力、通信、子どもの遊びでほとんど一日画面に向かう ●マンションの一括契約で引っ越し時に、東急CATVに加入	●独身時代はSEとして、全国を飛び歩く。出産後は、託児所が見つからず断念。数年前、セランの募集を大から知らされ、応募。パソコンとのつきあいが始まる。その後、パソコン教室のインストラクターとして、また在宅入力ワーカーとして大変忙しい日々を送るようになる。 ●大は最近やっと業務で使用するようになったが、まだ個人的なパソコン通信の楽しさには開眼していない。海外転勤もありうるので、そのときはメールでコミュニケーションすることを考えている。 ●セランの仲間とは、地域や子どもの枠を越えた連帯意識を培っており、将来はビジネス展開できる受け皿づくりを計画している。また、そのために田園都市線沿線にたまり場としてのマンションを借りることも、半ば本気で検討中。
7		30代在宅ワーキング家庭 志村 まなみ	●電話はファックス共用の1回線で、特に不便は感じていないが、将来的にはもう1回線欲しいと思っている ●使用パソコン機種は、NEC98ノート ●加入ネットワークは、ニフティ、セランの2つだが、パソコン通信は当初はほとんど活用していない ●入居後、マンションの一括契約で東急CATVに加入	●パソコンについての知識も経験もまったくなかったが、セランの募集を知り、在宅で仕事ができることやパソコン通信ができることにひかれて応募。もう一つの動機として、近隣の子ども仲間だけのつきあいで満足できず、社会とつながりたい意識もあった。 ●当初は自分の関心から、旅行関係の草の根BBSにアクセスしたり、セランの中でメールのやりとりなどをしてきたこと、データ入力の仕事が忙しくなってきたので、最近パソコン通信のほうはあまり熱心でなくなっている。 ●大は機械オンチの典型だったが、仕事の関係でワープロを始めざるをえなくなり、最近自分でもさわりはじめたが、まだ初心者。パソコン通信にはまったく関心を示さず、ヤクルト応援団同士のつきあいを楽しんでいる。
8		60代定年夫婦家庭 神山 知美	●電話は1回線でファックスはなし ●パソコン通信を始めて4年目。加入ネットワークは、ニフティとセラン ●海外ニュースが見られるのが魅力で、10年ほど前東急CATVに加入 ●夫婦ともに美術、旅行に関心があり、レーザーディスクも設置	●妻は、ずっと米軍基地で大型コンピュータを駆使して財務のプログラムを作成していたが、数年前実母の介護のため退職。仕事を離れてコンピュータにさわれなくなった寂しさからパソコンを購入、講習会などに参加して勉強する。旅行の予約の必要からパソコン通信を始めるようになり、ニフティ、セランなどにも加入。毎日アクセスし、メールのやりとりや必要なソフトをダウンロードするなど、通信の世界を広げている。 ●現在もっとも力を注いでいるのは、パソコン点訳。セランの中で勉強会を設け、点字とパソコン点訳についての勉強とトレーニングをしている。将来、ボランティア活動を基本としながら、活動費程度は捻出できる組織ができることを願っている。 ●その他、教会活動のボランティア、趣味の書道、パソコン教室の講習会などに参加するため、忙しく充実した日々を過ごしている。
9	CATV視聴家庭	●夫(52歳)、妻(45歳)、娘(23歳)、息子(19歳)の4人家族 ●横浜市緑区在田の「リ」建て在住 ●大はパイロット、妻は専業主婦、娘は大学卒業後、週1回研究室に通う。息子は大学生	●電話はファックス専用も含め2回線。ファックスは夫が会社との連絡用に設置したもの ●2年ほど前、ケーブル設置にともない、東急CATVに加入 ●つい最近、娘の希望でデスクトップ型パソコン(マック)を購入したが、まだ使いこなせていない状態	●東急CATVに加入したのは、夫が野球中継を最後まで観戦したいというのが直接的動機だが、家族それぞれ、映画、衛星放送、海外ニュース、スポーツ、音楽、天気予報など、専門チャンネルを楽しんでおり、完全にCATVは生活の中核に定着している。 ●ホームショッピング、ゲームなど双方方向をきた今後のCATVのニューサービスについては、世代ギャップがあり、母親はビデオ・オン・デマンド以外消極的だが、子どもたちはいずれにも関心と興味を示しており、利用意向はかなり強い。 ●マックはソフトもほとんど組み込んでいないため、まだ「箱」のまま。ただし、パソコン通信を始めたい意向は強い。また大学生の息子も社会人としての必修素養として必要だと感じている。母親自身はパソコン通信に抵抗があるが、子どもたちが体験することは否定しない。
10		小田急CATV視聴家庭 島山 君枝	●電話は1回線。ファックスはなし。二階に子機があるが、子どもたちの部屋にはない ●CATVは新築時に難視聴解消のために契約 ●ワープロは1台 ●息子の部屋にパソコンはあるが、もっぱらゲーム用で通信には利用されていない。娘はパソコンにも通信にも関心なし	●5年前、新築にあたって、難視聴解消のためにCATV加入。妻はそもそもテレビを長時間視聴する習慣がないため、特に多チャンネルの恩恵にこうむってはいない。夫も、在宅時間が少ないため、仕事に必要な最新情報以外には、特にCATVならではのメリットは享受していない。 ●息子と娘はMTVや海外スポーツチャンネルなどを楽しんでおり、より専門的なジャンルのチャンネルが増えることを望んでいる。 ●CATVのニューサービスについては、妻はいずれも、自分の欲求としても、親の視点からしても消極的。特にゲームに対しては、子どものゲームづけを心配して抵抗感が強い。子どもたちは、ホームショッピングとゲームに関しては、程度の差はあれ、それほど積極的ではないが、ビデオ・オン・デマンドに関してはかなり関心が高い。

中村 克己 (77歳/ 無職)



愛用のワープロ、ファックス、電話が並び、資料があふれるダイニングテーブル。毎日、メール交換、文書整理に数時間を費やす

●家族構成

昨秋妻を亡くして以来一人暮らし（子ども3人はそれぞれ独立し、別居）

●居住環境

- ・横浜市港北区大倉山の分譲マンション（築約25年）8階（2LDK）在住
- ・東横線大倉山駅より徒歩10分。閑静な住宅街で、近隣には複数のスーパー、郵便局、医院、銀行などが徒歩圏内にあり、生活には便利な立地
- ・マンションには管理人は常駐しているが、築年数がかなりたっているため火災報知機以外、緊急時のセキュリティシステムなど先端的な情報システムは導入されていない
- ・緊急時には短縮登録された子どもたちにSOS電話をする予定にしている

●情報環境

- ・電話はファックス共用の1回線
- ・愛用のワープロは同じ機種（東芝ルポ）で3台目
- ・パソコン通信（ワープロ通信）は始めて6年目。ニフティサーブに加入し、主に高齢者向けフォーラムをよく利用している
- ・オンラインで通信している時間は毎日20分くらいだが、文書の整理、手紙の返事書きなどに数時間をついやしている
- ・海外の知人とは、電話、ファックスを使い分けて交流している

■■■取材概要■■■

- 大手商社を定年退職後、70歳過ぎまで関連会社に出向して働いていたが、現在は完全リタイア。半年前に妻を亡くして以来、マンションに一人暮らし。3人の子どもたちは、首都圏近郊にそれぞれ独立した世帯を構えているが、日頃の往来はそれほど頻繁ではなく、電話で近況報告しあう程度。
- OB会の幹事を引き受けるなど世話好きで、名簿作成のために、60歳過ぎてからワープロを始める。ニフティ・サーブの講習会に参加したのがきっかけで、70歳過ぎてからパソコン通信のおもしろさに開眼、高齢者向けのフォーラムを中心に積極的に交信を続ける。
- 亡くなった妻ともども積極的にオフラインの会合にも参加し、全国に交流仲間をもつ。また、長年ペンパル活動をしているため、韓国、台湾、アメリカ、ネパールなど世界各地のコミュニケーション仲間とワープロ通信、ファックス、手紙などで交流しあっている。
- 反面、マンションの近隣とはほとんど交流がないが、スーパー、駅、郵便局、銀行などが徒歩圏内にある恵まれた生活立地のため、一人暮らしにも格別の不自由さは感じていない。健康にも不安がないため、子どもとの同居はむろん、高齢者専用マンションなどへの入居も考えていない。
- ワープロで通信する楽しさを高齢者に広めることをめざし、新聞に投稿したり、高齢者向けワープロ教室のモデル役をかって出るなど、啓蒙運動にも熱心。通信をはじめとする情報生活が、毎日の刺激とほりあいになっていることを自認。アメリカへのインターネット経由の交信がもっと簡単にできることを願っている。

1/パソコン通信を始めたきっかけ

中村さんがパソコン通信に出会ったのは、今から6年近く前のこと。大手商社を定年退職後、関連会社を第二の職場としていたとき、同僚ともどもパソコン通信のデモンストラーションに出席したのが、そもそものきっかけ。

もともと世話好きで、OB会の名簿作成やラベル作成をワープロでこまめに手がけていた中村さんにとって、パソコン通信によるコミュニケーションはとても刺激的だったという。

そこで、さっそく秋葉原にモデムを買いに行き、自宅のワープロにつなげ、ニフティ・サーブにも加入し、通信の世界に入ることとなった。ネットワークでニフティを選んだのは、たまたま関連会社の関係によるとのこと。

一般的には、中高年にはキーボード・アレルギーがあると言われるが、還暦を過ぎてワープロを始め、70歳を過ぎて通信を始めた中村さんに、そんな心配はなかったのだろうか。

- まったくありません。だいたい年寄りにはキーボード・アレルギーがあるという先入観が強すぎると思いますね。もともとコミュニケーションすることが目的で始めたのですから、ニフティを通じてメールが送られると、あっ、おもしろいな、という感じで、どんどん興味がわいてきましたよ。

現在、3台目のワープロ（東芝ルポ）を使って通信をしている中村さんにとって、パソコン通信という言葉自体に問題があると語気を強める。

- パソコン通信という言い方に問題があると思うんですよ。パソコンを使わなければ通信できないような、専門的なニュアンスがあるでしょ。あれで、ずいぶん心理的なネックを感じている人が多いと思うんですね。というのも、正確な数字はわかりませんが、ワープロをもっているお年寄りが多いんですよ。たいてい年賀状や名簿を作るくらいで終わってしまって、遊んでいるケースが多い。通信というものがあることは知っていても、ワープロではできないとあきらめている人が多い。
- だけど現実には、私のようにワープロで、しかも1本指打法でも、十分通信が楽しめる。私も朝日新聞の「声」欄にワープロ通信の楽しさを書いて掲載されたところ、たくさんの反響がありましてね。実際に、それで通信を始められた方もいますよ。新聞記者が取材に来て、だから、パソコン通信と言うな、ワープロ通信と言え、と注文を出しているんです。

2/現在の情報生活とパソコン通信利用の仕方

リビングの中央に位置するテーブルには、愛用のワープロ、ファックス、電話がずらりとならび、その周辺を手紙、新聞、雑誌などの資料がところ狭しと取り囲んでおり、オープンスペースはわずか。いわば、このテーブルは食卓兼書斎兼ワークステーション兼情報受発信センター。



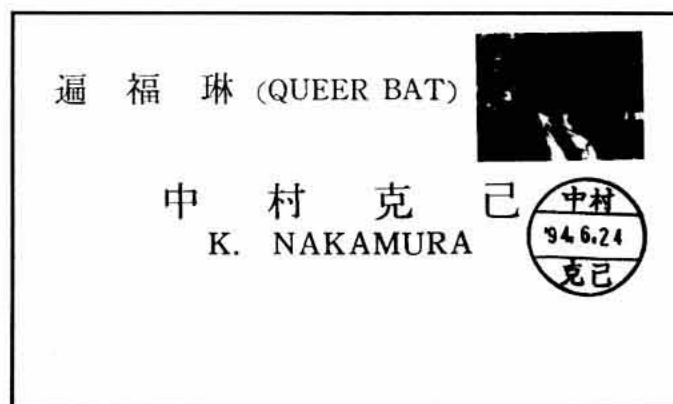
各種情報機器、テレビ、ラジカセ、電気釜が同居するリビング。テーブルは生活の場であると同時に、中村さんの情報受発信センターでもある

現在、中村さんのパソコン通信を含む情報生活および、それにかかるコストは以下の通り。

- オンラインで電話回線とつながっている時間は20分くらい。それ以外に受けた文書を整理して、フロッピーに書き込んでいく作業に半日以上を費やしています。いちいち改行マークや余分なメッセージをはずしたり整理したりしているので。それに新聞もすみからすみまで赤ペン片手に読んでいき、真っ赤になったら捨てるという生活ですから。そういうことにけっこう時間がかかるので退屈する暇はないですが、最近メールが増えてきて、あの人とあの人に返事を書かなくては---とプレッシャーを感じることもありますね。
- 電話代はNTT（通常の電話、パソコン通信、ファックス）、KDDで合わせて毎月2万円くらい。それが高いかどうかは、個人にとって意味があるかどうかですが、まあ、このくらいなら高くはないだろうと思っています。

- 通信以外にデータベースを利用したり、オンラインショッピングをしたり、ということはありません。そういう要求もないので、いろいろなサービスがあることは知っていますが、利用したことはありません。オンライン会議なども参加しません。そんなスピードでは打てないので。

子供の頃からペンパル活動をしている中村さんには、韓国、台湾、ネパール、アメリカなど世界各地にペンフレンドがいるため、その交流に電話、ファックスを活用している。またパソコン通信を通じて知り合った海外の友人とも、メール、ファックスを使い分けながらコミュニケーションしているとのこと。ただし、最近はパソコン通信のメールに追われて、手紙の交流相手にはちょっと対応がおざなりになってしまったと自省気味。さて、中村さんがもっとも積極的に参加しているニフティのフォーラムは、メロウ・フォーラム。メロウとは、円熟を意味する英語。ただし、参加資格に年齢制限はなく、この問題に関心のある人なら、誰でも参加できる。ちなみに中村さんのハンドルネームは「遍福琳」(QUEER BAT)、すなわち変わった蝙蝠の意味とか。いただいた名刺には、肩書きの代わりに、このハンドルネームとIDが大きく記されている。



ハンドルネームが大書された中村さんの名刺（住所、電話、IDは省略）

- 最近、メロウ・フォーラムも参加者が増えてきて、だいたい3000名くらい。ここでの発言をもとに本が出版されるなど活動もさかんです。もっとも私は最近読むことがほとんど。自分ではあまり書き込みしません。ちょっとそんな情熱もなくなってきて。
- メロウ・フォーラムには年齢制限はないんですが、どこか年寄りが集まる部屋を作りたくて、私が発案して、ちょっと過激なような気もしたのですが、還暦をすぎた人だけの部屋も作りました。ここでもいろいろ議論が活発ですよ。

ところで、パソコン通信でのコミュニケーションと他のメディアによるコミュニケーション

ョンとの相違はあるのだろうか。

- 私は、メールのやりとりだけのおもしろさで知らない人とコミュニケーションすることはあまりありません。顔も見ないで字面だけでつきあおうという気はあまり起こりませんね。たしかに文面だけでもおもしろいと思うし、コメントを書いて送ったりすることもあります。情が移るのは、会ってお顔を拝見してからですね。
- 文面だけからでもある程度人柄は推測できるし、それだけでつきあっていくやり方もあるようですが、私はあまり好まないんです。というのは、パソコン通信の覆面性が嫌いなんです。覆面の気安さから、礼儀がなくてもいいとか、暗黙の了解で、嫌なら見なければいいじゃないか、と。そういう割り切りがあるんだと思います。それにハンドルネームに隠れている美しいことを言っても、面をとらないのがどうもね。やはり大正人なんでしょうな。もっと堂々と出てこい、と。その点、もう少しルールがあってしかるべきとは思いますが。
- ただ反対に、パソコン通信をしていて不愉快な経験をしたことはありません。なまじ、そういうことがあったとしても、そういうものに心を動かされるはずはないと思いますね。無視すればいいわけですから。
- フォーラムの個性にもよるんでしょうけど、私のところではとんでもないメールは今のところまずありませんね。常識人がそろっていて、大変なごやかにやっております。ただちょっと最近変な人が入ってきて、悪意をもっていないことは分かるんだけど、常識やマナーを欠いた文面だったりすることはありますね。パソコン通信の世界でも、普通のマナーが通用する世界であってほしいですね。そういう変なところを見たくないから、今のフォーラム以外に行かないというところもあります。

他のネットワークにはあまりアクセスしたことがないと言うが、数回アクセスした神奈川県のK-NET（神奈川県・神奈川県市町村振興協会、および県内の企業・団体の共同出資によって作られた大規模地域ネットワーク）には批判的だ。

- あれは中途半端で非常につまらないですね。数回アクセスしたんですが、中小企業関連の情報が多くて、データを提供するというより、むしろPRするというニュアンスが強い。県がやってくれるなら、参加しましょうという感じで、個人ユーザーにとって楽しめるものではないですね。だから、画面も半分が広告。赤字が累積していると言われるけれど、相手ユーザー

のことを考えない一方的な運営だからでしょう。

実は、中村さんは昨年秋、長年連れ添った奥さんを肺ガンで亡くしているが、生前は中村さんのすすめで奥さんも通信を始め、楽しそうにいろいろな相手とメールのやりとりをしたり、また夫婦でオフラインの出会いを楽しんでいたという。

- 妻はずっと専業主婦でしたから、ワープロなどの機械にさわる体験はまったくなかったけれど、けっこうのめりこむたちでしてね。それに結婚前、英文タイピストの経験もあって、キーボードに慣れていたせいか、私よりは熱心でしたね。メールで知り合った人たちと、いろいろな機会に出会って交流しましたが、それもいつも夫婦で参加したものでしたよ。
- 妻を亡くして半年あまり。最近やっと一人の暮らしに慣れたというか、この生活に座り込めたという感じですね。最初一ヶ月くらいは、どうにも落ち着かなくてとまどいだらけでしたが。

奥さんが肺ガンを真正面から受けとめ、従容として自己の死を受け入れた過程や、家族に支えられて迎えたホスピスでの最期の様子は静かな感動を誘うが、とりあえず本題とは直接の関係がないので割愛。



中村さんがいつも座っている椅子の真正面のテレビの上では、亡くなった妻の遺影がやさしく微笑みかけている

さて3人の子供たちはそれぞれ東京近郊に独立した世帯をかまえている。一人になったとき、子供の誰かと同居する意志はなかったのだろうか。

●いや、それは全然考えませんでした。個人差はあるでしょうけど、私の場合は、全然。一人でやっていく自信があったというより、自然にそう思っちゃったんですね。逆のことは思いつかなかった。というのも、ここはスーパーまで1分、駅も、郵便局も、銀行も、病院もみんな歩いて行ける範囲にありますから、とても住みやすい立地なんですね。ですから、ここを移ろうという気持ちはまずないんです。老人専用マンションなどもよく宣伝していますが、ここを捨ててまでそういうところに入りたいという気持ちはおこりませんねぇ。

●それに昔みたいに、手で洗濯して、一から自分で料理するのなら大変ですけど、今はみんな簡単ですからね。私みたいな大正生まれの男にもできますよ。今のところまったく不自由はありません。

しかし年とともに体力や気力が衰えていくのは、人間の避けられない宿命。そのあたりに不安はないのだろうか。

●いや、そのへんのことも考えたことがないんですよ。どこも悪いところがないので、悪くなった場合の例が浮かんでこないんですね。これまで病気になったことがない。健康診断で高いお金を払って、どこも悪くないと言われるのが腹立たしいほど。これは、私の健康法というより、遺伝的なものでしょう。私の両親も100歳近くまで生きましたし、一族の過去帳を見ても、60代で死んだ人はいない。だから私も後20年は生きるでしょう。

今の生活の中で、パソコン通信が健康法になっている面はあるかもしれない、という。

●パソコン通信が健康の秘訣と思ったことはありませんが、そう言われれば、そうかもしれないと思いますね。これで、新聞も、テレビも、ワープロもなかったら、さあ、どうしようという感じですね。きっと他に趣味を見つけたでしょうが、たまたまこれと出会いましたのでね、今は満足しています。

●もともと私はOB会の幹事を引き受けたり、人との出会いを演出したりとか、つきあうのが好きなので、そのためにはこういう情報機器は大変便利です。それを期待したわけではないですが、結果としてそういうかたちになっています。

子供たちの家庭にもそれぞれパソコン、ワープロはあるが、通常のコミュニケーション

にパソコン通信は利用していない。

- 息子たちは、今はもうビジネスで必要な時代ですからね。自分の家で仕事をすることもあるでしょうし。娘は仕事はしていないけれど、学校のPTA会長をずっとやっているものだから、その関係でワープロはよく使っているようです。
- ただし、子供たちとはワープロ通信はほとんどしません。というのも、今みんな50代で一番忙しいさかりだし、それぞれ子供たちを育てることに夢中なので。たまに電話では伝えられない資料などを通信で送ったりするくらい。あとは電話ですね。でもまあ、こちらからもあまり連絡しませんし、向こうは向こうで親父も連絡がないから、適当にやっているだろうと思っていますよ。

国内的にも国際的にも情報機器を通じての交流のさかんな中村さんだが、対照的に地域とのつきあいはほとんどない。

- それが問題なんです、このマンションには管理組合はあっても、全体で何かしたり交流するようなことはほとんどないんですね。管理組合も輪番で役員をやっているだけで、ほとんどお互いの交流はありませんからね。
- まあ妻が活着ている頃は、それなりに近所とのつきあいもあったんですけど、私のように会社と家との往復だけですと、地域とのつきあいといっても無理なんですよね。となると、男にとって一番頼りになるのは、しようがないけど、会社関係の仲間ということで、それにはパソコン通信が大いに役立っていますね。
- 緊急の場合は、短縮ボタンに登録してある子供たちに電話でSOSするつもり。幸い、まだそのお世話になったことはありませんが。ホームセキュリティも今のところ考えていません。一戸建てに一人暮らしだったら考えたかもしれませんが、ここは管理人のいるマンションで緊急連絡用の火災報知器もついているので、いざというときは何とかなるでしょう。

3/情報化についての今後の展望

今後の抱負についても、中村さんは自分の主張をもっている。

- マルチメディアという言葉が実像としてどこまで理解されているか。ちょっと分かりませんが、あれが実現されると世の中、もっと変わってくるし、大きく言えば、世界平和に通じる可能性はあるような気がします。
- もっとも私自身は、今の文字情報だけで十分で、特にそれ以上の要求はありません。テレビ、電話を使い分けていれば十分です。後は、個人でやらなくても、誰かがそれらをくっつけて提供してくれるのを待っていればいいですからね。私自身は、それほどの有用性を感じませんが、身障者や僻村医療などには効力を発揮するだろうという期待はありますがね。私自身のテーブルに何をもちがらすかについては、あまり期待はありません。

目下、中村さんが取り組んでいるのは、高齢者の通信人口を増やすこと。

- 今高齢者向けのワープロ教室がさかんで、私もよくモデル役でかり出されるんですが、女性が多いですよ。女性8に対して、男性2くらいですか。目的は、社会の窓を広げたいという関心や期待からのようですね。皆さん、大変熱心です。
- ただテレビや電話と比べると、通信を始めるためにはワープロやパソコンを買ったり、モデムをつけたりなどちょっと最初に手間がかかるので、そこがネックになっていることもありますね。でもこれからは、高齢者の通信人口はどんどん増えると思いますよ。若い世代は通信という言葉もみんな知っていますし、もう会社で使っていますから、放っておいても普及するでしょう。私がこれからねらっているのは、だから高齢者世代にもっと通信を広げることなんです。

さらに今後は、パソコンにもチャレンジしてみたいと思っている。

- 私が同じ機種 of ワープロを使っているのは、互換性がないのでしょうかがなく。今までのデータが全く無駄になってしまうのでね。あれはふとどきです。もっともフロッピーは山ほどたまっていますが、実際にはほとんど見ることはないですがね。索引もつけていませんから。

- これからは、ワープロではどうしても限界があるので、できればパソコンが欲しいと思っているんですよ。それから今後の希望としては、アメリカになるべくスイッチを少なく簡単にアクセスできるようにしてほしいということ。今インターネットのことがさかんに言われていますが、よく分からないので、どうやったら簡単にアクセスできるのか知りたいですね。

息子さんから、古くなったパソコンをお下がりでもらいうけることを楽しみにしているという中村さんにとって、当分「老後」の二文字は縁がないようだ。

(取材/1994年7月)

<補記>

その後、インターネットへのアクセス方法を習得した中村さんは、海外とのメールのやりとりもさらに増え、ますます充実したパソコン通信ライフを楽しんでいる。なお、生活日誌では表現しきれない通信への熱い思いをエッセイにしたためていただいたので、あわせて掲載させていただく。

中 村 克 己

横浜：平成6年7月20日

〒150 渋谷区東3-22-9 小倉ビル502

(TEL=03-5466-1751 FAX=1752)

株式会社 ミューズ 御中

題名： 『私 と ワ ー プ ロ 通 信』

停年を昭和50年4月31日に迎えました。59歳になる前日の日付です。入社が昭和10年3月15日でしたから、40年間の一社懸命が終わった訳。転社が昭和50年5月01日。所謂第二の人生を小さな貿易会社で始めた。月給を値切って勝手休みの特権を得たので、元会社のOB会世話人を勤めた。御世話をして居る内に回章、名簿、ラベル等の手書作業が億劫になって来た。自前でワープロ機械なる物を求めたのが昭和61年5月26日、69歳の時。なんとか教室にも通わず、取説相手のポツンポツンが何とか板に付いて来た。便利さに満足して居たが或る時に朝日新聞の「声」欄に投書、活字になった。自分の意見を多くの人々に伝える楽しみが有って而かも何がしかの粗品が！。転機が平成元年6月19日にやって来た。OB会の世話人会議の後である。元会社の情報通信事業部の現役がパソコン通信のデモをやるから是非と言う。初めて見る動く画面である。聞けばNYの今、確かに日付時間が出て居る。子供の頃から続いたペンパル趣味が時間を超越得ると知り大いに心が動いた。早速に秋葉原へ飛んでモデムとソフトを求め再度取説相手の難業が始まった。平成元年11月25日、漸くワープロの画面に文字が走った。嬉しかった。あちらこちらのフォーラムを遍歴し変蝠林と言うハンドル名が通用して来た。家内も興味を示したのでワープロを教え通信を教えY-CATと名乗らせた。オフと言う面接歓談にも出来る限り家内共々参加して、知己の輪が広がった。家内が乳癌の肺転移から余命三年を告知されたのは平成4年6月9日だった。気丈な女で、其の日からホスピス探しを始め出したが、通信は不変続けた。其の間メロウフォーラムの海外交歓で米国の婦人を未見の知己にして終った。Y-CATは平成5年11月6日に清瀬のホスピスで安らかに天国へ逝った。国内は元より、海外からも通信仲間の弔電が山積されて、会葬者を驚かせた。平成5年5月23日に奈良でのオフで撮った笑顔が今壁間から私を見て居る。悲しみの半年が過ぎて平静が戻って来ると普通は孤独が襲って来る筈である。所が、所がである。今私は朝早く独り寝の床から出るや否や飯前が忙しい。ワープロの蓋を開ける。日本中からのメッセージが溢れ零れて来る楽しさ。

此の小さな窓が何百人と言う人々と繋がって居る安心。 退屈無しが明日も。
米国韓国とは今ファックスに頼って居るが、今年中にはラインを構築の心算。
可能性で無く確実性である。 唯もう一足丈け。 世界に窓を開く日が直ぐ。
私達は平成3年2月2日金婚式を祝った。一姫二太郎七人の孫、言う事無し。
然し、家内に逝かれてからは90平米のマンションに独居中。 無聊？否！。
77歳の齢を忘れさせる途が在る。 孤老にも画面に同士。 良き時代也哉。
此の良き途をもっともっと多くの人に教えて上げよう。 生甲斐見付けた！。
横浜*遍 福 琳。



<パソコン通信02>新婚ディンクス家庭

中川 浩之 (仮名/26歳/設計事務所)・綾乃 (仮名/31歳/兼業主婦)



夫の仕事場兼書斎。向かって左側のデスクトップは夫の仕事専用、真ん中の98ノートはパソコン通信用。向かって右側は妻専用のマック

●家族構成

夫 (26歳/設計事務所自営)、妻 (31歳/派遣プログラマー) の二人暮らし。
1年ほど前パソコン通信で出会い結婚したばかり

●居住環境

- ・横浜市中区に分譲マンションの8階在住
- ・横浜の観光ポイント、中華街にも山下公園にもほど近く、最寄り駅は、東横線・JR桜木町駅またはJR関内駅
- ・不慮の事故で車椅子生活を余儀なくされた夫のために、住戸内は段差をなくし、車椅子でも動きやすいレイアウトになっている
- ・夫は在宅でコンピュータCADを利用した設計の仕事に携わり、妻は派遣社員として外でコンピュータでの入力やデザイン処理の仕事をしている

●情報環境

- ・電話回線は、ファックス専用も含め2回線
- ・夫は仕事の関係でニフティ・サーブに入会し、当初はパソコン通信もよく利用していたが、最近はやや遠ざかっている
- ・妻はパソコン通信歴、ネットワーク歴ともに夫より長く、今でもシスオペの補助的な役割もこなしつつ、毎日2時間程度は利用している
- ・1カ月の電話代は1万5000~6000円程度

■■■■取材概要■■■■

■夫は無類のバイク好きで、一時は7台も所有していたが、20歳を過ぎてまもなく、飲酒運転の暴走車に巻き込まれ、以来、車椅子の生活に。もともと機械関係の設計の仕事をしていたが、事故で手足が不自由になったのを契機に、コンピュータのCADシステムを導入し、設計の仕事を再開する。その過程で、建築関係の最新情報を入手するために、ニフティ・サーブに加入。仕事関係の情報摂取のかたわら、パソコン通信も始めるようになる。

■妻は父親の影響もあり、早くからパソコン通信に関心があり、一時はニフティ・サーブ、PC-VANをはじめ、いくつものネットワークに加入し、月10万円以上もかけていたこともあるほどの、自称「さすらいのネットワークャー」。たまたまニフティ・サーブのフォーラムで夫とのメールのやりとりが始まり、何度か会ううちにメールでプロポーズされ、1年前結婚。

■現在夫は、自宅で仕事をしているが、自由に外出できないハンディを克服するための手段として、新書情報や天気予報など必要に応じてパソコンを活用している。しかし、パソコン通信へのマンネリ感から、アクセスの頻度はしだいに減少しつつある。またちょうど入院している間パソコンにさわれなかったことも重なり、パソコン通信を通じてのコミュニケーションではない、人間関係のありかたを模索している。

■外で派遣社員としてコンピュータ入力の仕事をする妻は、私生活でも、自分がシスオペの補助的な役割をつとめるフォーラムの議事進行や個人的なメールのやりとりで、一日数時間はパソコン通信に費やしている。なれあいの関係は認めつつも、今後もパソコン通信でひろがった出会いは大切にしたいと考えている。

1/パソコン通信をはじめるようになったきっかけ

東横線桜木町駅よりバス5分、中華街や山下公園などもっとも横浜らしいたたずまいの一角にあるマンションの8階が中川さん夫妻の住まい。コンピュータのCADで機械や建築の設計を手がける中川さんにとっては、自宅兼仕事場でもある。

現在26歳の浩之さんは、昨年秋に5歳年上の綾乃さんと結婚したばかり。新婚ほやほやの幸せ気分が漂ってくるようだ。しかし、現在の平穏な生活に至るまでには、26歳の青年にしては大変ドラマチックな起伏の多い人生を過ごしている。

もともとバイクが大好きで、一時期は7台も所有していたという浩之さんが、思いもかけない悲劇に遭遇するのは、仕事を始めてしばらくたった頃。飲酒運転の乗用車が突っ込んできて、生死の境をさまよう重傷を負い、一命はとりとめたものの、生涯車椅子の生活を余儀なくされることになってしまったのだ。

20歳を過ぎたばかり、人生にも仕事にも夢と希望にあふれていた青年が、突然車椅子の人生を送らなければならなくなったときの衝撃は想像に難くない。だが、絶望の後、浩之さんの決断は早かった。

夫●怪我をした後は、僕だって何度も死にたいと思ったし、何もやる気にならなくて自暴自棄になった時期もありましたよ。だけど、やはりなんとかして生きていかなければならない。たまたま命はとりとめたけれど、これからずっとこのまま何もしないでいるわけにもいかない。そう思ったとき、コンピュータにたどりついたわけです。

●というのも、たまたま事故にあう直前、仕事の関係で出入りしていた会社で、これからはコンピュータでデザインや設計をしようという話になっていて、自分でも研究し、機械を入れようと思っていた矢先だったんです。だから、怪我をした後、自分では歩けないし、手の自由もあまりきかなくなったので、CADを仕事に導入することにしました。

●それまでは、仕事の関係でワープロをさわっていたり、ちょっとしたグラフィックのデザインをコンピュータでしていたくらいで、ほとんど知識もなかったけれど、それから自分で勉強しました。パソコン通信を始めたのも、たまたまニフティ・サーブに建築フォーラムというものがあるって、そこでいろいろ情報がえられたり、ソフトがただで使えたりするということを知ったからなんです。

怪我をする前は、パソコンにもパソコン通信にもほとんど関心がなかったという浩之さん、せいぜい電機屋でワープロでも通信できるということを知った程度だったという。

- だから、最初はあまり積極的ではなくて、パソコンは3年くらい前にモデムと一緒に購入したけれど、半年くらいはほったらかし。ニフティに加入したのは、2年くらい前ですね。
- 加入してからは、最初は建築フォーラムにアクセスして、仕事関係の情報を求めています。だんだん興味が出てきて、歴史関係など他のフォーラムにも出入りするようになったんですね。その一つが、世紀末フォーラム。
- これは名前だけはすごいけど、まあ要するに雑談の会議室みたいなもので、オカルトや精神世界の話からバイクまで、ありとあらゆるテーマがあっっておもしろかったんですね。当時は今と違って、あまり専門的な議論より、雑談的なおしゃべりの雰囲気が強くて、僕も書き込みしたりリアルタイムの会議に参加したりと、けっこう遊んでいました。一時期は電話代が月に3万円くらいかかったこともありますよ。これは一度で反省して、やめましたけどね。

こうしてパソコン通信の世界に入り、自分の仕事場にいながらにして、仕事の情報やデータを入手したりと、通信ならではのネットワークの中で交流の輪を広げていった浩之さんだが、彼にもたらしたものは、それだけにとどまらなかった。なんと、綾乃さんとの出会いも、世紀末フォーラムの中だったのだ。

- 妻●私はたまたまそのフォーラムで、副議長という聞こえはいいけれど、まあシスオペのお手伝いのようなことをしていて、それで送られてきたメールを見たのが最初のきっかけだったんです。たまたま私もバイクを買ったばかりだったので、バイクの話には興味があったものですから、それで意気投合するようになったんです。

浩之さんに比べると、綾乃さんのパソコン歴は相当年季が入っている。独身時代から含めると、すでに10年以上になるという。

- 妻●自宅に父が使っていたパソコンがあって、私も最初はワープロとしてしか使ってなかったんですね。たとえば私は小さな劇団に所属していたので、台本を打つとかね。でも、それだけじゃつまらない、何かパソコンでしかできないことはないだろうかと思ったとき、パソコン通信のこと

を知って、それで通信を始めるようになったんです。今でも仕事は、派遣先でのコンピュータによる入力処理とデザイン処理なので、いつもパソコンにさわっているという感じです。

このようにコンピュータに対する習熟度もパソコン通信の経験年数も異なる二人が実際に会えるのは、浩之さんが通信を始めてしばらくたった頃。

夫●それまでもバイクのアドバイスをしたり、もう僕に着られなくなった皮ジャンをあげようかなどのやりとりはしていたけれど、実際に会ったのは、僕の母が絵を美術展に出品した一昨年の晩秋のこと。それを機会に何人かでオフをしようということになって、そのときが出会いでした。

妻●実際に会ったときの印象は、ずいぶん人見知りするおとなしい人だということ。だって、パソコン通信ではずいぶん雄弁だったし、年よりずっと大人っぽいことを書いていたんですよ。

浩之さんに言わせれば、パソコン通信を始めてまもなくだったため、どういう人がパソコン通信に参加しているか見当もつかず、したがってオフでどうふるまっていたか分からず、それでおとなしくしていたとのこと。しかし、ここでも浩之さんの決断は早かった。

妻●しばらくした頃、いきなりメールでプロポーズされたんです。それまでそんなそぶりはまったくなかったので、「この人は、いったい何を言っているんだろう」という感じでした。パソコン通信で知り合って一度も会わずに結婚した例なども聞いていましたが、私自身、そんなことは大嫌いで、まさか自分がそういう結婚をするとは夢にも思っていませんでした。今でも信じられないという気持ちですけどね。

しかし最終的には、年下にもかかわらず、きちんと自分の考えをもっていることに共鳴した綾乃さんがプロポーズを受け入れ、その後いくつかのハードルを乗り越え、めでたく昨年秋ゴールインすることになった。このあたりについて、照れ屋らしい浩之さんは「24歳でしたからね。はずみですよ、はずみ」と言うだけで、あまり多くは語ろうとしない。

2/現在の情報生活

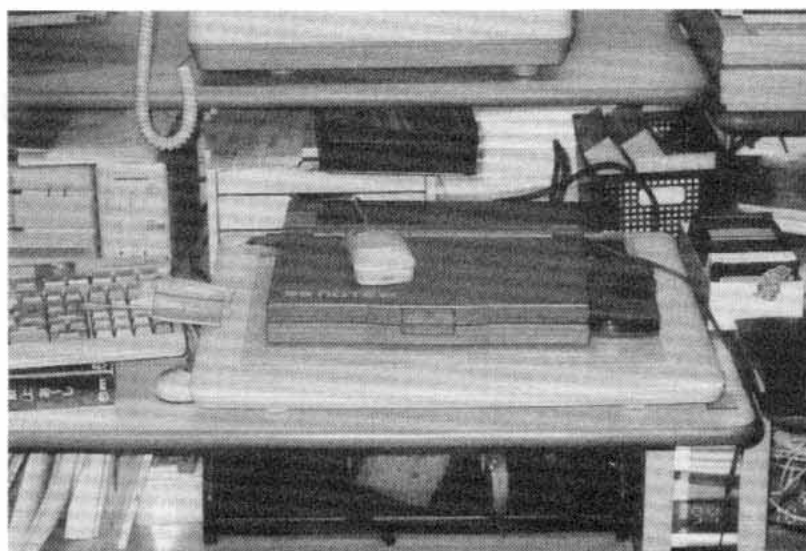
自由に外出することが困難で、自宅で仕事をしている浩之さんにとって、いながらにして欲しい情報が入手できるパソコン通信は当初自分の生活に役立つものだったという。

夫●普通の人ちょっと本屋で本を調べようということが僕の場合できないわけだから、データベースで情報を検索したり、テーマ別の会議室で専門的なことをたずねれば、誰かが答えてくれるパソコン通信は大変役にたつものでした。

●以前は仕事や気晴らしで数時間利用していたし、リアルタイムの会議にも参加したこともあるけれど、今は落ちついてきて、オンラインでつながっている時間が15分、それ以外に文書などを読んでいる時間も含めて1時間くらいかな。

また綾乃さんは、現在も世紀末フォーラムの副議長役をつとめているため、平均2時間程度は画面を操作しているという。ちなみに、夫はNEC98ノート、妻はMacのため、パソコンの使用時間を調整する必要はないとのこと。

妻●私が通信するのは、深夜11時すぎか早朝、だいたい通算すると2時間くらいですね。リアルタイムの会議なんかに参加するときは、あっという間に何時間もたってしまうと驚くことがあるけれど。



夫がパソコン通信に利用する98ノート。手が不自由なので、マウスのほか、キータッチをサポートする道具も利用している

現在、中川家は電話とファックスと2回線で、パソコン通信はファックス回線で行っているが、電話代はあわせて1万5000～6000円程度。ニフティ料金とあわせても、2万円弱という。しかし、独身時代の綾乃さんは、自他ともに認める「さすらいのネットワークカー」。いくつものネットワークに加入し、一時期は課金がすさまじかったという。

妻●加入したネットワークで言えば、PC-VAN、アスキー、EYE-NET、それに英語教育関連のアルクという会社が主宰しているネットと、いくつもやってみました。アルクのネットは英語の書き込みのレベルが高くておもしろかったので、多いときは、1カ月10万円くらい払ったこともありますよ。

●だけど、他のネットはほとんどができたばかりということもあって、内容つまらないものが多かったんですね。それにPC-VANもアスキーも、なかなかつながらなくて、たまにつながっても、ものすごく専門的な固い話ばかりで、普通の私たちみたいな人が入れる場がなくて、それで結局ニフティに落ちついています。

ニフティの他には、神奈川県のK-NETに形式的に加入している程度という浩之さんは、妻の意外な前歴に「ネットワークおたく」と少々あきれ顔。

夫●K-NETに加入したのは、たまたま1年くらい前、新聞の全面広告で大々的に宣伝しているのを見て、ちょっと興味をひかれて。でも、だいたいニフティにあるのと同じ情報だし、県内情報といっても、画像情報はものすごく時間がかかってイライラするので、ほとんど利用していません。そんな程度です。

3/情報化についての今後の展望

さて、浩之さんは、この夏結石のため3週間ほど入院生活を送らざるをえなくなった。週末の一時帰宅のとき以外、パソコン通信ができなかった浩之さんだが、その期間、情報欠乏症にはならなかったのだろうか。パソコン通信が生活の中に定着しているだけに、きっと不便だったのではという問いに対して、意外な答えが返ってきた。

夫●いや、全然それはなかったです。3カ月前だったら、そうだったかもしれないけど、今はパソコン通信の利用の仕方や考え方がちょっと変わってきたんだと思うんです。それまではたしかに、フォーラムに参加したりメールを書いたり、リアルタイムの会議に参加したり、データベースを利用したりと多面的に利用していたけれど、ちょっとマンネリ化している気がするんです。どうしてもメンバーが固定してきて、なれあいになってしまう面があるんですね。

●たまたまそういうとき入院することになったんですが、入院してみると、病院というところは、ある種社会の縮図みたいなところがあって、いろんな人に出会える。そこで出会った人と、いろんな話ができましたが、今の僕にとってはものすごく意味があったんです。それは、パソコン通信で知り合った、共通の関心がある人たちとはまた違った出会いですね。

●だから、これからは今までのように、気晴らしのために漫然とパソコン通信を利用するのではなく、本当に自分にとって必要な部分でのみ利用していくことになると思います。たとえばもっと手軽に図面データが送受信できるようになればうれしいし、そういう点での充実はしてほしいですね。ただし、それは今のニフティのような商用ネットワークでは無理じゃないかな。金にならないことはやらないでしょうからね。かといって草の根BBSでは、資金的に無理がありますよね。

綾乃さんも、自ら参加するフォーラムがなれあいの的であることは認めつつ、今後も生活の中に定着したメディアとして利用していくだろうとしている。

妻●現在、積極的に参加している人はだいたい20人程度。3、4カ月のサイクルで、メンバーが入れ替わることが多いんですね。ひとしきり参加して盛り上がって、さあといなくなって、また別の人たちが参加して……という繰り返し。何か月かパソコン通信にかかわっているうちに、今度

は現実世界にそれを投影させたり、あるいは現実世界が忙しくて通信世界から離れたり、またしばらくして戻ってきたりというゆさぶりがあるみたい。

- ただ私はもうコンピュータとのつきあいが長いし、通信をしていなければ出会えていない多くの人にも出会えたので、これからも生活の一部として続けていくとは思います。



仕事場から見たリビングの一角。家中におかれたぬいぐるみは、夫の趣味

長期化する不況の余波をもろに受け、最盛期の5分の1に仕事が激減したという浩之さんにとって、今は一生かけてできるライフワークを模索中とのこと。おぼろげながら、それが絵にかかわる分野だとかみかけている今、浩之さんにとって必要なのは、パソコン通信の中で出会う仮想的な関係ではなく、むしろ対面的な関係の中で築かれるコネだという。

浩之さんが今もっとも傾倒しているのは、彼が愛情をこめて「風変わりなおっさん」と呼ぶ人物。すぐ近くでモーターショップを経営するこの人物こそ、幻のバイクグループ「ケンタウロス」を率い、その世界では知る人ぞ知る教祖的存在の飯田繁男氏。バイク乗りは現代の騎士たれという独特の美学と、体型さながらの包容力に惹かれて、20年間で全国からのべ2万人のライダーがはせ参じたという飯田氏のもとへ、浩之さんもしばしば顔を出して、ロック・アーティストから能の家元、さらには政財界の要人まで多くのユニークな人たちとの出会いを広げている。

夫●一言で言ってしまうえば、バイク屋のおやじなただけど、この人は、いろ

んな人をひきつける磁力をもっている。僕がかつてパソコン通信で求めた広がり、この親父は、自らの肉体と精神で実現しているところが本当にすごい。僕がこれからやろうとしていることも、言葉は悪いかもしれないけれど、そういう人脈で磨かれることが多いと思うんです。それも、ちょっとパソコン通信に対する見方が変わってきた原因かもしれません。

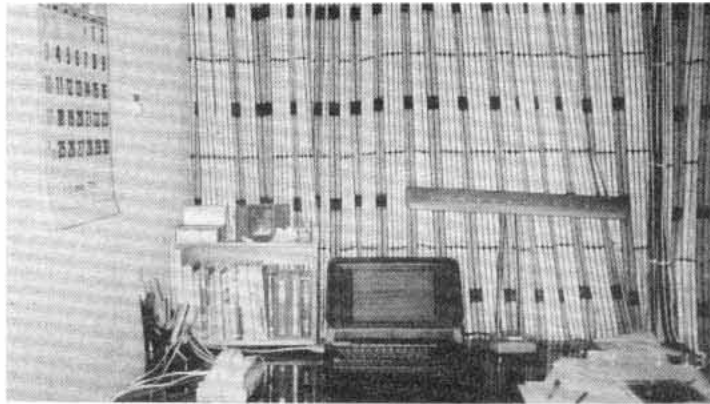
- もちろん、どこかへ遊びに行くときホテル情報や気象情報をすぐ調べられたり、人物データを検索できるなど、パソコン通信はやはり便利だから、これからも利用することはしますけどね。

怪我を契機にパソコン通信の世界に入り、通信ネットワークで広がった浩之さんの人生は、何度かの転機を経て、今また別の新たなステージを迎えようとしている。

(取材／1994年9月)

<パソコン通信03> 50代定年夫婦家庭

朝比奈 悠一（仮名/58歳/無職）



書斎兼寝室。毎朝7時半頃ワープロのスイッチを入れて、アクセスし、文章を閲覧するのが日課に

●家族構成

夫（無職/58歳）、妻（専業主婦/55歳）の二人暮らし（子ども2人はそれぞれ独立し、別居）

●居住環境

- ・横浜市港北区の一戸建て（築約25年）在住。約50坪の家庭菜園つき
- ・東横線綱島駅よりバス10分、徒歩5分。高台にある東急電鉄系のニュータウンの一角。住宅街のため、近隣には小規模の商店が散在する程度
- ・大手コンピュータ会社を早期定年退職後、晴耕雨読の生活でほとんどの時間を自宅の居間で過ごす

●情報環境

- ・電話は1回線。黒電話が玄関に置かれ、通信には2階の書斎の子機を利用
- ・ワープロは息子のおさがりのもの（カシオ）で1台目
- ・パソコン通信（ワープロ通信）は始めて2カ月。ニフティ・サーブに加入し、高齢者向けフォーラム、モデム関係のフォーラムを利用している
- ・オンラインで通信している時間は毎日5分くらいだが、文書の閲覧、整理、に1時間くらい費やしている
- ・1カ月の情報関連費のうち、電話代は平均5000円。パソコン通信を始めてからの増加分は約2000円だが、今後は1000円程度ですむと予測

■■■取材概要■■■

- 技術畑一筋で30有余年勤めた世界的コンピュータメーカーを55歳で退職して以来、悠々自適の生活。55～60歳の選択定年制のうちもっとも早期の55歳で退職したのは、効率本位の仕事のあり方に疑問を感じたからという。現在は50坪の家庭菜園に囲まれ、晴耕雨読の生活を送る。「時間もち」「自然もち」をモットーに、無駄なモノは買わない、余分なモノは拒否する、資源のリサイクルに努めるなど徹底したエコライフを実践する。
- 新聞の投書欄でワープロ通信に関心を持ち、1994年4月末ニフティ・サーブに入会、息子のおさがりのワープロで通信を始める。まだ日が浅いせいもあり、ほとんど自分で発言することはなく、他人の意見を読んでいる程度。特定、不特定も含めてメール交換もほとんどしていない。またオフラインの交流にも参加した経験はない。一日の通信時間はせいぜい5分のため、パソコン通信を始めてからも、毎月の電話代にはほとんど変化がなく、通常の5000円から若干アップした程度。今後とも多くて1000円程度のアップと予測する。
- 2人の子どもはそれぞれ就職、結婚で離れて住んでいるが、家族のコミュニケーションにパソコン通信を利用することはまったくなく、100%電話で行われている。また夫が終日家にいるようになってから、逆に語学、ヨガなどでよく外出するようになった妻も、パソコン通信にはまったく関心がない。
- 地域の中で高齢者の役にたちたいと願い、近所でワープロを教えてあげることもある。できれば携帯型で手軽に持ち運べ、どこでもデモンストレーションができるパソコンを欲しいと願っている。その意味で、パソコン通信は自分の生活に意味があると感じ、将来もなるべく節約しながら利用したいと考えている。

1/パソコン通信を始めたきっかけ

東横線綱島駅からバスで10分余。幹線道路から東急系の団地に上がる坂道の入り口近くに、朝比奈悠一さんの家がある。開け放たれた座敷の庭つづきにある50坪近い菜園には、なす、トマト、きゅうりなどの夏野菜が豊かに実り、さらにその先には、はるかに綱島市街が広がっている。歓楽街として知られる綱島の喧騒からわずかに離れているだけと思えないほど、静かな別世界がひっそりと息づいている。現在、息子は北海道で就職、娘は結婚して横浜市内に在住しており、目下は妻と二人、穏やかな生活を送る朝比奈さんだが、ここに至るまでに大きな転機があった。

某世界的なコンピュータメーカーを55歳で早期定年退職した朝比奈さんが、晴耕雨読の生活に入って3年余。もともと技術畑一筋で30年間を過ごしたが、最後の頃、オフィス効率化のプログラムやマーケティングの仕事に回されたのが、55歳で退職を選ぶ直接のきっかけになった。

●私は技術系でしたが、その道を選べるのは、ごくごく限られた人だけになってしまったんですね。技術自体は好きでしたが、情報化のための効率的なシステムづくりは、もうやりたくないと感じましてね。55歳から60歳までの間に退職を選べる時期になって、別の生き方をしてみたい、もっと違う社会のしくみの中で生きたいと願って、退職の道を選びました。先日58歳で退職した人に会ったとき、老残をさらしたくないと言ってましたが、まあ、そういうことですね。

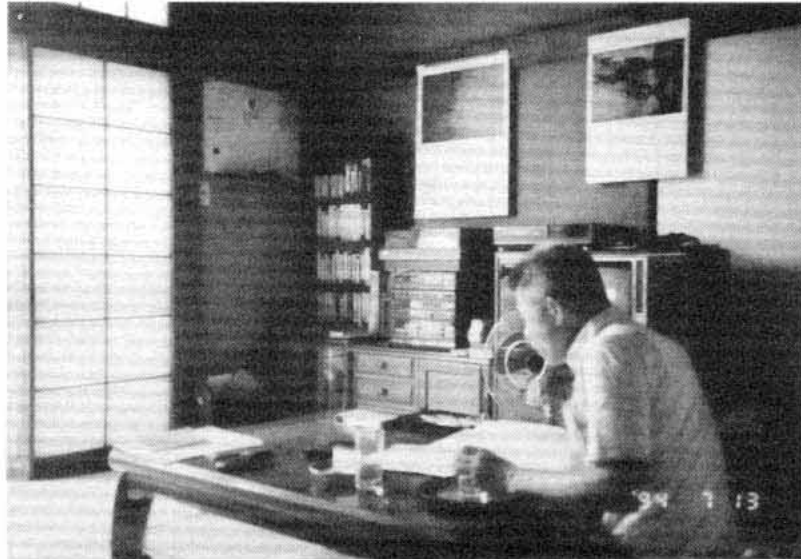
●たまたま持ち家に加えて、50坪近い家庭菜園もあり、子どもたちもそれぞれ成人していたので、生活のめどはたったと思い、退職したわけです。

こうして、組織と時間の拘束から解放され、「自然もち」「時間もち」になった朝比奈さんの一日は、かくのごとく、きわめてゆったりとしたリズムの中でたゆたうように流れている。

●ほとんど家において、だいたい三食家で食べます。きまって外出するのは、週2回の水泳だけで、後はちょっとした用事で、近所や横浜、東京に出かけるくらい。だいたい家の中、それもこのテレビのある畳の部屋で過ごしています。

●忙しい方から見れば、おかしいような生活ですよ。食事に1時間ずつくらいかけますしね。朝の8時頃からゆっくり1時間くらいかけてごはんを食べ、午前中くらいはだいたい新聞を読んでいることが多いですね。場合に

よっては、午後までかかって読んでいることもありますよ。それも「朝日新聞」だけ。ごはんを食べ、新聞読んだり、テレビを見ながら2時間くらいかけて歯磨きしていることもありますよ。



朝比奈さんが一日の大半を過ごす座敷。12年前に購入した家具調テレビ、ビデオデッキが並ぶ。テレビはほとんどNHKニュースか教養番組のみ。

そんな朝比奈さんがパソコン通信を始めるようになったのは、今回の調査にも登場する中村克巳さんの「朝日新聞」投書欄を読んだのがきっかけ。いくつになっても、寝たきりになってもワープロ通信は世界を広げるという中村さんの主旨に賛同して、わざわざ自宅までたずねていったという。

- 私はなるべく地域の中でお年寄りの手助けをしたいと考えていて、パソコン通信も、自分がやるというより、お年寄りに教えてさしあげたいと思ったものですから。それで電話回線を使うので、コストがどのくらいかかるか気になったんですね。で、中村さんに電話して相談したり、実際に動かしてもらうためにたずねて行ったりしたわけです。

もともと社内でコンピュータを使ったビジネスの通信には慣れていただけに、機械の操作についての抵抗や不安はなかった。息子が卒論制作に使用したワープロ（カシオ）が余っていたのを幸い、今年4月末にニフティ・サーブに入会し、通信の世界をのぞくようになった。

2/現在の情報生活とパソコン通信利用の仕方

朝比奈さんがもっぱら通信のために使っているのは、2階の寝室兼書斎。菜園に面したデスクにモデムを接続したワープロが置かれている。電話は1回線。失礼ながら、いまだき珍しい黒電話が、これまた今どき珍しく玄関の下駄箱の上に置かれている。したがってパソコン通信をするときは、書斎の子機を通じて行なわれることになる。



玄関のげた箱に置かれた黒電話。通常はこの電話を使い、通信のときは、二階の子機とモデムを使う。

現在、よく利用しているのは、中村さんのすすめもあり、中・高年向け会議室メロウ・フォーラムと、モデム関係の情報を知るための会議室、それに現在の自分の生活の関心から、食と農業に関するフォーラムなど。もっとも日が浅いせいもあり、他人の発言を読むだけの、いわゆるROM（リード・オンリー・メンバー）とか。

●私はほとんど読むだけで、相手の発言に対するコメントは一回もしたことがありません。特定の人とのメール交換もしていません。元と同僚もコンピュータメーカーなのに、パソコン通信をはじめようという人がほとんどいないんですね。やはり機械に対する抵抗のある世代なんでしょうね。パソコン通信するかどうかは、ビデオの操作ができるかどうかの一つのメルクマールになるような気がします。そのくらいの好奇心と機械に対する慣れがないと、子どもにまかせきりというようでは、パソコン通信は始められないでしょうね。女房なんかはまったく関心がありませんね。

●もともとモデム関係のフォーラムに入ったのは、文字化けの解消のため

に、何か情報がえられないかと思ったからなんです。カシオのこの機種で通信している人は非常に少ないんじゃないでしょうか。だからメーカーの人も、通信に関しては的確な指示が出せないんですね。そういう意味で、ここでの情報を読むと参考になるのでは、と思ったものですから。

- ただモデムについて、一度だけ自分から書き込みをしたことがあります。それはたまたま、電話でおもしろいことを発見したんです。子供から電話がかかったとき、下で女房が受話器をとり、話しているとしますね。そのとき二階にいる私も話したくなったら子機を使って、三者電話みたいに話ができる。で、女房が電話を切ってもまだ私とはつながっていて、話ができる。そういう使い方を発見したんです。これは親子電話ではない。私は勝手に兄弟電話だと呼んでいるんですが、で、モデムをうまく使うとこういう利用ができるということを、モデム関係のフォーラムに書き込みしたことがあります。残念ながら、反応はなかったですけどね。

草の根市民運動でも最近、パソコン通信が、中間の情報交換や交流に大きな力を発揮しているが、朝比奈さんは今のところそういう目的のために通信を利用したことはないという。

- 市民運動をしている会などものぞいて意見などを読んだりするのですが、どうも、いまひとつピンとこないというか、どうしても自分が発言したくなるような意見がないんですね。だから今のところ、他人の発言を読んでいるだけです。多くの人がいろんなレベルで参加しているから、本当に自分の欲しい情報を手に入れるのは難しいんですね。

またオフラインの交流にも、参加したい気持ちはあるが、参加したことはないとのこと。

- どなたか知っている人が中心になって近くでやられていれば参加してみたいと思いますが、今のところはありません。市民運動のフォーラムなどに参加しているのも、できれば同じ考えの仲間を作りたいという期待もあるのですが。

通信時間が短いため、電話代もほとんど以前と変わらないだろうという。

- 今、毎日実際に通信している時間は、せいぜい5分。電話代はパソコン通信を始める前で、だいたい1ヶ月5000円くらい。通信を始めてから2000円ほど増加しましたが、今後は毎月1000円くらいのアップですむと思います。

- その他、文章を読んだり整理したりするのに1時間くらいかけます。最初の頃はおもしろくてしょっちゅうプリントアウトしていたんですが、あつという間にリボンがなくなってしまって、今は大事なものの以外ほとんどプリントアウトしないで、画面で読むだけです。ただ一応すべてフロッピーに保存しておくようにはしています。どうしても必要だと思うものは、さらに編集して別のフロッピーにとっておきます。それは将来何かに使おうというより、やりとりの確認のためです。

パソコン通信を始めてまだ日が浅い朝比奈さんだが、自分の生活には意味があると感じているという。

- いつも読んでいる中で、話題が豊富、博識、発想がユニークと、とにかく書いていることがおもしろい人がいるんですね。続けて読んでみると、62歳、杉並在住、ODA経験のある建築家らしいんですが、この人の書く内容がおもしろいからというのが、通信を続けている一つの理由です。
- もう一つは、ファックス。今ファックスがあると便利ということが多いので、ニフティのファックス送信サービスはよく使っています。もっぱら送信専門なんですけど、どうしても受信したい場合は、歩いて5分くらいの酒屋さんで受けてもらうように頼んでいます。電話は黒電話でいいと思っているほうなので、あえて自分で買おうという気はないんです。もちろん誰かがくれると言えはもらって使いますが、ファックスを入れると、専用電話回線が欲しくなるような気がします。送るほうにしても、専用ファックスなら気軽に送信できますが、切り替え式だとあまり気軽には送信できませんから。

パソコン通信ならではの魅力は、どんなところにあると感じているのだろうか。

- 今定期的にメールのやりとりをしている人はいませんが、たまたま事情があって、先ほどお話した杉並の方にあいさつメールを送ったことがあります。その後、兄弟電話の話をメールというかたちで送りましたが、それは返事がなくそれっきりになっています。パソコン通信はこのように知らない相手にも気軽にメールを送れますよね。用事の必然性があるときは、電話かファックスが便利ですが、ちょっとした思いつきやあいさつなどは、いつ読んでもいいメールで送っておくほうが、お互いに負担が少ないですよ。そのへんはかなり違うという意識があります。それにパソコン通信は相手がいつ読んだかまで確認できますが、ファックスだと相手が不在で読んでなくても分からないですよ。

- それに私は必ず一度文章を作成してから送りますので、文章を推敲して無駄な表現をしなくなるような気がします。電話でだらだらしゃべっているのとは違いますね。また、インターネットが使えるのも、パソコン通信ならではですね。私は英語がダメなので、今のところ海外との交流はありませんが。

ただし、逆に不愉快な思いも体験させられている。

- 他からメッセージが届くのは誰でもうれしいですよ。だから期待して読むんですが、一度あやしげな勧誘があって、ちょっと気分が悪くなりました。もちろん放置したので、それ以上の実害はありませんでしたが。

パソコン通信の特徴の一つである匿名性については、特に拒絶反応はないようだ。

- たしかになぜ本名でなくハンドルネームかと思ったことはあるし、逆に、ハンドルという言葉づかいがおもしろいと思うところもありますね。なぜかニックネームとは言わないんですね。何か役柄を時に応じて使い分け、自由にこなすというイメージがありますね。私自身は実名でしか参加していないのですが、なにかいいネームがあれば使ってみたい気もあります。
- フォーラムのシスオペ（システム・オペレーター）もハンドルネームをもって、くだけた雰囲気のはだんはそれで発言していますが、シスオペとしてきちんと発言すべきときは本名を使っているんですね。そういうふうに状況と気分に応じて使い分けている面があると思います。

離れて住んでいる家族のコミュニケーションにもパソコン通信は有用だが、朝比奈家では利用していない。

- 子供たちとのコミュニケーションは100パーセント電話ですね。息子はマックのパワーブックを買って北海道に行きましたが、通信はしていません。私がニフティに加入申し込みをして通信するように仕向けたのですが、やっていないようです。パソコンを買う口実にただけでしょうね。息子は、早稲田の人間科学部を卒業しましたが、あそこではもうパソコンは必修でしたね。
- 娘は結婚してからも司書として働いていて、仕事柄、自宅でもワープロを利用しているようですが、通信はしていませんね。婿は会社でパソコン通

信を使っていて、私も彼の関係で一度インターネットにアクセスさせてもらったことがありますが、いわゆるパソコン通信はしていません。

さて、朝比奈さんは、きわめて明確なポリシーのある生活をしている。いわゆるエコロジーライフの実践がそれ。缶ビール、缶ジュースなどはいっさい買わない、どこからともなく大量に届くDMは受け取りを拒否し、郵便局に届ける、クルマには乗らないなどを日常的に実践するほか、自分でも尿尿を利用したエネルギー開発の実験に取り組んでいる。こうした生き方は、しばらく前、地元の神奈川新聞にシリーズで掲載されたほど。週2回通う水泳の水着も息子のおさがりを着用するほど、なるべく物は買わないというポリシーを貫く朝比奈さんにとって、オンラインショッピングなどパソコン通信の他のサービスはほとんど関心がない。

- 少なくともオンラインショッピングはいやなのでやりません。もともと物は買わないで、なるべくある物ですませる主義ですから、そもそもショッピングというのは、私のスタイルにあわないですよ。私に言わせると、ああいうのは、よけいなものを押しつけている感じですよ。なにしろテレビもほとんどNHKしか見ませんが、それでも繰り返し衛星放送の commercials をしていると、音声も消してしまうほうですから。
- ただデータベースは必要なら使うと思いますが、今のところは使ったことがありません。会社にいる頃はときどき使っていましたから、便利さはよく分かっていますので。世の中がどう変わっても、必要な情報はとりますが、生活スタイルは守っていくと思います。意図して努力しているというより、そういうスタイルがもう身についているということかもしれません。

そうした生き方をする朝比奈さんにとって、今日のような情報化社会には危惧もある。

- これから操作が楽になる方向で考えられているようですが、私はいまくらいでいいんじゃないかと思うんですよ。使いやすくするのはいいのですが、なまじそのためにメモリーが大きくなるようなら、資源の無駄づかいになるわけですよ。というのも、ICを作るのにものすごく資源を使いますから。いったん出来上がると、通信自体はそれほど資源を食わないですがね。

3/今後の情報生活についての展望

今後、自分と情報機器とのかかわりとして、朝比奈さんは次のような点を指摘する。

- これから私の生活にパソコン通信は定着すると思います。ニフティにとってはあまりいいお客ではないと思うけれど、なるべく効率的に使って情報をえようと思います。メール交換とファックス・サービスは特に利用したいですね。
- 将来的にはパソコンが欲しいと思っているんですが、できれば15万円くらいで、通信、ワープロ機能と、ひとつおりのことができるものが欲しいんですね。今でもワープロを教えてあげることもあるんですが、将来もっと教えやすいように、買うとしたら携帯型で、気軽に持ち歩いて、他の人にデモンストレーションできるようなのがいいですね。ただ携帯といっても、あまり画面が小さいと年齢的に見づらいので、そこそこの大きさは必要ですが。
- 最近朝日新聞などでも投稿を、電話、ファックスに加えて、パソコン通信で募集するようになっていきますね。今度IBMがピープルというネットワークを始めますが、あれにパソコン通信による問い合わせ方法がない。事務局に申し入れているのですが、なぜパソコン通信を始めようというのに、それがいいのか不思議です。ぜひ今後はいろいろなところで、パソコン通信によるアクセスをもちこんでほしいですね。

ところで、夫が定年退職後、終日家にいるという状態は、「亭主元気で留守がいい」妻にとっては、それなりにプレッシャーがかかるものだが、朝比奈家ではどうか。

- だから、私がか家にいるようになって、専業主婦だった妻がか家を空けるようになりました。今は、週2回のフランス語、週1回のヨガなどで、昼間は3～4日は出かけてます。フランス語も一つは上智大学の社会人講座、もう一つは横浜の会話学校、ヨガは地区センターです。フランス語は将来のため？ いえいえ、単なるボケ防止ですよ。ただ私がかずっと家にいるので、ちょっとうっとうしいんじゃないですか。私はたいていこの座敷のテレビの前にいるし、そこは妻も一番くつろぐ場所なので、そこにいたいんですね。だから、私がかいるときは、二階にいてほしいようなそぶりをします。
- 共通の趣味もまったくないんです。一緒にテレビを見るのも、食事のとき

のニュースくらいですかね。ただ、千葉に300坪ほどの土地を持っていて、将来畑にするつもりですが、とりあえず手入れや植栽をしなければならないので、そのときは一緒に出かけて作業をします。1カ月に1回くらいですが、そばに建てたプレハブに泊まっています。

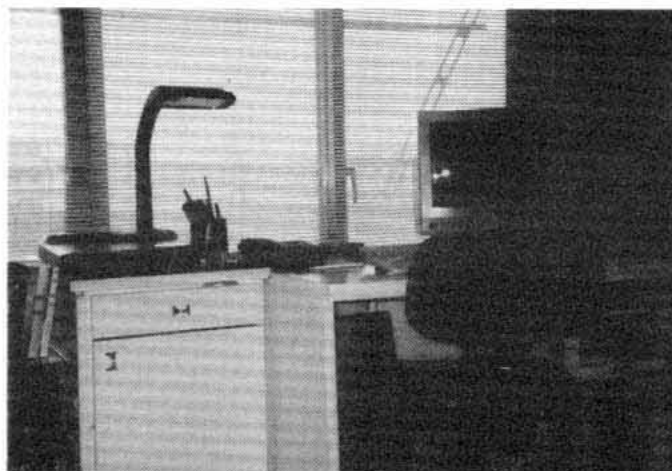
- このご近所だけで私が知っているかぎり、何人もご主人や奥さんが寝たきりや車椅子という方がいらっしゃるんですね。そういう方たちに、何かしてあげたいと思うんですが、なかなか自分から病人のことをおっしゃらなかったりで、立ち入るのは難しいですね。

ある世代が機械に弱いかどうかのメルクマールはビデオを自由に操作できるかどうか、また、一人で定年後の時間が過ごせるかどうかは、妻のいない昼食を自分でなんとかできるかどうかという朝比奈さん。この二つはいずれもクリアしているが、地域の中でお年寄りの役にたちたいという願いは、近隣づきあいの難しさやプライバシーの壁にはばまれて、今のところ不完全燃焼にとどまっているようだ。

(取材／1994年7月)

<パソコン通信 04 > 40代インストラクター家庭

小森 冴子 (仮名/45歳/兼業主婦)



広めのリビングの一角、ベランダに面した明るいワーキングコーナー。電話、フックスなどもまとめて置かれている

●家族構成

夫 (50歳/医薬品メーカー勤務、名古屋に単身赴任中)、妻 (45歳/パソコン教室インストラクター)、高校生の息子と娘、妻の両親の6人家族

●居住環境

- ・神奈川県大和市中央林間の分譲マンション5階在住
- ・田園都市線の終点、中央林間駅より徒歩1分。駅前ではあるが、閑静な環境が保たれた東急系分譲マンション。集中管理・安全システムも設置され、快適な都市居住をうたっている
- ・マンション購入を契機に、妻の両親との二世帯同居にふみきる。キッチン、浴室は共用だが、それぞれ時間帯により使い分けている

●情報環境

- ・使用パソコン機種は、デスクトップ型NEC98と98ノート
- ・加入ネットワークは、ニフティ・サーブ、セラン、K-NETの3つで、K-NET以外は毎日数回は必ずアクセスしている
- ・電話は2回線あるものの、親世帯と使い分けているため、現在でも不便を感じており、ISDNを契約する予定
- ・1カ月の電話代は約2万円で、パソコン通信関連で1万円程度。名古屋に単身赴任中の夫との電話が残り半分近くを占めている

■■■■取材概要■■■■

- 結婚後、子育てに専念していたが、子どもの手はなれかかったので、ワープロを独習、検定試験を受けたりしていた。東急田園都市線の主婦を対象にしたパソコン・ネットワーク、セランの募集を知り、パソコンに興味と関心があったので応募。加入後、すでに買ってあったパソコンのメモリー増設から操作まで、ほとんど自分一人で独習する。
- 当初K-NETでパソコン通信を楽しんでいたが、ふとしたことからパソコン教室のインストラクターをすることになり、現在、毎週1回高齢者向けの教室で教えているほか、セランでもMOS-DOS講習会などの講師を引き受けている。経済的にはほとんどボランティア価格だが、金銭にはかえがたい充実感を感じている。
- パソコン教室を通じて、パソコン通信仲間も増え、今では一日何回もニフティやセランにアクセスし、メールでの質問にこたえるなど、忙しいが充実した日々を過ごしている。またオフラインの会合には皆勤し、さまざまな出会いと交流を楽しんでいる。
- 今ではパソコンがなければ一日も過ごせないと感じ、たまに名古屋に単身赴任中の夫を訪ねるときも、98ノートを持参するほど。それに対して夫は、仕事では業務上のメールのやりとりはしているものの、まだ仕事を離れてパソコン通信の世界に入っていない。
- 今後は、コンピュータに抵抗のある高齢者や主婦のための基礎的な講習会を継続したり、幼児がいて外出しにくい若い母親のためにパソコン通信の啓蒙をしたいと願っている。

1/パソコン通信を始めたきっかけ

田園都市線の終点、中央林間駅から徒歩1分。まさに駅前とっていいほどアクセスに恵まれた東急分譲マンションの5階に、小森さんの住まいがある。玄関のオートロックをはじめ、管理会社に直結するセントラルコントロールシステムなど、都市型集合住宅の快適さが十分に保証された居住環境だ。ただ厚木基地が近いと、ときおり輸送機が飛来する爆音がとどろき、話し声もかき消されてしまうほど。最近の緊迫する国際情勢を反映してか、このところ離着陸の回数が多いとのこと。

家族構成は、現在名古屋に単身赴任中の医薬品メーカー勤務の夫（50歳）、冴子さん（45歳）、高校生の息子と娘、それに冴子さんの両親の6人家族。6年前、このマンションを購入したのを契機に、二世帯同居が始まった。台所、風呂は共通だが、食事はそれぞれ親子で別々に自分たちの好みで作っているという。

かなりゆったりとしたリビングダイニングのテラスに面したコーナーが、冴子さんのワーキングステーション。現在愛用しているのは、NEC98デスクトップと98ノート。加入しているネットワークは、ニフティ・サーブ、セラン、K-NETの3つ。



白と黒を基調にシンプルにまとめられたリビング。ワーキングコーナーの椅子、テーブルも白と黒で統一されている

目下、パソコン教室の講師として忙しい日々を送る冴子さんだが、10年ほど前までは、パソコンの知識などまったくない、いわゆる普通の専業主婦だった。

●10年以上前になると思いますけど、ワープロに興味をもって、機械を買っ

で自分で勉強しはじめたんです。それまでずっと専業主婦だったんですが、そろそろ子どもの手が離れたので、なにかしたいなと思って、ワープロでもしてみようかと。結婚するまでは商社につとめていましたので、英文タイプは打てましたけど、ワープロなんかは初めて。買ったのは、たしかシャープのワープロだったと思います。それで、検定試験なんかも受けたりしたんですけどね。

- でまあ、なんとかワープロは打てるようになったんですね。仕事？ いえいえ、その頃はそんなことはちっとも考えてなくて、もっぱら子どもの問題プリントを作ったりしてましたよ。あれで、たとえば算数の分数なんか、分母と分子を線で分けたりしなければならぬし、いろいろ研究してずいぶん参考になりましたね。それから、マンションの自治会の役員をしているときは、ワープロで広報文書を作る役などは一切引き受けてしていました。

そんな冴子さんがパソコンに関心をもつようになったのは、7年ほど前のこと。

- ワープロでも簡単な表計算くらいできるけれど、限界があるでしょ。家計簿なんかつけられませんしね。それでパソコンに関心をもつようになって、そうするといてもたってもいられなくなって、とうとうNECのパソコンを買ってしまったんですよ。買えば、すぐにでも家計簿がつけられると思っちゃったんですね。
- でも、買っただけではどうにもならないし、自分で勉強するにも限界があって、結局使いこなせなくて、ワープロソフトもこわれてしまい、押入に何年もしまいこんでいたような状態だったんです。

そんなある日のこと、セランの名前を知ったことが、それからの冴子さんの生活を大きく変えるきっかけとなった。

- 4年ほど前のことですが、たまたま田園都市線に住んでいる主婦を対象にしたパソコンの在宅ネットワークができそうだという記事を神奈川新聞で読んだんです。で、まだ公募前だったんですが、事務局に電話して聞いてみたんです。
- そのときの説明が、在宅で入力の仕事を斡旋するというより、会員を募集してパソコン通信のネットワークを開くということだったので、パソコンが使えると思ったんです。それでパソコンにまったく知識のない主婦でも

OKで、講習も受けられるということだったので、さっそく応募しました。もちろんそれまでにパソコン通信の経験はまったくなく、そういう言葉を知っていた程度でした。

事務局の予想をはるかに上回る応募があり、新聞紙上をにぎわしたセランの誕生はまだ記憶に新しいが、1600人を越える応募者から、400人に絞った中に運良く選ばれた冴子さん。それから積極的にパソコンにかかわる生活が始まることとなった。

- でもね、押入にしまってあったパソコンを取り出してみたところ、かなり前のものだったので、メモリーが足りなくて、増設からしなければならなかったんです。で、誰も教えてくれる人もいなかったし、セランの講習会も始まっていなかったの、結局、悪戦苦闘しながら、自分で独学して増設したんです。それからパソコンとのつきあいが本格的になったわけです。

冴子さんのパソコン通信初体験は、K-NET（当時はその前身）が募集した主婦対象のパソコン通信講座。

- やはり新聞で、K-NETがパソコン通信したい人を募集しているのを知り、セランの講習会もまだ始まっていなかったの、どうせパソコン通信するんならと思いましたが、無料だったので参加しました。それがパソコン通信の初体験でした。それで、その場でKネットに加入し、それから積極的にメールを送るようになりました。それがちょうど4年くらい前。
- それからしばらくして、セランでワープロソフト（一太郎）と通信ソフト（W-TERM）の講習会を3日間受けまして、だんだんおもしろさに開眼して、のめりこむようになったんです。
- 初めてK-NETのボードに書き込んだ後、見知らぬ方から歓迎メールがどんどん送られてきて、それですっかりパソコン通信が好きになりました。セランはまだ本格的に始まっていなかったの、むしろ最初はK-NETのほうに熱心にかかわり、毎日のように書き込んでいましたね。それが半年ほど続いていました。
- 当時は、主婦と教師が多くて、一般的なおしゃべりから、本やパソコンの会議室などいろいろのメニューがあって、とても楽しかったですよ。K-NETになってからはカラーが変わってしまったので、あまりアクセスしていませんで、ご無沙汰しています。

- ニフティ・サーブに入ったのは、K-NETに加入したとき、二大ネットワークのどちらかには入っておこうと思って、ニフティとPC-VAN、どちらにしようかと迷ったんですが、課金がニフティのほうが多分安かったので決めました。それに、PC-VANは若い人が多いけれど、ニフティのほうは若い人だけではなく、年輩の方もいらして、きちんとしているという印象もありました。

こうして、まったく知識のないところから始まった冴子さんのパソコン通信だが、生来の知識欲と行動力で、またたく間に通信の世界になじんでいくこととなった。

2/現在の情報生活

さて、パソコンを独習した冴子さんが、他人に教える立場になるのも、セランを通じてのこと。

- セラン内部でMS-DOSの講習会をするので、講師をしないかと呼びかけられたのがきっかけでした。最初は、アシスタントとして後ろで見ているだけでもいいからやらせてほしいと思って参加しているうちに、なしくずし的に講師になってしまった。その経験があったものですから、今度は、ニフティ主催の高齢者向けパソコン教室の講師をしてほしいという要望があったんです。

こうして、3年前から毎週土曜日の午後、赤羽で開かれる高齢者向けパソコン教室の講師をつとめることとなり、現在に至っている。

- そのとき練習用に指定されたのがニフティの高齢者向け会議室の「メロウ・フォーラム」で、そこで初めて通信をする高齢者の方と一緒に書き込んだりするようになりました。
- ただ、会議室だとちょっと人数が多くなりすぎるし、初心者の方は気後れすることもあるというので、会議室よりさらに小さい規模で「パティオ」という場を設けてもらい、現在は、そこが教室関係者のたまり場になって、みんなすっかり仲良しになっています。現在の私のホームグラウンドもそこ。人数は、だいたい30人前後ですね。
- 今でこそ積極的に書き込む人が増えましたが、最初は苦労しまして、高齢者の方はほとんど書き込みがないんですね。だから私からせっせと呼びかけたり、オフラインミーティングなどを積極的にやったりするうちに、だんだん書き込みも増えてきました。ただどうしても最初はきちんとした文章で書いてこられるのですが、そのうちだんだんなじんでくると、くだけた感じでしゃべるような、いわゆるパソコン通信感覚の文体になってきています。

また、セランでも桐というデータベースソフトの講習会やMS-DOS講習会の講師を定期的につとめている。こうして目下、冴子さんの生活のほとんどは、パソコンおよびパソコン通信で占められているといっても過言ではない。

- ほとんど生活の全部がそうだという感じ。朝起きると一番にパソコンのスイッチを入れ、ニフティにアクセスして、メールを確認。食事の支度をしながら、オートでダウンロードします。それからみんなが出かけてから、ゆっくり読んだり、返事を書いたり。出かけない日は午後にもアクセスして、同じことを繰り返します。セランにも一日1回のアクセスを目標にしていますが、書き込み自体が少ないので、平均すると2、3日に1回くらいでしょうか。
- アクセスの回数は毎日最低5、6回と多いのですが、オンラインでつながっている時間は2分ほど。講習会に出かけない日は、回線を切ってから、数時間は画面に向かってますね。講習会に参加された方からの質問メールがよく届きますし、電話もかかってくるので、その対応にけっこう時間をとられています。
- パソコン通信のサービスで他によく利用しているのは、ファックス送信サービス。今後利用してみたいのは、本の宅急便サービスですね。オンラインショッピングもまだ経験はないけれど、やってみたいなどは思っています。個人輸入にも関心があります。



画面に表示されたセランのメニュー。生活情報、井戸端会議的なコーナーなどのほか、仕事情報、会員アンケートなど、セランならではのメニューも見える

現在、小森家の電話回線は1回線。これだけパソコン通信をよく利用していると、1回線ではかなり不都合が生じるのではと思われるが……。

- それはもうとっくに困りまして。単身赴任している名古屋の夫からも、夜

電話が通じにくいと文句を言われますし……。で、NTTに相談したんですが、すでに親世帯のほうに1回線とっていて、2回線入っているんで、マンションではこれ以上増やせないんです。ですから、ISDNを本気で導入しようと思っています。ISDNだと速いし、2本分とれるので、片方は私専用で、電話とファックスにしたいです。それはきっと近々実現するでしょう。

現在、電話料金は2万円程度とのこと。思春期まさかりの子どもたちは、自室に専用電話はなく、また長電話もほとんどしないとのことで、名古屋との長距離電話が料金がかさむ半分の原因。もう半分の原因であるパソコン通信にかかわる金額は1万円くらい。ただ、あれだけ通信を頻繁に利用しているわりには値頃感はあると満足気。

さて、いろいろなことに意欲的な冴子さんは、オフラインミーティングへの参加もほぼ皆勤という熱心さ。

- それはもうとても楽しいですよ。「メロウ・フォーラム」の場合は、年輩の方ということも忘れてしまうくらい。最初はおとなしく喫茶店などで会ったりしていますが、そのうち二次会、三次会になると、カラオケなどにも。その他、新年会、お花見、コンサートなど、理由をつけては、しょっちゅう出歩いています。セランの方とは講習会などでよく顔を合わせていますから、その都度おしゃべりしたり、女同士食事に行ったり、などですね。

このような生活は、パソコン登場前後で大きく変わったという。

- パソコンが生活の中に入ってくるまでは、みんなを送り出したら、リビングのソファに座って、編み物をしたり、子どもの受験にかまける生活でしたが、パソコン通信を体験してからは、さまざまな出会いもあり、ずいぶん生活が変わりました。たとえば、人間関係。昔は子どものつながりと主人のつながりしかなかったけれど、今は「小森さん」と呼ばれる生活ですから、子どもや主人とは関係のない自分だけの世界があるという感じですね。
- 私は以前から、近くの方とは、あまり深くおつきあひしない主義なんです。以前は、テニスのスクールに通っていて、同じクラスの人とレッスンの後、一緒にランチを食べるようなおつきあひをしていて、それはそれで楽しかったけれど、今のような深さのある関係とは違いますね。ええ、自分ではとても充実していると思っています。パソコン通信自体が精神衛生上、いいというわけではないけれど、それによって広がる世界が、私にとって、なにものにもかえがたい魅力になっています。

夫は、会社の業務上、社内ではパソコン・ネットワーク網を利用しているが、個人では通信はしていない。ただ、妻の生活に関してはノータッチで、好きなようにやらせてくれているという。

- とにかくあちらも出張が多くて、連絡がとりにくいので、主人さえ通信を始めてくれれば、連絡をとるにはいい方法だと思うんですけど。読んだか、読まないか、それに何時に読んだかもわかりますよね。ファックスだと会社に送る場合、他の人の目にもふれるから、個人的なことは書けませんでしょ。だから、ニフティに加入すれば、メールを送っておくからという、いいよ、とは言うんですが、そこまで。実際には、やっていません。98ノートでいいから、買って持たせようかと思っているんですが。
- 私もたまーに主人のもとへ行きますが、そのときは必ず98ノートを持っています。携帯するには重いんですけど、もうないと一日も生活できない感じですね。

さて、これほど頻繁にパソコン通信を利用している冴子さんだが、幸い、これまで不愉快な目にあつた体験はないとのこと。

- よくパソコン通信の場合、匿名で相手のことが分からないままコミュニケーションできるし、そのことによる問題もあると言われますが、私の場合は、まず赤羽のパソコン教室に講習に来られた方との通信がほとんどなので、最初から顔も本名も分かっているんですね。ですから、通常の一般的なパソコン通信とはちょっと違うかもしれませんが、幸い、匿名性を利用した不愉快な目にあつたことはありません。

ただ、パソコン通信を利用する際のマナーの問題でトラブルめいたことはあつた、という。

- ニフティでの経験なんですけど、悪気がないことは分かるんですけど、なかにすごく難解なことを長々と書いてくる方がいて、初心者には書き込みにくい雰囲気になってしまったんですね。もともと初心者の方でも気楽に通信しあおうという趣旨で始まった会議室だったので、古顔の方がちょっと注意したところ、それにまたものすごい反論を寄せて、喧嘩めいた雰囲気になってしまったんですね。それでもう収拾がつかなくなつて、その会議室は早々に閉鎖してしまつたことがあります。

3/情報化についての今後の展望

いくつかの教室をかけもちしている忙しい冴子さんだが、その経済的ベネフィットについてはどうなのだろうか。

- いまは、まだビジネスとしてはまったく成り立っていません。セランの講習会は謝礼が出ますが、赤羽のは完全にボランティアで、せいぜい交通費くらい。ただパソコン通信のことは私でも教えられますが、反対に受講者の方からいろいろ教えられることが多いですね。それが、私にとってはとても貴重です。ニフティでも、実態はシスオベに近いこともしていますが、一般の会員と同じですから、まったく金銭的な見返りはありません。でも私は書き込みを読むこと自体が楽しいので、それはまったく苦になりません。

今の冴子さんにとっては、金銭的報酬とは比べられない充実感のほうがむしろ意味があるようだ。

- 自分で思ってもみなかったことが実現できていることが不思議だし、うれしいですね。普通の主婦がパソコンの講師をつとめるなんて、信じられないことですものね。教職も単位はとったものの、教育実習で人前でしゃべるのがいやさにやめたくらいですから。
- いまだに、しゃべるのはそれほどよどみなくというわけにはいきませんが、それがかえって高齢者の方には安心感や親近感を与えているようです。いかにもバリバリの若いキャリアウーマンや有能そうな独身男性の講師だと、なかなか初歩的な質問はしにくいですけど、私みたいなふつうのおばさんだと、気がねなく質問できるみたいですね。
- 今息子が高校3年生で来年大学受験を控えているんですが、ほとんど毎日のように出かけて、しかも土曜日は毎週講習会で留守にしていますから、母親として後ろめたいところもあります。でもね、もし今息子の受験だけにかまける母親になったら、きっと彼が働きざかりになったとき、何もすることがなく、彼にすぎるだけの母親になってしまうような気がするんです。だから、今この時期に、自分のライフワーク的なことを確立しておけば、この先も自分自身、自立して生き方ができると自分に言い聞かせています。

- ですから、これからもずっとパソコンにさわられる限り、さわっていたいと思います。そのうちもっともっと、女性にも使いこなせる道具になってくるでしょうから。それこそ、住民票の取得や銀行取引もパソコンでできるようになるでしょうし、今でももう冷蔵庫みたいに生活の一部になっていますから、これからはますますそうなると思っています。

同時に、将来的な展望として、ある種の経済的自立も考えている。

- 将来的には、経済的自立ができるところまでいければいいなという希望があります。今後の抱負としては、まず高齢の方向けの講習会はずっと続けていきたいですね。それから、機械に弱いと信じている主婦の方にもパソコンの楽しさを伝えていきたいと思っています。ビデオも操作できないという方向けの、非常にゆっくり進む講座とか、ですね。私自身、何も知らない主婦の立場から出発したので、絶対できるようになると信じています。また赤ちゃんがいて、なかなか外に出られないという若いお母さんなどにもパソコン通信は有効だと思いますので、そういう方たちにも広げていきたいですね。同時に、ビギナー向けだけでなく、ステップアップの講座なんかも必要ですね。
- それからまたライフワークとしては、セランで同志を募って勉強している点字はこれからも続けていきたいですし、できればそれをニフティともつなげていきたいですね。将来も細くずっと続けていくとすれば、点字がいいかなと思っています。私自身は、忙しいので、実際に点字を入力する時間はないけれど、そういう集まりの場にはいつづけたいと思っています。また、できればそれがビジネスとしても成立すれば、なお望ましいという希望はあります。
- セランは、ほとんどボランティア価格なので、純粹にビジネスとして考えると安いかもしれません。でも、自宅にいて、育児を優先しながらできるし、またそのことを大手をふって言える場所なんですね。今、子どもの行事があるので、その仕事は受けられませんと言える場はあまりないですよ。在宅で、しかも自分のペースでできる点が一番いいところではないでしょうか。
- セランのように、ある沿線の主婦を対象にしたパソコンでつながる組織は珍しいと思うんです。皆さん、高学歴だし、いろいろなタレントはあるし、意欲もあって、そのパワーはすごいですよ。セランの中にも、英語ペラペ

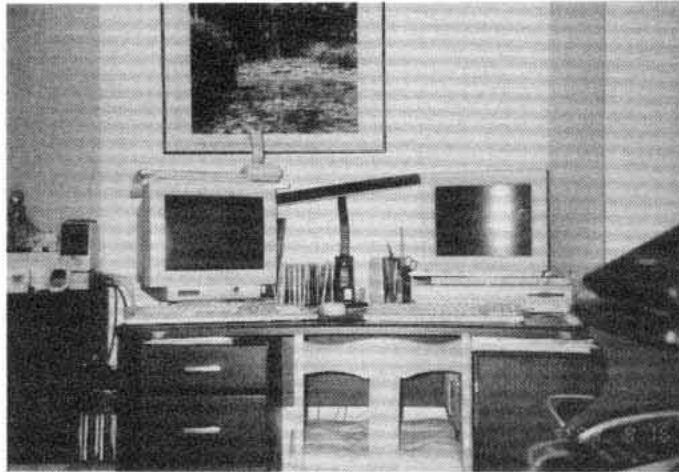
らの方をはじめ、童話作家、バイオリニストなどいろんな方がいらっしやるので、そういう方たちをうまく束ねたら、もっとすごいことができそうな気がするんですけどね。結局、登録メンバーは350人ほどですが、実際にアクティブなメンバーは30人くらいですから。

さまざまなタレントをもった主婦たちが、従来とは異なる形態でネットワークされ、パソコン通信を主要なメディアとして活用するとき、経済的自立も含めた新しい関係が成立する可能性があるとするれば、その核になるのは、まちがいなく冴子さんのようなマネージャー能力のある存在だろう。

(取材／1994年9月)

<パソコン通信 05 > 30代在宅ワーキング家庭

佐藤 亜由子 (仮名/30歳/兼業主婦)



横長の机に並ぶ2台のパソコン。向かって右が妻と子ども用のマック。向かって左は夫専用のIBM

●家族構成

夫 (38歳/銀行関係のシステムエンジニア)、妻 (30歳/データ入力)、息子 (6歳) の3人家族

●居住環境

- ・横浜市緑区鴨志田の公団マンション (築約20年) 3階在住
- ・田園都市線青葉台駅よりバス約10分。豊かな緑に囲まれた大型団地の一角。すでに20年近い年月を経ているため、建物自体はやや古ぼけた印象
- ・現在入居して3年目。途中入居で年齢差もあるため、子どもを介した近隣つきあいはあまりない

●情報環境

- ・使用パソコン機種は、デスクトップ型マックとIBM、NEC98ノートの3台
- ・加入ネットワークはセラン、ニフティ・サーブ、ピープルの3つだが、セラン以外はほとんど利用していない
- ・夫は業務はもちろん、自宅に帰るとすぐパソコンのスイッチを入れ、業務の続きや私用で長時間画面に向かっている
- ・電話はファックス共用の1回線だが、パソコン通信をあまり利用せず、また子どもが小さいので長電話しないため、ほとんど不便を感じていない
- ・1カ月の電話代は5000円程度

■■■取材概要■■■

- 短大卒業後、プログラマーの仕事をしていましたが、やがて同じ職場で知りあった夫と結婚。出産を契機に退職、現在に至る。3年ほど前、電車の広告でセランの募集を知り、パソコンにはなじみもあったので応募。同時に、途中から今の団地に引っ越したため、同年代の友人が近所にいなかったため、友達ができればとの願いもあった。
- 現在、週に数日、午前中セランで東急CATVの入力の仕事をするほか、自宅でも単発の入力の仕事をしている。ただし、不定期のため、それほど仕事にのめりこんでいるわけではなく、おこづかい程度の感覚で、収入はすべて自分用に使っている。今後も育児と家庭を優先させるため、外に働きにでるつもりはあまりない。
- セランの仲間とは当初メールのやりとりもしていたが、最近では実際に会うことのほうが多くなり、お互いの家でのランチパーティや旅行など、おおいに楽しんでいる。
- 夫は、業務、私用含めて自宅でも画面に向かっている時間が長く、休日などはほとんど一日費やすこともある。妻にとっては、パソコンについての個人教師的な役割もつとめてくれるので重宝している。
- 息子も遊び感覚でマックのお絵描きソフトを楽しみながら操作しており、生活の中に自然にコンピュータが溶けこんでいる。今後ともパソコンを生活の柱にしなが、現在の家族のペースを大事にしたいと考えている。

1/パソコン通信を始めたきっかけ

田園都市線青葉台駅よりバス約10分。日大グラウンドの近くに広がる大規模分譲団地の一棟が、佐藤さんの現在の住まい。団地自体はすでに20年近くの歴史があるため、うっそうとした緑に囲まれ、年月の経過を感じさせるたたずまいだが、一家が引っ越してきたのは、3年ほど前のこと。家族構成は、銀行関係のシステムエンジニアをつとめる夫（38歳）、亜由子さん（30歳）、息子（6歳）の3人。

フローリングされた8畳ほどのリビングの一角は、マッキントッシュとIBM（DOS/V）のデスクトップパソコンが2台並ぶ細長いワーキングデスクで占められ、さらにNEC98ノートも1台。これまでに何台もパソコンを買い換えているが、現在あるのは3台。

亜由子さんが、田園都市線在住の主婦を対象にしたパソコン・ネットワーク、セランに加入したのも、ちょうどこの団地に引っ越してきた頃。

- 私は情報処理関係の短大を卒業後、プログラマーの仕事をしていまして、同じ職場で主人と知り合って結婚したんです。結婚後しばらく仕事をしていましたが、出産を前にやめました。
- ちょうど3年ほど前ですけど、電車に乗っているときに、セランの広告を見て、パソコン通信ができるということと、パソコンが貸してもらえて自宅で仕事ができるということで、私に向いているかなと思って応募したんです。それともう一つ、私たちは途中からここに引っ越してきて、近所に同じ年齢くらいの子どものいる方が少なかったのので、パソコン通信で友達ができれば、という期待もありました。それまでパソコン通信は経験がなかったんですけど、主人がもうやっていたので、それで興味はあったんですね。主人は業務というより、自分の趣味でやっていたんですけど。

こうしてセランに入会した亜由子さんだが、その他、現在入会しているネットワークは2つ。

- 今加入しているネットワークはニフティと、先週加入したばかりのIBMのピープル。ニフティは以前から主人が加入していて、家族は割安で入会できるというサービス期間に加入しました。時期はかなり前ですけど、まだそれほど熱心にアクセスしているわけではありませんので、会議室も特に決めていないし、発言したりすることはありません。これから勉強しようと思っています。

- ピープルもこれからですけど、画像情報のやりとりに関心があったものから。でも、まだソフトが十分ではないみたいで、あまりアクセスしていません。

大手ネットワークのパソコン通信をそれほど利用していない亜由子さんにとって、よく利用しているのはやはりセラン。一日1回はたいていアクセスしているという。それでもそれほど熱心に通信しあっているわけではないという。

- 今、会員数はけっこう多いけれど、活動しているメンバーはかなり固定してきているので、結局メールの交換も限られた人になってしまいます。それに、以前はよくメールを出し合っていました。最近では実際に会っている回数のほうが多いので、それほど利用しなくなりました。
- むしろ一般的なお知らせ情報や、事務局からの仕事の情報などを読むためにアクセスすることのほうが多いですね。



ワーキングコーナーに隣接した低めのキャビネットの上に置いている98ノート。入力の仕事は、リビングのテーブルに98ノートを置いて作業している

2/現在の情報生活について

亜由子さんは現在、子育てのかたわら、セランを通じてパソコン入力の仕事をしている。

- セランでダイレクトメールの住所の入力の仕事をしているんですけど、定期的ではなく、単発ものがほとんど。だからあるとき仕事が入って、わっとやって、それで納品という感じなので、一日定期的に画面に向かっていくということはないんですね。だから、どのくらい仕事をしているかといっても、よくわかりません。
- セランの仕事は、時間のわりにはちょっと安いかなという気もしますが、まあ自宅にいて、子どもを育てながらできるので、こんなものかなと思っています。マックのデータベース入力の仕事も、セランとはまったく別にときどきするんですけど、ギャラはこちらのほうがずっといいですね。

もっとも亜由子さん自身、子育てと家事をなにより優先させたいため、仕事にこれ以上、時間とエネルギーをさくことにはためらいがある。

- そこまで忙しくなることには抵抗がありますね。やはり家庭を優先させたいので。子どもが大きくなっても、これくらいのペースがいいかなと思っています。外に出て仕事をする気も今のところあまりありません。

現在の亜由子さんの日常は、週のうち2日は3時間ほど東急CATVの入力の仕事に出かけ、セランの講習会に半ば定期的に出かけるほかは、子どもの習い事（英語とスイミング）のつきそい、それに、単発の仕事といったところを軸に動いている。得られた報酬は、すべて自分のおこづかいに回しているとのこと。

- 平均すると月に数万円程度ですが、それでも主婦にとってはありがたいおこづかいで、全部自分のために使っています。
- そうそう去年の夏は、セランで知り合って大の仲良しになった友達と、お互いに夫をおいて、子連れ母子でニューカレドニアに遊びに行ってきたんですよ。その費用は、セランで稼いだもの。そういう意味ではとても感謝しています。彼女は、今年は二週間ほどアメリカ旅行しようと誘ってくれたんですが、ちょっとそこまではさすがにできませんでした。夫も後からひがんでいましたし。



飾ってある写真は、去年の夏、セラン仲間の母親同士、夫をおいて子連れでニューカレドニアに遊びに行ったときのもの

そんな垂由子さんにとって、セランで知り合った仲間は、他ではえがたい関係のよう。途中からこの団地に引っ越してきたこともあり、近所のおつきあいが少ないだけに、子ども以外に共通項のある仲間との絆意識は強い。

- 子どもがちょっと遠くの幼稚園に行っていることもありますし、また皆さん、子どもの年齢が高いせいもあって、隣近所つきあいはほとんどないんですね。幼稚園のおつきあいもあるにはあるんですけど、やはり共通の話題は子どもだけになってしまいますよね。それはちょっと寂しいという感じですね。
- セランで知り合った人たちは、パソコンという共通の関心があるし、皆さん自分から応募してきた人たちだから、いろいろなことに意欲があって話題も豊富だし、積極的なんですね。それに年代的にも30代半ばくらいの方が多し、地域もこの沿線同士なので、親近感もあって、何人かとはとても親しくなり、楽しいおつきあいをしています。
- よくやるのは、子どもがいない昼間、何人かでそれぞれの自宅に集まって開く、持ち寄りランチパーティ。子どものことや、パソコンのことなど、ものすごくもりあがって楽しいですよ。思わず子どもの帰ってくる時間を忘れてしまうくらい。

さて、佐藤さん一家には、現在電話回線は1回線。これにファックスとモデムをつなげている。リビングのワーキングデスクは、デスクトップが2台はゆったり置けるスペースはあるが、椅子が一脚しかないため、時間のシェアリングがちょっと大変そう。もっとも亜由子さんの入力の仕事はほとんど98ノートで、しかも資料を広げやすいようリビングテーブルで行うため、実際、それほど重なり合うことはないとのことだった。

- 主人はもう帰ってきたらすぐパソコンのスイッチを入れて、たいてい時間のあるときは画面に向かっています。会社から仕事を持ち帰ってやったり、会社との業務連絡とか、メール相手とのメールの交換とか、ですね。土日なんかも、他の仕事をしていないときは、たいてい画面に向かって何かやっています。私のほうがパソコンは初心者なので、教えてもらうこともけっこうあって助かっています。

現在の電話料金は、5000円程度。一時期、セランでパソコン通信をよく利用していた頃は1万円くらいになったこともあるが、少し控え気味のため、現在はこの程度に落ちついているとのこと。また、オンラインの通信時間も短く、子どもも小さいため長電話することもないので、今のところ1回線でも、さほどの不便は感じていないという。



大型テレビ、VTR、カラオケ、子ども用アニメなどがそろったAVコーナー。現在の生活ベースは、一人息子を中心に動いているようだ

3/情報化についての今後の展望

CATVについては、東急CATVの仕事をしているだけに、関心はあるものの、比較的古い団地のため、ケーブル引き込み設備がないので、現在はあきらめている状態。しかし、将来的には利用したいという意向はあるようだ。

パソコンについては、すでに現在の生活にかなり根を下ろしているが、将来もこの状況が続くだろうと見ている。

- 息子もマックが大好きで、お絵かきソフトのキッドピックスなんか自由に使いこなしています。もしかしたら、私より画面に向かっていて時間は長いかもしれないですね。まだ文字が読めないし、キーボードもさわれないから、通信までは無理ですけどね。

佐藤家では、このようにパソコンのある生活が当たり前になっているため、特に意識して教えずとも、子どももコンピュータと自然になじんでいこうと考えているようだ。

亜由子さん自身も、これから積極的にパソコン通信を体験し、仕事以外に、自分の関心の世界を広げていきたいとの願望もある。ただ、自宅のパソコンから直接、相手に私信としてのメールがやりとりできるという状況は、夫婦がそれぞれ個人として伴侶とは別の異性とコミュニケーションしあえることも意味している。亜由子さんも、夫婦それぞれのプライバシーに関しては尊重しつつも、やはり夫のメール相手のことは気になるよう。たとえ特別な関係ではないにしても、女性からメールが届くという状況はどう感じますか、というちょっと意地悪な質問には、冗談めかしつつ、次のようにきっぱり。

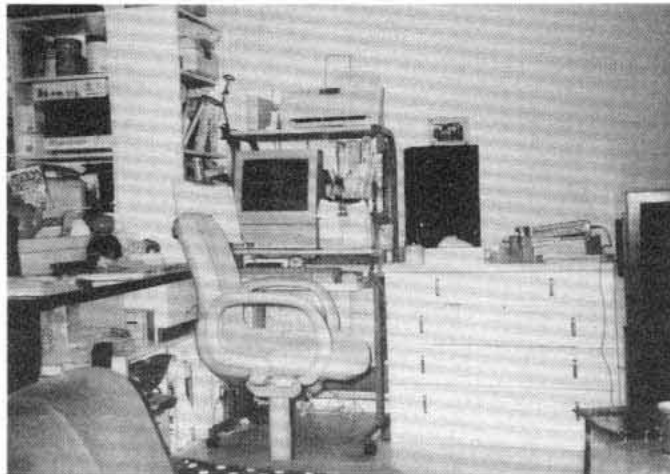
- やはりそれがわかると、あまりいい気持ちではありませんね。もしかしたら、私から直接その相手に、もうやめてほしいというメールを送りつけるかもしれません。

もっとも、まだ彼女の友人や知人が在職しているため、夫の動向はだいたい把握しているという、職場結婚ならではの妻の自信も十分のぞかせている。第一子出産後、体調をくずしたため、二人目はほぼあきらめ、今の家族のペースを大切にしたいという亜由子さんにとって、パソコンを生活の柱にした現在の生活はほぼ満足できるものであり、今後とも維持していきたいという意向と見受けられた。

(取材/1994年9月)

<パソコン通信&CATV01> 30代インストラクター家庭

田部 千絵子 (仮名/35歳/兼業主婦)



キッチンのカウンターに隣接したワークステーション。オープントースター、きゅうす、電気釜などが見え、生活感が漂う

●家族構成

夫 (37歳/商社勤務)、妻 (35歳/パソコン教室インストラクター)、小学生の男児2人 (9歳、7歳) の4人家族

●居住環境

- ・横浜市緑区藤が丘の分譲マンション5階 (3DK) 在住
- ・田園都市線藤が丘駅より徒歩3分。駅には近いが、眼下を国道246号が走り、閑静な住環境とは言いがたい。ただし国道246号へのアクセスには恵まれているため、クルマでの移動には非常に便利な立地

●情報環境

- ・パソコンの使用機種は、デスクトップ型NEC98と98ノート
- ・加入しているネットワークは、ニフティ・サーブ、セラン、ビーブルの3つ
- ・電話はファックス共用の1回線だが、頻繁にパソコン通信でアクセスするため、回線を増やすか、ISDNにすることを検討中
- ・オンラインで通信している時間は毎日10分くらいだが、ソフトの最新情報のダウンロード、メールのやりとり、仕事などで一日延べ7~8時間は画面に向かう生活
- ・1カ月の電話代は、7000円程度
- ・マンションの一括契約で3年前から東急CATVに加入

■■■■取材概要■■■■

- 独身時代はコンピュータ関係の商社のシステム・エンジニアとして、全国を飛び歩いていた、自他ともに認めるキャリアウーマン。出産後も働き続ける意志はあったが、託児所が見つからず断念。ときどき元の会社でアルバイト的に仕事をするほかは、子育て、幼稚園の役員などに専念する。
- 数年前、東急田園都市線在住の主婦を対象としたパソコン・ネットワーク、セランの募集を夫から知らされ、応募。選考に受かり、パソコンとのつきあいが始まる。その後、MS-DOSについても独習し、やがてパソコン教室のインストラクターとして、また在宅入力ワーカーとして大変忙しい日々を送るようになる。
- 早朝夫を送り出すと、まずパソコンのスイッチを入れ、自分のかかわるネットワークにアクセスし、必要な情報をダウンロードしたり、メールのやりとりをしたりするのが日課。セランに出向いて仕事をする時間を含めれば、毎日最低7時間程度は画面に向かっているという。今や、パソコンは夫と子どもを除く生活のすべてという存在に。
- 夫は最近やっと業務でパソコンをさわるようになったが、まだ個人的なパソコン通信の楽しさには開眼していない。商社勤務のため海外転勤もありうるので、そのときはメールでコミュニケーションすることを考えている。むしろ小学生の息子たちのほうが、クイズの作成、おこづかい帳、お絵かきソフトなどを楽しんでいる。
- セランの仲間とは、地域や子どもの枠を越えた連帯意識を培っており、将来はビジネス展開できる受け皿づくりを計画している。また、そのために田園都市線沿線にたまり場としてのマンションを借りることも、半ば本気で検討中。

1/パソコン通信を始めたきっかけ

田園都市線藤が丘駅より徒歩3分。ほとんど駅前とも言える立地の分譲マンションの3階。眼下に国道246号が走り、二重サッシの窓を開けると、相当クルマの音が上がってくる。田部さん一家がこの中古マンションを購入してここに引っ越してきたのは6年前。家族構成は、コンピュータ関係の商社につとめる夫（37歳）、千絵子さん（35歳）、小学生の息子2人の4人家族。

現在、千絵さんは、セランでパソコン教室の講師を週に何日かつとめるほか、自宅でもアンケート集計やデータ入力の仕事をしている。また小学校PTAの役員をつとめるなど、大変忙しい生活を送っている。

結婚11年目を迎えるご主人と知り合ったのも、同じ職場で働いているとき。千絵さんは、その会社のシステムエンジニアとして活躍していたという。

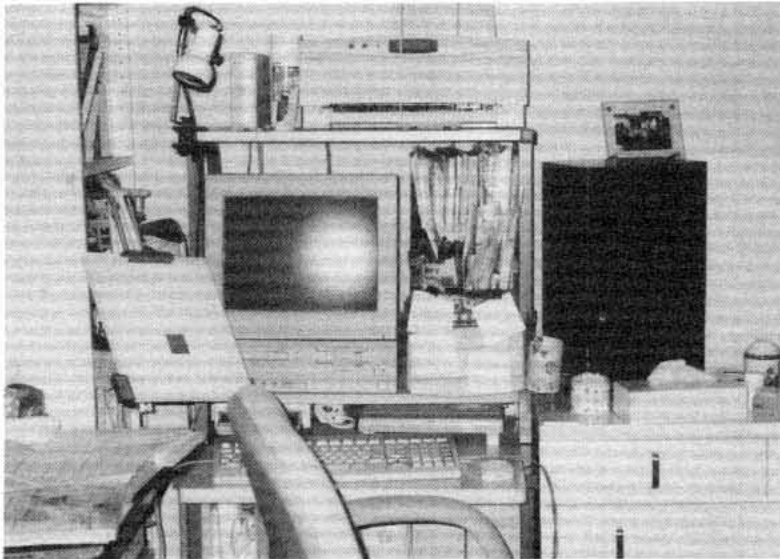
- 主人とは同期で、私はSEをしていました。独身時代は営業的なこともさせられていたので、日本全国飛び回って、自分でもバリバリ働いていたと思います。結婚しても、上の子の産休に入るまで働いていました。本当は生まれてからも働きたかったのですが、預けるところがなかなか見つからず、また主人の親からも反対されてあきらめました。核家族だったので、フルタイムで働き続けるのも無理がありましたし。
- それでも一人目が生まれてからしばらくは、前の会社でアルバイトみたい
に働いていたんですけど、二人目ができてからは、それもやめました。
今はセランのほうで講習会の講師をしているだけです。もうだいぶ手も離
れてきましたが、子どもを育てながら仕事をするペースが身についている
ので、子どもをおいて外に働きに出ようという気はあまりないんですね。

セランに入会したきっかけは、3年ほど前、夫が新規募集の新聞の広告をもってきてくれたことから。

- パソコンを貸してくれるそうだし、だめもとで応募したみたら、という感じだったんです。で、たまたま運よく入れたわけですが、仕事をやめる前は大型コンピュータを使っていて、ワープロにもパソコンにもまったくなじみがなかったので、自分で勉強しました。セランでも講習会があるとのことだったんですが、まだ子どもが幼稚園で出席できなかったのも、CATVのパソコン特集を見たり、自分で本屋に行ってマニュアルを探したりして勉強しました。

●最初は、私がパソコンになれていなかったので、あまり仕事もなかったのですが、たまたま何かの拍子に、MS-DOSの講習会をしますが、わかりますか、みたいな電話をもらったんです。正直言ってそのときは、そんなに詳しくなかったんですが、これを逃したくないという気持ちがあって、応募しました。それ以来、仕事がどんどん来るようになりました。

もともと仲間づくりより仕事が主な動機だった千絵子さんにとっては、パソコン通信は当初あまり興味がなかったとのことで、もっぱら仕事を効率的に遂行するためのメディアとしてパソコンに関わっていくことになったようだ。

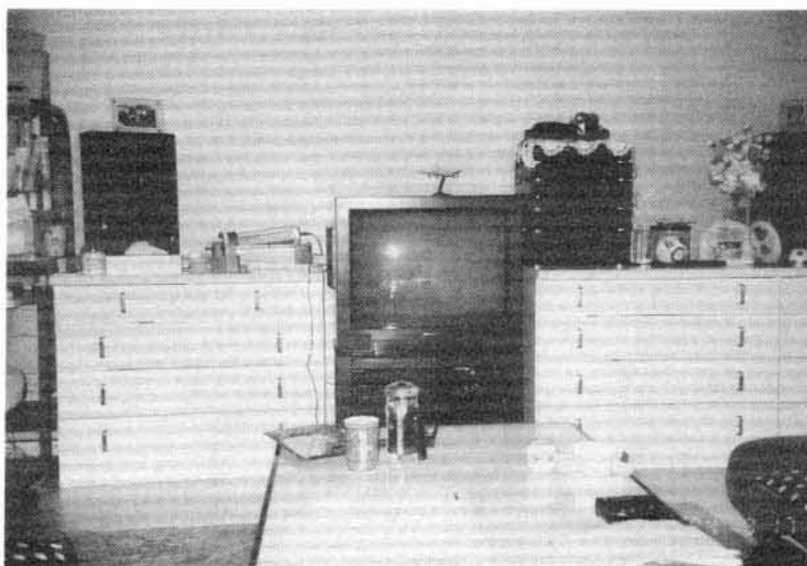


パソコンの上下左右には、仕事関係の資料、メモ、書見台などがずらりと並ぶ

2/現在の情報生活とパソコン通信利用の仕方

こうしてパソコンと深く関わるようになった千絵子さんにとって、とにかく現在はもはやパソコンなしでは語れない生活。セラン以外にも、ニフティ・サーブ、ピープルなどのネットワークに加入し、新しい情報の摂取のためによく活用しているようだ。

ダイニングと和室の境を取り払ってワンルーム的にしつらえたリビングの中心、キッチンコーナーのすぐ隣が千絵子さんの書斎コーナー兼仕事場。食器棚やカウンターの傍らに、やや雑然としたかたちでデスクトップのパソコンNEC98とノート型パソコン、仕事関係の資料、コンピュータ関係の書籍などが積み上げられている。



ワーキングスペースに隣接するリビングコーナー。テレビの横にあるのが、夫が使用する98ノート。リビングと和室の間仕切りは取り払われ、ワンルーム的に構成されている

- 仕事ではもちろんですが、子どもも好きなので、もう一日中パソコンはついていますね。朝5時半頃起きて主人を送りだしたら、スイッチを入れてニフティにアクセスします。この時間帯だとすいているものですから、メールを確認したり、興味のある会議室をのぞいて、おもしろそうなものをダウンロードしたりします。もともとニフティに入ったきっかけも、ソフトの桐についての最新情報がいろいろえられるということだったので、よく活用しています。
- メールは親しいお友達とのやりとりがほとんど。どうしてもお互いに忙しくて時間がずれてしまうので、電話でゆっくり話すことができないし、メールのほうががていねいに書けますので。それから元の会社の同僚が仕事

のことで相談や質問をしていくことがよくあるので、その答えのメールを返送したりしています。

- ニフティの他のサービスはほとんど利用したことはありません。一度だけJALの予約状況を知るためにアクセスしたくらい。ただ夫婦で楽しんでいるのは、お酒関係のフォーラム。日本酒の冷酒が二人とも好きなので、地酒の紹介などを楽しんで読んでいます。
- セランはだいたい一日朝と夕方の二回アクセスします。とりあえず全部読みまして、井戸端会議に入って話をしたり、自分がシスオペをつとめるボードをのぞいて、質問に答えたりします。セランも最初の半年くらい通信はしていなかったんです。噂では、姑の悪口言い合ったりしてるなんて聞いていましたので、そんなことしてまでおしゃべりしたくないと思っていたものですから。
- ピープルはまだ入会して3か月ほど。画像ということで興味があったので、ウィンドウズで取り込んで遊んでみたいというのがありました。ニフティは画像はまだですものね。K-NETも考えたのですが、主人が最近よくないらしいよと聞いてきたので、やめました。
- 通信の楽しさは、まずアクセスしたとき、「あなたあての文書が何通あります」というメッセージですよ。それに返事を出す楽しさもありますしね。それは電話とはまた違う楽しさですよ。電話だとたわいないことをえんえんと話せるでしょ。それは楽しいけれど、きりがなく、終わった後のなんとも言えない虚脱感がありますよね。

オンラインでつながっている時間は、それでも一日10分程度だが、画面に向かっている時間は、仕事も含めると10時間以上になるかもしれないとのこと。そのうち純粹に仕事だけの時間は、セランに出向いて行なう分も含めて一日約7時間。ほとんどフルタイムで働いている計算だ。

さて千絵子さんの忙しい一週間は、かくのごとし。

- 講習会は週3コマ（1回2時間）で、これはセラン加入者だけではなく、一般の方も対象にした、いわゆるパソコン教室。月曜日は講習会が2コマ、火曜日が朝から1コマあります。今はセランが出版する本のDTP処理を受け持っているので、それに毎日かかりきりになっています。それからアンケートの集計が頻繁にきますので、その分析、処理ですね。また小学校の広報委員をつとめていますので、会報の作成の関係で週1回は学校に出向きま

す。それから子どもたちの習い事の送り迎えをして、一週間が明け暮れています。

- おまけに、上の子は小学3年なんだけど、もう中学受験を前提にした“お受験”を始めているんです。というのも、私はずっと田舎の公立育ちなんだけど、このあたりの中学生たちが道ばたに座り込んで煙草を吸っているのを見ると、ああ、こんな学校に行かしたくないと思っちゃうんですね。本人がどう言うかわからないけれど、6年生になって受けたいと思っても準備していないと受けられないですからね。

電話は1回線でファックスと共用。電話代は1カ月7000円前後。通信を始める前に比べると倍増しているが、それはアクセス回数が増えたことと、モデムのスピードが遅いからとのこと。電話1回線には、現在すでに不便を感じているという。

- 今回線を増やすかISDNにするか検討中です。最近主人から、いつ電話しても話し中だと文句を言われるようになってしまったので。最初キャッチホンにしていたのですが、通信に困るので解除してしまったんですね。いづれにしても、なんらかの手はうたなくてはならないと思っています。

さて、千絵子さんにとって現在の主要な収入源であるセランは、ビジネス組織およびネットワークという観点からはどのように映っているのだろうか。

- セランの仕事は純粹にビジネスとして考えると安いかもしれません。私が独身時代に稼いでいた収入に比べると格段の差がありますし。ただ、時間が自由になるとか、子どもを連れて行ってもいいとか、今日はダメですと言えば断れるなど、自由がきくことを考えると総合的には子育てをしている女性に向いていると思います。それに、パートの単純労働に比べると、パソコンにさわっているという自己満足もあるんじゃないですか。
- また、センターがたまプラーザにあって近いので、ここからクルマで15分くらいで行けますから、その点も楽です。先日、セランとは別に講習会で文京区の湯島まで行ったのですが、遠いので、それだけでいやになってしまっ……。

仕事以外の交流の場としても、セランは大変楽しい出会いをもたらしてくれたようだ。

- それから30代の主婦が多いので、なんだか知らないけれど、仲がよくなってしまって、とても楽しいですね。よくお互いの家に集まるんですけど、

もりあがってしまって。もう子どもが帰ってくるから帰らなくちゃなんて言いながら、まだまだえんえんと続いたりします。同じ仕事をしているセランの仲間という共通意識があるんでしょうね。自分から何かしたいと申し込んでいるだけあって、みんな意欲的だし、話していても楽しいですね。

- それは学校なんかのつきあいとは全然違いますね。私はもともとあまりそういうつきあいが得意じゃないんです。今広報関係の仕事をしているから行かなくちゃいけないんだけど、正直言ってつらいものがあります。一のことを言うのに、えんえんと言わなくちゃいけなかつたりするから。幼稚園のとき、保護者会の会長もしまして、けっこう地域のことはやっていたんですが、もうそろそろいいという感じですね。近所のおつきあいもあることはあるけれど、それほど深くはないんです。長々とおしゃべりしたり、無理してあわせるのは苦手ですね。

ところで、在宅主婦ワーカーの悩みは、家事・育児と仕事を同じ空間でどのようにシェアリングするか、ということ。外で働く主婦が家を空けることによる家事・育児と仕事との両立に悩むのと対照的に、どうメリハリをつけていくかに苦勞する。

- 土日を仕事にとられたくないものですから、極力平日仕事をするようにしています。どうしても終末に仕事がかかってしまうときは、金曜日の夜から宣言しておきます。それでもいやがられるので、土曜日子どもが学校に行っている間と夜中が仕事タイムですね。
- 夫も最初は帰宅すると仕事をしているのをものすごく嫌がっていましたが、最近は、どうも半分あきらめたみたいです。仕事をしているのが丸見えなので、私も主人が帰宅したら寝るまでは仕事はしないようにしています。それは、一応私の気くばり。
- ただ、私の場合は、自宅でする入力の仕事と外でインストラクターをする仕事とがバランスがとれているので、気分的にはかなり楽です。これが在宅で入力の仕事ばかりだと、ちょっと嫌になるかもしれませんね。だから、私は同じギャラなら、データ入力ではなく、アンケートの集計など、少しでも自分で工夫できる仕事をもらうようにしています。

スペース的にリビングから見えない部屋に職場を設けるのは可能だが、それをせずあえてキッチンに隣接させているのは、千絵子さんの子育てのポリシーによるもの。

- 書斎を作ってもいいんですけど、そうすると子ども達を見ていられなくな

ってしまいますよね。ここで仕事をしていると、なんとか子どもたちと一緒にいられるし、質問したときでも返事ができるので。留守番させてるよりいいかな、程度 of 感覚なんですけどね。子どもも私が仕事をしていることに対して理解ができて、「今、いい？」という感じで寄ってきます。

●リビングと和室の壁を取り払っているのも、子どもたちが寝ているところを背中に感じていられるようにという気持ちからです。夜中に仕事をする人が多いのですが、まだ子どもたちも夜中にトイレに起きることもあり、そのとき私の存在を感じられることが大事かなと思って。

パソコンに関しては千絵子さんのほうが夫よりかなり先輩。夫も最近は仕事からみでパソコンを使うようになったので、使い分けは、千絵子さんがデスクトップ、夫がノート型というかたちをとっている。

●やっと最近主人もさわるようになりました。これまでは自分でやらなくてもよかったのですが、仕事で自分でやらなければならないことが発生したみたいで、ウィンドウズもやらなくてはあかんかなという感じです。で、ウチはフォローしてくれるやつがいるからいいやと思っているみたいです。

●主人はまだネットワークに入っていませんし、個人的にメールのやりとりなどもしていません。もっぱら仕事でのやりとりだけです。会社のメールを読むだけで、今手いっぱいのようなのです。海外転勤にでもなったら、絶対パソコン通信でやりとりすると思いますけど。現に商社なので、今そういう話もあるにはあるんです。

むしろ子どもたちのほうが、パソコン操作に関しては夫より達人のよう。

●なんでもやっちゃいますね。上の子に最初に教えたのがワープロソフトの一太郎だったんですが、それでクイズ問題を作っていたし、簡単な計算ソフトを教えたらおこづかい帳をつけています。下の子はもっぱらゲームですね。そうそう、下の子は変な話、ウィンドウズが使えるんですよ。ダブルクリックしながら、お絵かきソフトで絵を描いて遊んでいます。

●なんでもそうだけど、できないよりできた方がいいという主義なので、子ども達がパソコンに自然になじんで使えるようになるのはいいと思っています。通信は私の後ろで見えています、まださすがに自分ではやりませんが。

3/情報化についての今後の展望

田部家は、東急CATVにも加入している。時期は、このマンションに引っ越してきた頃。もともとマンションにケーブルが敷設されていたので、迷わず契約したとのこと。

- よく見るのは衛星放送や日本の古い映画の再放送など。東急のローカル情報は最初はちょっと見ていたけれど、つまらないので最近ほとんど見ていません。子どもは一時期、キッズチャンネルを見ていましたが、あまり一日中つけばなしにしているのでやめさせました。主人はほとんど見ませんね。

今後の新しいサービスとしてのビデオ・オン・デマンドやホームショッピング、ゲームなどについては、肯定否定が明快に分かれている。

- 私は一日中でも映画を見ていたい人なので、好きなビデオが好きだけ見られるというサービスは魅力的ですが、ここはマンションで一括契約した関係で、双方向ではないんですよ。でももしそれが実現したら、私のことだからのめりこんじゃうかもしれないですね。以前も洋画を中心に、よくレンタルビデオのお世話になっていましたから。
- ホームショッピングはいやです。私は買い物に行って、自分の目で確認しないとイヤなんです。もしテレビのショッピング番組で目についたものがあったら、連絡先に電話して、どこに行ったら現物が見られるかたずねるでしょうね。
- ゲームはだめです。きりが無いと思うので。子どもにもファミコンは一日30分と区切ってあるんです。うっかり1時間やってしまったら、次の日はしないとか、子どもも一応今のところ聞き分けてくれています。

千絵子さんにとって、もっとも充実しているのは、仕事の領域だけに限らずパソコンについて勉強しているとき。自分で関心のあるテーマについて本を何冊も買い込んで、研究したりするのが一番楽しいとのこと。その知識を他人に講習というかたちで伝えることも十分楽しんでいる。

そんな今の生活の中で、パソコンやパソコン通信は、千絵子さんにとってどういう存在か、ずばり聞いてみた。

- 子ども以外の全部。あっ、間違いました。子どもと主人以外の全部。これ

がなければ今のところ、私はなんにもやることができなくなってしまいます。洋裁とか、他の趣味もいろいろありますが、パソコンほどではないですね。もう自分でも十分のめりこんでいると思います。でも、いわゆるオタクではないと思っていますが……。できれば道具として使いたいというか、生活を楽しむために使いたいという感じですね。そのために余分なものはできるだけ省いていくという感じ。

- これからもきっとこういう生活が続くと思います。3年前までは何もなかった状態だったのに、今ここまで生活の中に入り込んでいますからね。不思議と言えば不思議です。

パソコンを生活の中心におきながら、さらにそこから築かれた仲間たちとの関係をスプリングボードにして、千絵子さんは、次のステップを考えはじめている。

- まだまだ夢物語なんだけど、みんなで仕事ができるような会社が作れたらいいねとか、そのため田園都市線沿線にみんなで集まれるマンションを借りようか、なんて話しあっているんです。最近すごくその話でもりあがっているから、もしかしたら勢いで実現してしまうかもしれないですね。そういうのは、きっかけが大事ですものね。儲けなくてもいいから、部屋代と経費ぐらい捻出できるだけでいいんですけどね。

田園都市線という私鉄沿線エリアの中で、パソコンというニューメディアをベースにして形成されたネットワーク的關係は、パソコンの中だけの仮想的な關係にとどまらず、しかも従来の地縁とは異なる指向性をもちながら、新たな關係づくりの芽を胚胎しはじめている。千絵子さんたちの起業の試みが、実現するか、それとも夢に終わるか——その動向は、今後の家族と地域の關係を考えるうえで一つの大きなポイントになりそうだ。

(取材/1994年9月)

<パソコン通信&CATV02> 30代在宅ワーキング家庭

志村 まなみ (仮名/33歳/兼業主婦)



仕事場はキッチンのカウンター越しのダイニングテーブルの上。プリンターはふだん使わないため、背後の食器棚の上に乗っている。

●家族構成

夫 (37歳/旅行会社勤務)、妻 (33歳/在宅パソコン入力)、娘 (6歳) の3人家族と犬が2匹

●居住環境

- ・横浜市緑区荏田の分譲マンション (3LDK) 6階在住
- ・田園都市線江田駅より徒歩15分。国道246号と東名高速に挟まれた細長い丘陵全体に建てられているが、緑をふんだんに残した配置のため、騒音はさほど気にならない

●情報環境

- ・パソコンの使用機種は、NEC98ノート
- ・加入しているネットワークは、ニフティ・サーバ、セランの2つだが、パソコン通信は当初ほどは活用していない
- ・電話はファックス共用の1回線で、特に不便は感じていないが、将来的にはもう1回線欲しいと思っている
- ・1カ月の電話代は、5000~6000円程度
- ・引っ越し後、マンションの一括契約に伴い、3年ほど前東急CATVに加入
- ・ファミコンは親専用で、子どもには利用させていない

■■■取材概要■■■

- 旅行会社に勤めていたが、職場結婚し、現在に至る。パソコンについての知識も経験もまったくなかったが、セランの募集を知り、在宅で仕事ができることやパソコン通信ができることにひかれて応募。もう一つの動機として、近隣の子ども仲間だけのつきあいでは満足できず、社会とつながっていたい意識もあった。
- 当初は自分の関心から、旅行関係の草の根BBSにアクセスしたり、セランの中でメールのやりとりなどをしていたが、マンネリ化してきたことと、データ入力の仕事が忙しくなってきたので、最近はパソコン通信のほうはあまり熱心でなくなっている。
- 入力の報酬は平均月5~7万円、多い月は15万円近くになる。ダイニングテーブルに98ノートを置いて作業しているため、忙しくなると食卓は仕事場に代わり、食事はリビングでとることもしばしば。適度な収入は必要だが、それほどすべてを犠牲にして仕事を優先させる気持ちは今のところない。もう少し子どもが大きくなったら、外に働きに出ることも考えている。
- セランはビジネス組織としての報酬は高くはないが、子どもを育てながら在宅で仕事ができ、時間の自由がきく点で、好都合な存在だと思っている。また近隣や学校の関係ではない仲間がえられたことも歓迎している。
- 夫は機械オンチの典型だったが、仕事の関係でワープロを始めざるをえなくなり、最近自分でもさわりはじめたが、まだ初心者。パソコン通信にはまったく関心を示さず、ヤクルト応援団同士のつきあいを楽しんでいる。しかし夫婦とも、ゲーム好きという共通の趣味があり、自宅やゲームセンターで夫婦で楽しんでいる。

1/パソコン通信を始めたきっかけ

田園都市線江田駅より徒歩約15分、国道246号と東名高速に挟まれた小高い丘全体に建てられた東急系分譲マンション。かなりの緑を残して建てられたマンションだけに、騒音はさほど気にならない。志村さん一家が引っ越してきたのは、5年ほど前のこと。家族構成は、旅行会社につとめる夫（37歳）、職場結婚したまなみさん（33歳）、娘（6歳）の3人と、それにマルチーズが2匹。

ゆったりした3LDKの間取りは3人家族には十分な広さ。サンルーム風に出っ張ったコーナーがダイニングで、まなみさんの仕事場はもっぱらこのテーブルの上のノート型パソコン（NEC98ノート）。ふだんはほとんど使わないため、プリンターは背後の食器棚の上に置いている。まなみさんは現在セランの入力の仕事をしているが、それまでパソコンの知識は皆無だった。

- セランに入るまでは、パソコンについてはまったく無知。結婚前、会社でワープロは少し打っていたけれど、マニュアルどおりやっていただけで全然詳しくはなかったんです。出産を前に仕事をやめてからはずっと家にいましたので、パソコンはもちろん触れる機会もありませんでした。
- セランを知ったのは、3年ほど前広告を見て。初心者でもOKで、機械も貸してくれて、家で仕事ができるんならいいわと思って、飛びついたんです。それに通信もおもしろそうだし。もともと機械は、ワープロ以前に高校生のときクラブ活動でアマチュア無線をしていたこともあって、それほど怖くはなかったんです。そもそも人見知りしないタイプだし。
- もう一つの動機として、社会とつながっていたいということもありましたね。家で子育てしていると、子ども関係のつきあいはあるけれど、それ以外の社会との結びつきがほとんどなくて、つまらなかったの。このマンションは大きいので、けっこう子どももたくさんいて、公園に行けば友達はできるし、子供会活動なども活発なんだけど、子ども以外の共通項も欲しいと思ったんですね。それに社会から切り離された自分になっていくことも怖くて、何か仕事はしたいと思っていたものですから。

こうしてセランに入会したまなみさんだが、最初はおっぱら通信を楽しんでいたようだ。

- 講習会にも参加して、これならなんとか自分でもできるかなと思いまし

た。ただどのくらい仕事がかかるか見当もつかないので、それなりにできればいいという程度でした。実際に仕事に来るようになったのは、3カ月くらいたってからでしたね。

- でもその間も貸してくれた機械は手元にあったので、パソコン通信はしていました。で、通信にはまってしまって、ほとんど通信のために使っているような状態でした。そのときのネットは、自分で調べた旅行関係の草の根BBSです。もともと旅行会社にいたので、旅情報には興味があったので。

2/現在の情報生活

現在、まなみさんが加入しているネットワークは、セランとニフティ・サーブの二つ。しかし当初に比べると、パソコン通信に対する関心は薄くなっているようだ。セランには一応シスオペの立場上、2~3日に1回アクセスしている程度。

- セランも最初はおしゃべりコーナーのシスオペをしていて書き込んだり、オフミーティングの手配などをしていたんですが、最近はちょっと飽きてきて、ほとんど書き込まなくなり読んでいるだけのさぼり状態です。結局、会員数が増えてもアクティブな人は限られていて、同じ人しか書き込まなくなってマンネリ化してくるみたいですね。
- ニフティにも最近入ったのですが、大きすぎてちょっと敬遠してまして、まだ特にこれといった利用はしていません。せいぜいフリーウェアのソフトをダウンロードするくらいですね。

パソコン通信のウェイトが低下したもう一つの原因は、仕事に費やす時間のほうが増えたこと。

- 私の仕事のほうがものすごく忙しくなって、通信をしている時間がなくなってしまったんです。仕事で多いのは、データ入力、それも住所、名前ですね。頭は使わず機械的にできるので、慣れればそんなに大変ではないですけれど……。この夏は特に忙しくて、一日5~6時間画面に向かっていました。だから報酬も15万円ぐらいになりました。いつもは平均5~7万円なんですけどね。
- ただ仕事に追われてくるともう大変で、食卓は散らかしばなしで、とても食事できる状態じゃないですね。しょうがなくリビングのソファで食べたり、それも手抜きや出来合いですませちゃったり……。もうめちゃくちゃ。ちょっと家族に悪いかなと思います。でも、それでも家でできるので助かりますけどね。
- 食卓を仕事場にしているのは、他にスペースがなかったから。寝室はベッドやタンスで占領されているし、和室は膝ついて仕事するのもいやです。ノートなので、いざとなったら簡単に片づけられますしね。

ところで在宅でパソコンを操作し、アウトプットはパソコン通信で、というのは、近未来社会のワーキングスタイルとして必ず登場するシステムだが、セランは先取りの実践しているのだろうか。

- いいえ、アウトプットはパソコン通信ではなく、事務局まで行ってフロッピー手渡しです。当初は通信でという計画だったのですが、うまくいかなかったらしく、結局電車に乗って持参しています。私はクルマの運転ができないし、駅からかなり距離があるので、届けるのは正直言ってなかなか負担です。まあ、事務局がたまプラーザでそんなに遠くないので、まだましですけど。
- でも事務局に行くと、たいてい誰かに出会えるのでおしゃべりできて楽しいですよ。遊び仲間もいますし。年齢が近いせいもあるけれど、子どもの話だけじゃなくて、自分の話もできるので、話していて刺激になります。

現在使用している機種は、まなみさんが自分で購入したものです。カラー液晶画面のため以前よりずっと見やすくなったという。

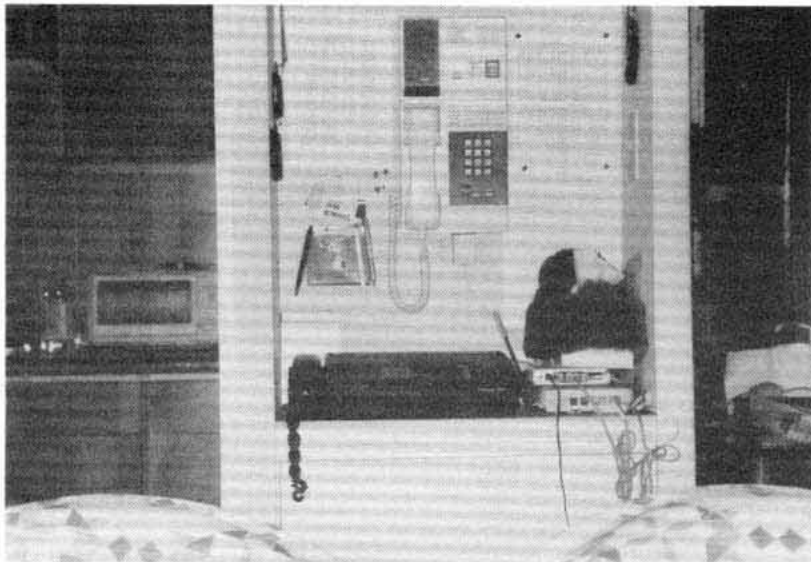
- 以前セランから借りていたのは白黒画面だったので、とても長時間の作業には向かなかったですね。NECにしたのは仕事のかねあいです。今後もう一台買うとなると、マックも考えるかもしれません。ただデスクトップで机の上にどんと置きたくはないので、ノート型にすると思います。
- 今のノート型は携帯には重いですけど、携帯することはまったくありませんのでね。旅行まで行って仕事したいと思わないですよ。旅行行ったら、遊ばなくちゃ。



現在愛用している2台目の98ノートは自分で購入したものです。カラー液晶のため、長時間の入力作業も非常に楽になったという

電話は1回線で、ファックスと共用している。特に不便はないが、できればもう1回線はほしいというのが希望のようだ。電話代はだいたい1カ月5000～6000円前後。パソコン通信をあまり頻繁に利用しなくなってからは、比較的落ち着いているらしい。

- できればもう1回線ほしいですね。緊急に困るということはないですけど、ダウンロードしているとけっこう時間がかかるし、キャッチホンが使えないので。ただここにもう1回線入るかどうか、まだ調べていないので、なんとも言えないですけど。



リビングとキッチンの境にある電話コーナー。ファックスと共用で、モデムも接続されている

夫は、まなみさんに言わせれば、彼女以上の機械無知。

- 主人は、今まで機械なんか使ったこともなく、毛嫌いしていたタイプ。でも最近部門が変わって、OA関係の仕事が増えてきて、いやでもやらざるをえなくなったみたい。家でワープロの打ち方を教えてあげたりしていたんですが、今でも会社から「小さい“っ”はどう打つの」なんて電話がかかってきたりしますよ。
- だから最近は私が自宅でパソコンをいじっていても抵抗はなくなったようですが、まだ自分でパソコン通信を楽しもうというところまではいかないようです。これからおもしろくなれば、自分でもやるかもしれませんね。でも私としては、自分の領域にあまり入ってほしくない面もあるし、別に趣味が共通でなくてもいいので、無理にやってくれなくてもいいです。

- 夫の趣味ですか？ 筋金入りのヤクルトの応援団なんですよ。もう10年以上ですか。今年はまだ勝負はどうでもよくて、球場に行って仲間と会って飲みに行くのが楽しいみたいで。セランの私たちと同じですよ。

子どもは、まだパソコンに関心はないものの、母親の仕事に対しては理解があるという。

- 画面に向かってしていると仕事をしていると思って、声はかけてきません。以前さわらせるとおもしろがっていたんですが、こちらが教えなければいけないので、面倒くさくて、ちゃんとはやっていません。まだひらがなしか読めないのだから、もう少したってからでいいかなと思っています。

3/情報化についての今後の展望

志村家では現在東急CATVに加入している。加入したのは、引っ越し後、マンション全体で加入契約することになった、今から3年くらい前のこと。

- 一番よく見るのはNHK衛星放送とWOWOWの映画、コンサートなどです。特に決めているのはないですね。せいぜい子どもが毎日衛星アニメ劇場を見ているくらいかな。主人は釣り情報と野球。特にマイナーでありあまり放映されていない、阪神—ヤクルト戦は絶対逃しません。それ以外では、日本の映画のチャンネル。古いのをなつかしんで見えています。それから競馬チャンネルなども喜んでいるみたい。
- 実際には民放のほうが見ている時間は長いと思うけれど、今すぐの天気予報やニュースなど専門チャンネルはやはりCATVが便利ですね。東急ローカル情報は残念ながら、ここでは映らないんですよ。地域の情報は見たいですけどね。それに双方向もだめなので、受けるだけなんです。

双方向が実現すればという条件つきながら、CATVの今後のサービスについては積極的な関心がありそうだ。

- もし双方向が実現すれば、興味はありますね。ホームショッピングはものによりますが、たとえばちょっと便利な家庭雑貨とか小物などは欲しくなると思います。買いに行く時間もないし、自分では気がつかないものもあると思うので。カタログショッピングなども、小物、普段着、子どもの洋服などはときどき利用しますし。だからCATVで24時間ホームショッピング番組が放映されたら、きっと見ると思います。くだらない番組を見ているよりいいと思うから。パソコン通信のオンラインショッピングも利用してみようかなと思いますし。
- ビデオが一番利用すると思います。新作でけっこういいのがあれば便利です。ここはレンタル屋が近くになくて、今でも不便を感じているくらいなんです。ゲームは大人が大好きで、ファミコンも大人はやるけれど、子どもにはやらせていません。だからCATVでゲームが配信されたら、大人は内容によってはやるかもしれないけれど、子どもはのめりこむのがこわいのでやらせたくないですね。もしやるとしても、時間とお金の条件きですね。

子どもが寝た後、夫婦そろって深夜のゲームセンターに行くのが密やかな趣味というまなみさんは、自他ともに認める遊びエンジョイ派。仕事も、自分の生活を楽しくするためにが大原則。だから、それほどしゃかりきになって働く意志は今のところない。

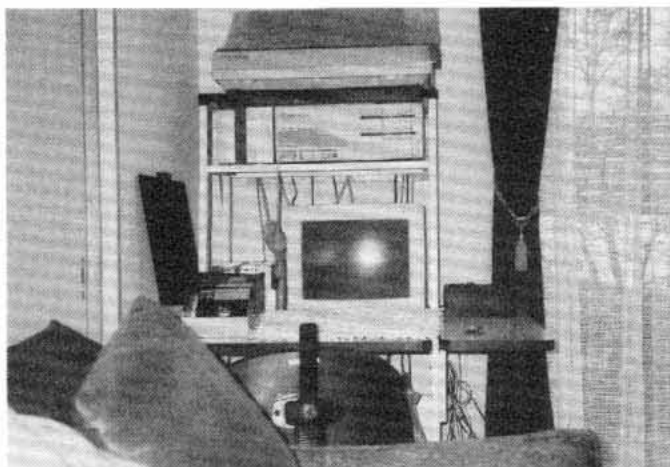
- 仕事はもっと減らしてもいいから、マイペースでできるといいですね。当面は一日数時間仕事をして、いくらかでも報酬がえられればいいという感じ。セランは総合的に考えれば私にとって良かったと思いますが、年数とともに変えていかなくてはならない面もあるような気がします。当初の計画ほどには、ネットワークとしての魅力が活用されていない面があります。もっとネットを活用して、情報も仕事も自宅できるといいかたちにしてほしいですね。
- でも今はセランの仕事しかしていないので、宝くじでも当たらない限り、仕事は続けるつもり。ただし、あまり家の中にこもっているのは好きではないので、将来的には外に出て働きたいですね。子どもがある程度大きくなって自分のことができるようになるくらい、そうですね、小学校の高学年あたりがめどでしょうか。
- 中学受験させる気はさらさらないです。あんな勉強に無駄な時間をかけるよりは、もっといろいろ習い事をしたほうが良いと思って、お稽古はたくさんやらせていますよ。英語、ピアノ、バレエ、それに水泳。みんなこのマンションの中でやっているの、遊び感覚ですけどね。その中から、一つでも身につけてくれたらいいと思っています。それができるのも、私に多少でも収入があるからでしょうね。

家族とともにいることを楽しみながら、自分だけの時間と仕事を持ち、さらにパソコンを通じて出会った仲間とのつきあいを楽しむ——まなみさんの生活は、30代ニューミセスの一つの典型と言えるかもしれない。

(取材/1994年9月)

<パソコン通信 & CATV03 > 60代夫婦家庭

神山 知美 (仮名/63歳/専業主婦)



庭に面した1階リビングのコーナーに作られたワーキングコーナー。夫も利用するが、もっぱら使っているのは妻

●家族構成

夫 (68歳/無職)、妻 (63歳/専業主婦) の二人暮らし。子どもはなし

●居住環境

- ・横浜市緑区もみの木台の一戸建て (二階建て) 在住
- ・田園都市線あざみ野駅よりバス 15分。道路1本へだてて川崎市麻生区と接する静かな住宅街の中ほどにあり、周囲は整然とした落ち着いたたたずまい
- ・在住は15年以上になるが、妻も最近までずっと外で働いていたため、近隣とのつきあいはあいさつ程度

●情報環境

- ・電話は1回線でファックスはなし
- ・パソコン通信を始めて4年目。夫婦でよく旅行するので予約を効率的に行う必要にかられたのがきっかけ。その他加入ネットワークは、ニフティ・サーブとセラン
- ・海外ニュースが見られるのが魅力で、10年ほど前東急CATVに加入
- ・その他、夫婦ともに美術、旅行に関心があり、レーザーディスクも設置
- ・1カ月の電話代は、6000~8000円程度。パソコン通信を始めてから数千円のアップになっている

■■■取材概要■■■

- 妻は、ずっと米軍基地で大型コンピュータを駆使して財務のプログラムを作成していたが、数年前実母の介護のため退職。仕事を離れてコンピュータにさわれなくなった寂しさからパソコンを購入、講習会などに参加して勉強する。大型コンピュータを英語のコマンドで操作することに慣れていたため、キーボードへの抵抗はなかったが、日本語変換に一番苦労したという

- 同じ頃、旅行の予約の必要からパソコン通信を始めるようになり、ニフティ、セランなどにも加入。必ず日課のようにアクセスし、メールのやりとりや必要なソフトをダウンロードするなど、通信の世界を広げている。退職後、悠々自適で聖書の勉強をする夫もニフティに加入し、キリスト教関係のフォーラムなどに参加している。

- セランに加入した当初は入力の仕事も少しはこなしていたが、最近は仕事は控え、人間関係のつながりでのメールのやりとりを楽しんでいる。

- 現在もっとも力を注いでいるのは、パソコン点訳。視覚障害者のために点字図書を少しでも多く流通させるために、セランの中で勉強会を設け、点字とパソコン点訳についての勉強とトレーニングをしている。将来、ボランティア活動を基本としながら、活動費程度は捻出できる組織ができることを期待している。

- その他、教会活動のボランティア、趣味の書道、パソコン教室の講習会などに参加するため、ほとんど毎日外出し、忙しく充実した日々を過ごしている。旅行が趣味なので、夫婦そろって年に数回は海外旅行をしている。つい最近も、中近東からヨーロッパにかけて美術館めぐりをしてきたばかり。

1/パソコン通信を始めたきっかけ

田園都市線あざみ野駅よりバス15分、道路一本へだてて川崎市麻生区と接する静かな住宅街の一戸建て。神山さん夫妻が、この家を購入したのは、もう15年ほど前のことになる。家族構成は、定年退職後、自分の好きな勉強に打ち込む夫（68歳）と知美さん（63歳）の二人。もともと子どもはいない。失礼ながら、とても60歳を過ぎているとは思えないほど若々しい知美さんだが、その秘訣はこれまでの人生の大半を外で仕事をしてきたことと無縁ではないようだ。

- ずっと米軍司令部につとめておりまして、コンピュータで予算作成のプログラムを作成するなど、財務的な仕事をしていたんです。4年前、私の母が骨折して介護するために退職しまして面倒みていたんですが、その母も昨年亡くなりまして、やっとそのショックから立ち直りかけているところです。
- 私が働きはじめた当時は、IBMの大型コンピュータの時代でパソコンなどはまだありませんでしたけれど、途中からパソコンになりました。それに英文タイプも打っていましたので、キーボードにさわることには慣れておりました。ただ、英文だけで日本語変換することはまったくなかったものですから、ワープロで日本語変換するということになじみがなくて苦労いたしました。

そんな知美さんが、パソコン通信を始めたのは、夫婦でよく旅行するので予約をする必要に迫られてのこと。やはり今から4年ほど前になる。

- そもそもパソコン通信を始めたのは、クアクラブという旅行関係のネットワークがありまして、そこの予約方法がパソコン通信だったんですね。その前からパソコン通信という言葉は知っていて、関心もありました。当時もう母の介護のために退職していましたが、やはり完全にコンピュータから離れてしまうのが寂しくて、自宅でも何かに使えるようにNECのパソコンは買ってあったんですね。ただ具体的にはどうしたらいいかよく分からなかったので、講習会などにも参加して勉強したりしていました。

現在加入しているネットワークは、その他、ニフティ・サーブとセランの3つ。

- ニフティに加入したのは、クアクラブだけではなく、パソコン通信をもっと広げたいと思ったんですね。Kネットなんかもパンフレットはとったり

したんですが、親しい人だけの仲間うちみたいな感覚があまり好きではないので、加入していません。

セラランに加入したのは、やはり募集を開始した4年ほど前のこと。

- セラランに加入したのは4年くらい前。ちょうど募集が始まるころで、新聞でも見ましたし、バスの広告などでも見ました。このあたり一帯ものすごく宣伝していましたね。

もっとも知美さん自身は、仕事としてのかかわりより、人間的なつながりを重視しているようだ。

- セラランの仕事の幅も最近はずいぶん広がってきているようで、マーケティングリサーチ、DTP編集、翻訳なども手がけています。またメールのアンケート調査などは頻繁にやっていますね。私も、税金のデータ入力や桐を使ったデータ入力などをしていたんですが、最近はちょっとおっくうになって、仕事は控えています。
- 参加されている皆さんは、収入の面もあるけれど、やりがいやおもしろさにひかれている面が大きいんでしょうね。パソコンならではということもあるし、それからあそこに出かけてみんなと顔を合わせるのが楽しいというところもありますね。地域の子どもを通じただけの関係より、同じテーマや関心のもとに集まってくる集まりなので、もう少し突っ込んだつきあいができますね。
- 私自身は、ずっと勤めをしていましたので、この近所とは顔を合わせるとあいさつする程度で、それほど深いおつきあいはありません。今も忙しいので、せいぜい一斉に掃除をするときに声をかけあう程度で、それ以上のおつきあいはほとんどありません。もともと同年代のお子さん同士以外のつきあいはあまりない地域ですから。

2/現在の情報生活

現在、知美さんは習慣的に一日2回はたいいニフティとセランにアクセスしている。

- 毎日、ニフティとセランにはアクセスしています。オンラインでつながっている時間は数分だと思います。ダウンロードしてゆっくり読むものだから、外出しないで何も用事がないときなど、ほとんど一日画面に向かっていることもあります。でも、忙しいときは、ダウンロードを見るだけの30分か、もっと短くなってしまいますね。セランには自分でもよく書き込みもします。

今ニフティで利用しているのは、目の関係のフォーラムとキリスト教関係のフォーラム。ときどきパソコン関係の掲示板などものぞいてみるという。ただし、ニフティでは特に積極的に発言するわけではなく、ダウンロードした情報を読むのがほとんどだとのこと。ちなみに夫もニフティに加入している。

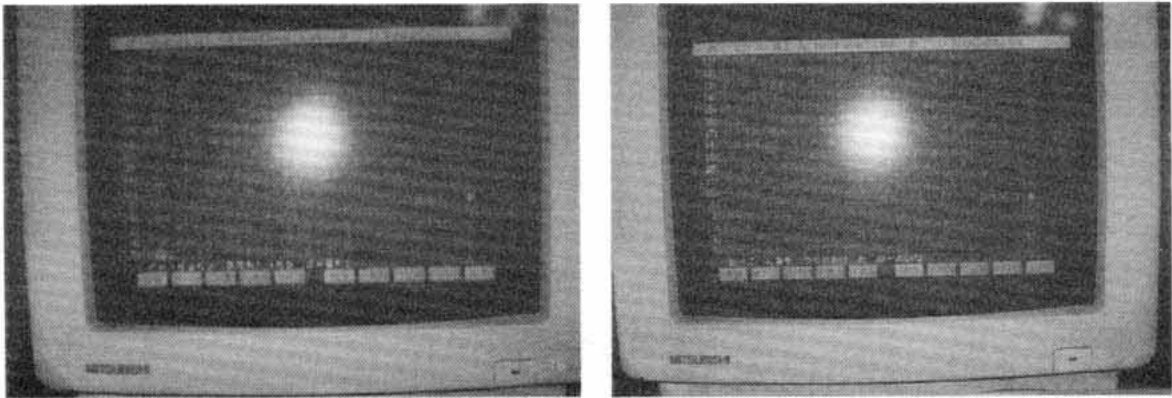
- 主人もニフティに参加して、メールの交換などしています。私が出かけているときなど、よく使っているみたいです。主人は、今旧訳聖書の勉強をしているので、その関係で、やはりキリスト教関係のフォーラムに登録しています。
- 主人とメールの交換ですか？ いいえ、そんなことは考えたこともありません。言いにくいことも口で言っちゃうほうだから。でも、そう言えばそういう手もありますよね。

さて、目下、知美さんがもっとも力を入れているのは、点字関係の仕事。

- セランでは、「点燈虫の会」という集まりを作って、点訳についての勉強をしています。会員は一応25人くらいいるんですが、ニフティでは目の関係のフォーラム会員は1万人もいると言われています。それをなんとかセランとつなげようとしているところです。PC-VANではなくニフティにしたのは、ニフティのほうが点訳ソフトの開発に力を入れていて、サービス内容が豊富だったこともあるんです。
- 私は母が亡くなってから、たまたま点字図書館にボランティアで行くようになって、点字に興味をもつようになったんです。昔ながらに、一文字一文字手作業で点字を作成していくには、大変な時間と労力がかかるんです

が、パソコン点訳というものがあるということを知って、これなら私にもできるのではと思ったわけです。

- 今自動点訳ソフトがあって、文章を入力すると、自動的に点字に翻訳してくれるんです。ただ、日本語は同音異義語が大変多くて、またカタカナ、和文英語まじりですから、完全には訳してくれないんですね。それを校正してくれるエディター的なソフトがあって、それを使って正しく修正していくわけです。ただし、それでも完全ではないので、やはり最後は一字一字、目で見、確認しながら校正していくことになります。そのフロッピーからプリントアウトすると、いわゆる点字の凹凸状に印刷されるんです。



左の画面のように、点字の約束事にしたがって入力し、変換キーをおすと、右の画面のように点字状に表示される。同音異義語や英語まじり、カタカナまじりなどうまく変換されていない箇所をひとつずつ校正していく

- パソコン点訳で作成された図書がなるべくたくさん点字図書館だけではなく、普通の図書館にも置かれるようになることが願いなんです。これまでは手作業でしたので、量的にたくさんはできませんから、少ない図書が全国の図書館をまわっているうちに、手で触られて磨耗してしまうことがよくありました。また新しい情報にもなかなか触れられないという悩みがあったんですね。そういったことも、パソコン点訳の普及で大きく変わることになると思います。
- でも普通は点字の知識があって、それからパソコン点訳に入ると思うんですが、私の場合はパソコンの知識はあるけれど、点字についての知識がまったくないものですから、まず点訳の技術をマスターしようということで、セランの中にそういうボードを作ったんです。というのも、点字には、いわゆる漢字やひらがな、カタカナの区別はなく、すべてが表音文字なんです。ですから、普通の人にとっては何でもなく読みこなせるし、前後

の文脈から判断できる内容でも、完全に訳されていないと理解できないんですね。そのための約束事を覚えたり、文節をどこで切るかの学習が、ほんとに大変なんです。

こうしたボランティアにかける情熱は、知美さんが育ってきた環境とも関係があるようだ。

- もともと父が日比谷図書館の館長をしておりまして、本とのつきあいは子どもの頃からずっとありまして、点字図書館の館長さんともおつきあいがあって、以前からこういう方面に関心はあったんです。それから父が亡くなった後も、母がその遺志を継いで、図書寄贈基金に毎年寄付しておりましたので、そういった環境にはあったと思います。
- それで、セランの中でパソコン点訳に関心をもつ人たちに呼びかけてグループを作り、勉強しているところです。皆さん、子どもが小さかったり、仕事があったりしても、とても関心が高いんです。今ちょうど勉強を始めて1年くらいですが、毎月2回集まって勉強会をして、点字とパソコン点訳についてのスキルアップをめざしているところです。講師は、町田の点字図書館で1年間点字の勉強をされた会員の方をお願いしています。その他、通常はセランの中にあるボードを通じて、メールで互いにやりとりしたり、意見交換したりしています。
- ただこちらが思っていたより会員が増えて、学習が大変になってしまったところに、ニフティではその方面のエキスパートがいて指導してくれるという話を聞いて、それでなんとかセランのグループとニフティとをつなげようとしているところなんです。
- 現在は完全にボランティアとしてやっていますが、たとえば区からの補助が受けられる道もありそうなんです。そうすると、私たちの活動費や行動費くらいは捻出できますでしょ。それから、これまでは点訳はほとんど無償でしたけれど、みんなの実力がつけば、報酬をとったり、また、英語に強い方もいらっしゃるの、英訳で東南アジアなどに教科書が送れたらいいなどと話し合ったりしています。まだ、それは夢の段階ですけど。でも、皆さんの意欲が高まって、ビジネスとしてもなんとかしようという機運も出てきているので、将来はそういう方向になるかもしれません。

それ以外に、知美さんは教会関係の活動も熱心に行っている。

- 宗教的なことはいろいろさしわりがあるので、セランの方にも話しては
いないのですが、私は若い頃からキリスト教に入信していて、その関係で
教会の仕事もしているんです。今度秋にバザーがあるものですから、今裏
方としてその準備に追われています。それも主婦の皆さんが中心なんです
が、手芸、工芸、お菓子づくりなど、とても頑張っています。主婦のパワー
ってすごいですよ。

かくして一週間のスケジュールも、下のようにぎっしりとつまっている。

- 月曜日は点字図書館で点字のボランティア、火曜日はセランでパソコンの
講習会を受講、水曜日は教会関係の仕事、木曜日は一応あいていますが、
習っている書道教室へ行くことが多いです。金曜日は特に予定はないの
で、時間があけば、たいていパソコンの前に座っています。土曜日は主人
と出かけたり買い物、日曜日は教会関係で出かけることが多いですね。
- ですから、とても退屈している暇はないですね。ただテレビを見るのも好
きで、旅行が好きなので、紀行番組のほか、撮影してきたビデオを見たり
しています。主人と二人で旅行するのが好きで、しばらく前も中近東から
ヨーロッパにかけて美術館を中心に旅行してきましたし、つい最近も富山
の「風の盆」に行ってきたばかりです。

ところで、神山家では、CATVの東急ケーブルビジョンにも加入している。

- ここはわりと早くからCATVのケーブルが通っていて、引っ越してから比
較的すぐ契約したような気がします。もう10年くらい前になるかしら。最
近、とみに記憶力が低下してきて、はっきりとは覚えていませんけれど。
- それまでCATVという言葉は知っていましたが、ごく狭い地域的なイメー
ジでとらえていたので、世界の情報が得られるとは思っていませんでした。
でも、衛星放送も見られるということで、日本のニュース番組などは
限られているから、世界のニュースが見られることに興味があって申し込
んだような気がします。
- ですから、よく視聴するのは、朝5時頃からやっている衛星第一の各国ニ
ュース。それからチャンネル24のCNNニュース。これもおもしろいので
よく見えています。その他、チャンネル9で東急沿線のローカル情報を放送
するので、それを楽しんで見たり、有料の映画もときどき気に入ったもの

があると見ます。それから思いだしたように英語のブラッシュアップを試みたり。

- 私どもでは、ニュース番組など視聴する内容が片寄ってはいますが、やはりCATVはもう生活の一部という感じになっていますね。それにCATVに関しては、見たくなければスイッチを切ればいいので、特に不満はありません。

CATVの今後の双方向化についても関心をのぞかせる。

- これから双方向の取り組みが始まるということで、もっとそれが買物などに応用されるようになるといいですね。ニフティでも本の注文がパソコン通信でできるそうですが、最近、本当にデパートや本屋さんに行く時間もないので、そういうときにはこういうメディアに頼るようになると思うんです。その意味で関心はあります。
- それに私がいま関わっている点訳なんかのことで、CATVを利用して何かできそうな気がします。たとえば今情報が片寄っていて、介護や点字など福祉関係の情報拠点がこのあたりにないものですから、CATVを活用してこのあたりに拠点ができるといいと思っています。

現在電話代は6000～8000円程度、CATV視聴代3000円と合わせて情報関連費は約1万円。それでもパソコン通信を始めてからは数千円のアップになっており、今後とも節約を意識しながら上手につきあっていきたいという。



リビングの壁面全体を利用したAV機器コーナー。テレビ、VTRに加えて、レーザーディスクがあるのは、夫婦そろって美術、旅行関係に興味があるため

3/情報化についての今後の展望

知美さんにとって、パソコンやパソコン通信はどういう意味をもっているのだろうか。少なくともパソコン通信で、自分の価値観や生活感が変わったことを実感できるという。

- 新聞では目に触れる意見も限られていますけれど、パソコン通信では、一つのフォーラムだけでも、全国各地からの情報に触れられるし、しかも水不足の問題など、時事的なテーマもすぐに話題になりますでしょ。その点は、広くて早くて、しかも受け身一方ではなくて自分もその場に参加するかたちで視野も広がっていきますね。
- パソコン通信のいいところは、時間にとらわれないということですね。電話だと相手の状況がわからないから、今はまだ忙しいのではとか、もう時間が遅いのでは、といちいち気になりますし、ファックスだと読んだか読まなかわからないので。そういう心づかいなく気ままにコミュニケーションできるところがいいですね。

知美さん自身は、極端に不愉快な体験はないものの、パソコン通信特有の雰囲気やハンドルネームの仮名性についてはいささか批判的だ。

- 極端な仲間意識や、身内だけに通用するなれなれしい感じはちょっといやで、そこには参加しないという感じになってしまいます。仲間うちのおしゃべりは、あんなに日本語崩してしまっていていいのかしらと、抵抗がありますね。それ以外では、特に不愉快な体験はありません。
- ハンドルネームを使うと、自分ではないような気がします。本名でもちょっとてれくさいときもありますね。ハンドルネームで責任が伴わないとなると、言いたい放題になって、ちょっとこわいなと思います。そのへんは常識でやっていただきたいですね。裁判ざたになったこともありますしね。仮面をかぶって何を言ってもいいということではなく、ハンドルネームで一つの人格が表現できればいいんですが。

ただし、知美さん自身パソコン通信はもう完全に生活の中に定着していることは自認している。

- もう一日アクセスしないと、ちょっと寂しいですね。旅行などで一週間く

らいアクセスしないと物足らなくて、帰宅すると真っ先にパソコンのスイッチを入れます。さすがに、旅行にまでもっていくことはありませんけれど。

- ウィンドウズが欲しくて、今研究中です。マルチメディアなどいろいろ聞くので、興味はあるんですが、どれがいいのかなかなかわからなくて。よくパソコンショップなんかに行って、いろいろ見ているし、「日経パソコン」なんかも読んで研究しているところです。

60代を過ぎて、いまだにパソコンの新しい情報摂取に熱心で、しかも点訳をボランティアを越えたライフワークとして位置づけようとする、しなやかな感性があるかぎり、知美さんとパソコン通信とのかかわりはますます深まっていくにちがいない。

(取材／1994年9月)

< CATV01 > 東急CATV視聴家庭

奈良橋 澄子 (仮名/45歳/専業主婦)、幸美 (仮名/23歳/無職)



ダイニングからリビングをのぞむ。マントルピースに向かい合って、購入したばかりのマックがある。取材当時は、まだ「箱」のまま

●家族構成

夫 (52歳/航空会社パイロット)、妻 (45歳/専業主婦)、娘 (23歳/無職)、息子 (19歳/大学生) の4人家族

●居住環境

- ・横浜市緑区の一戸建て (二階建て) 在住
- ・田園都市線江田駅より徒歩10分。なだらかな坂をのぼった閑静な住宅街の一角。夫の海外勤務で数年間貸した以外は、ここに20年近く居住

●情報環境

- ・電話はファックス専用も含め2回線。ファックスは夫の仕事の関係で設置したもの
- ・2年ほど前、ケーブル設置にともない、東急CATVに加入。家族それぞれ映画、スポーツ、ニュース、音楽番組など専門チャンネルや多チャンネルを楽しんでいる
- ・つい最近、娘の希望でデスクトップ型パソコン (マック) を購入したが、まだ使いこなせていない状態
- ・1カ月の電話代は1万5000円程度。子どもの長電話より、妻の実家との遠距離通話がかさむ要因

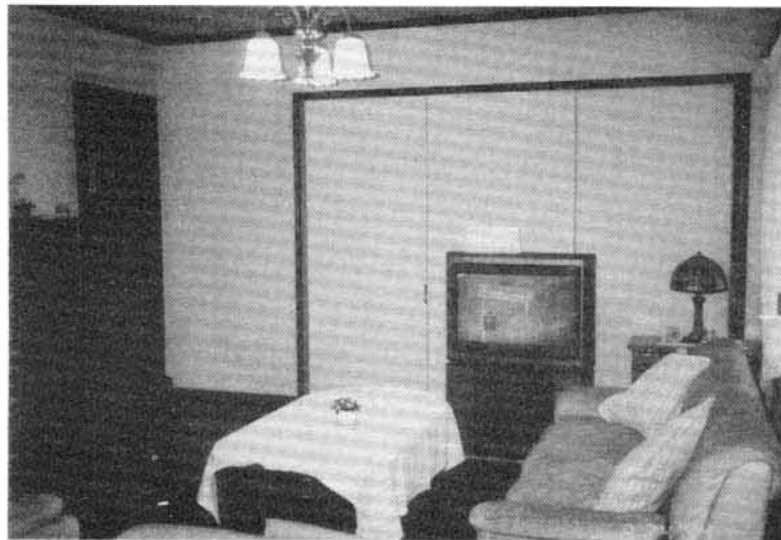
■■■取材概要■■■

- 妻は結婚以来、子育てと家事に専念。子どもの学校関係の役員を引き受けるほかは、外での仕事はしていない。娘は大学卒業後、就職が決まらず、週1回大学の研究室に通い、研究助手をつとめる生活。
- 2年ほど前、ケーブル敷設工事にともない、東急CATVに加入。夫が野球中継を最後まで観戦したいというのが直接の動機だが、家族それぞれ、映画、衛星放送、海外ニュース、スポーツ、音楽、天気予報など、CATVの多チャンネルや専門チャンネルを楽しんでおり、完全にCATVは生活の中に定着している
- ホームショッピング、ゲーム、ビデオ・オン・デマンドなど双方向を生かした今後のCATVのニューサービスについては、世代ギャップがあり、母親はビデオ・オン・デマンド以外消極的だが、子どもたちはいずれにも関心と興味を示しており、利用意向はかなり強い。
- 最近、娘の希望でデスクトップ型マックを購入したが、パソコン通信はおろか、ソフトもほとんど組み込んでいないため、取材当時は、まだ“箱”のまま。ただし、モデムを購入し、ネットワークに加入してパソコン通信を始めたい意向は強く、その他のソフトもいろいろ使用してみたいと考えている。また大学生の息子も社会人としての必修素養として必要だと感じている。
- 母親全般的に、機械に対しては保守的な態度。したがってパソコンにもパソコン通信にもまったく知識と関心がないため、おもしろさや便利さが理解できないているが、子どもたちがパソコン通信を始めることについては否定的ではなく、必要なことだと感じている。

1/CATV加入のきっかけと視聴状況

田園都市線江田駅より、ゆるやかな丘陵地帯をゆっくり歩いて10分。港北ニュータウンの近くに広がる住宅街の一角に、奈良橋さんの家がある。一家は、航空会社パイロットの夫、専業主婦の澄子さん、今年大学を卒業し週1回研究室に通う娘の幸美さん、それに大学2年生の息子の4人家族。夫の転勤で数年不在だった期間を除けば、約20年近く、この家で暮らしていることになる。10年ほど前に改築した以外は、ほとんど手を入れず、適度に時間を経た落ちついた雰囲気が漂っている。

ゆったりとしたリビングダイニングには、アイボリーホワイトの革製応接セットが置かれ、コーナーには35インチの大型テレビがどっしりと鎮座している。リビングとダイニングの境のコーナーには、1カ月ほど前に買ったばかりというデスクトップ型マックがいささか場違いな雰囲気で並べられている。



大型テレビが中央に置かれたリビング。テレビは夫が家族の留守に衝動的に買い替えたもの。母娘そろって映画などを楽しむことが多い

奈良橋さんが東急ケーブルテレビに加入したのは、2年ほど前のこと。

母●このあたりになかなかケーブルが届かなくて待ち望んでいたんです。ちょうどBSにしようかどうしようかと迷っていたので、どうせならBSも見られるCATVのほうが良いと思って、それでこのへんまでケーブルが来るということになったとき、飛びついて契約しました。

●最初は主人が言い出したんです。巨人ファンなんですけど、その頃は途

中でも時間が来ると放送が中断されてしまってフラストレーションがたまっていたので、ずっと中継が見られるのがいいと言って。それから、英語の勉強とかも言ってましたけど、それは口実だったのかしら。

首都圏のCATVの中でも歴史が古く、CATVの代名詞的存在の東急ケーブルテレビ。現在奈良橋家で視聴しているチャンネル数は、有料も含めて約30ほど。奈良橋さん夫婦もそうだが、娘と息子の二人もCATVの良さは十分エンジョイしているようだ。

母●テレビを見るのが好きなので、娘と一緒に映画を見たり、ニュースを聞いたり、衛星放送を見たり……といろいろ楽しんでいます。もうCATVがなかったら困ります。主人は映画やニュースなどのほか、仕事から気象情報は気になるようで、よくウェザーチャンネルに合わせています。

●息子は、MTVとスペースシャワーという音楽専門チャンネルがもっばらお気に入り。大学に入ってからエレキギターを始め、友人たちとアマチュアバンドを作ったりしているので、CATVの音楽専門チャンネルはとても参考になるみたい。

娘●私は音楽ものが好きなので、MTVもよく見えますし、その他の音楽チャンネルも楽しんでいます。だけど、私の場合は、むしろスターチャンネルという有料の映画専門チャンネルですね。洋画なんかでも私の好きなハリウッドものなんかをよく放送しているので、ごひいきにしています。平均するとだいたい毎日3時間くらいは見ているかしら。

●それ以外だと、CNNとかニュース専門チャンネル。たまたまNHKのニュースを見逃したときなど、いつでもニュースをやっているのはうれしいですね。それから、どのチャンネルだったかちょっと覚えていないけれど、何かこちらから電話をするとプレゼントが当たるという双方向プレゼント番組みたいなのがあって、それでTシャツをもらったこともあります。

仲良し母娘らしく映画も一緒に見るとのことだが、ごひいきのスターは、娘がハリソン・フォードやケビン・コスナーなどハリウッドスターなのに対して、母は市川雷蔵と、これだけは世代のギャップがありあり。

さて、CATV局がそれぞれのエリアで流している独自のローカル情報については、母も娘も知ってはいるが、どちらもそれほど積極的には評価していない。

母●イベント情報とか流していますけど、何か平板な感じがするんですよ

ね。もっと、工夫してバラエティに富んだ内容を流してもらえばと思います。せっかくこのあたりに住んでいるのだから、もっと知りたいこともありますしね。

後日確認したところ、息子は母親が認めるとおり、MTV、スペースシャワーなどのほか、CNNやスポーツ&エンターテイメントなどがごひいきのよう。CATVを好む理由として、「いつでも自分の好きな番組が見られる」「民放に比べて、天気予報、海外ニュースなど自分の知りたい情報をすぐに入手できる」といった放送内容に加えて、「画像、音声の乱れがなく快適」と画像の良さも指摘している。また今後の要望として、24時間放送のチャンネルをもっと増やしてほしい、海外の放送番組をもっと増やしてほしいなどをあげている。

いずれにしても、そうした細かい不満はあるものの、この一家では、現状のCATVにはコスト的にも十分満足しているし、これからも継続して視聴していきたいという。

2/現在の情報生活について

現在電話回線は2回線。それぞれ電話とファックス専用回線となっている。ファックスを入れたのは、夫が会社との連絡用に使うため。それ以外には、もっぱら子どもたちが、友達同士の連絡に活用している。現在、電話代はファックスも合わせて、毎月1万5000円くらい。名古屋に澄子さんの実家があるため、長距離電話の回数が多いという。その他、子どもたちの個室電話はなし。二階には家族共有の子機があり、必要に応じて自宅に持ち込むとのこと。また娘も息子もポケベルにも縁がない。

娘●私はもうそれほど長電話しないので欲しくないのですが、弟が長電話するようになったので、家族が使えないこともあるし、弟自身、専用電話をほしがっています。ポケベルも私は忙しくないで必要ないのですが、弟はいったん家を出たら所在不明になってしまうので、あったほうがいいかもしれないけれど……。

母●息子にもポケベルを持たせる気はありません。悪用するとは思わないけれど、そこまで機械に支配されたくないし、情報に振り回されたくないと思うので。息子もちゃんと外出先から連絡してきますし、今のところ信用しています。

母親の澄子さんの自己分析によれば、年代的なこともあるが、情報メディアに対しては、かなり頭が固いとのこと。

母●どちらかと言えば保守的だと思います。モノや情報があまりにもあふれていることに抵抗感もありますし。なるべく必要ないものは買わないようにしたいですね。だから、洗濯機もいまだに全自動ではないですし。

●私自身の生活のポリシーは、新しいものにむやみに飛びつかないこと、とりあえず反対してみる、などですね。最終的には納得すれば買いますが、納得するまでは何回でも見に行きます。

娘の幸美さんも、現状のライフスタイルでは母親の姿勢に納得しているが、将来の生活パターンによっては、情報メディアとのつきあい方が変わるかもしれないと予測する。

娘●今の私の生活では、ポケベルや電子手帳を必要とするほど情報があふれているわけではなく、自分自身で処理できるので必要ないのだと思います。今後、生活が変わったらわからないけれど。

3/情報化についての今後の展望

今後のCATVのニューサービスについての反応も、母娘ではかなり対照的。ビデオ・オン・デマンドについては、どちらも大歓迎。特に幸美さんは、よくレンタルビデオも利用すること、今後のCATVのビデオ配信サービスにはかなり関心が高い。ただしホームショッピングとゲームについては、母は批判的、娘は関心ありというスタンス。

母●ホームショッピング情報はあったら便利かもしれませんが、テレビのショッピング番組も利用したことはありませんね。自分の目で見なければ買いたくないので。テレビで紹介されたのをデパートで見て納得すると買いますが、テレビだけでは買いたいという気にはなりません。

●たしかに出られない人や忙しい人には便利でしょうけど、私はクルマも運転できるし、このへんはどこにでも買い物に出かけられるし、競争で安売りしているから、私にとっては全然必要じゃないですね。

●ゲームは嫌い。やれないし、やりたくもないです。息子が小学生の頃、ファミコンが出始めて、一時期は近所の子ども達が集まって、テレビの前で競争していたこともありましたがね。一応ルールはありましたが、もうほとんど無法地帯。

娘●ホームショッピングは本当に必要なものであれば、テレビで見て買うことについて、それほど抵抗はありません。家にいながらにして、さまざまな商品情報がえられるのは便利です。

●ゲームはおもしろそう。あったらやりたい。自分で選択できる幅が大きそうなので、利用してみたいですね。ファミコンも弟がやっていたのを、私も楽しんでいましたから。

その他、幸美さんは、CATV局から一方的に情報を送るのではなく、CATVを通じて社会参加ができるような仕組みについても積極的に望んでいる。

息子の方も、世代が近いせいか、幸美さんと同じような反応を示しており、ホームショッピング、ビデオ・オン・デマンドについては積極的に利用してみたいとしている。ただし、ゲームについては、CATVでまでファミコンのようなゲームをするかどうかについては懐疑的としている。

さて、奈良橋家では、2カ月ほど前、娘の幸美さんの希望でデスクトップ型のマックを購

入。それもCD-ROMにも対応できるような機種に決めた。マックを選んだのは、幸美さんの研究室で使っていてなじみがあったのと、最近話題になっているのでおもしろそうだったからとのこと。ただし、その後幸美さんが1カ月ほど海外旅行に出かけたこともあり、ネットワークに加入することはおろか、ほとんどソフトも使っておらず、まだ“箱”のまま。

娘●前々から父が仕事で必要なのでパソコンを買いきたいということは言っていたんです。研究室で使っていたので、使い方はだいたいわかります。今あるソフトは、フラッシュライターというワープロソフトとアクアゾーン（画面で熱帯魚が飼えるバーチャル水槽。エサやり、フィルター掃除など世話をこまめにしないと魚が死んでしまう）くらい。これからぼつぼつソフトを買って使おうと思っているところ。



念願かなって購入したマック。テーブルと椅子はリビングの雰囲気に合わせて落ち着いたダークブラウン系で統一。やがてこのコーナーが長時間占拠される日も間近い？

これから幸美さんがしたいことは、まずモデムを購入し、ニフティ・サーブに加入して、友達とパソコン通信を始めることと、占いを試してみたいこととか。また、オンラインショッピングやゲームなどにも興味しんしん。

娘●まずなるべく早くモデムを買って、ニフティに加入し、友達と通信を始めるつもりです。ニフティにしようかと思ってるのは、みんながそうしているから。それからハイパーカードも使ってみたいですね。こうしてマックをきわめていけば、将来何か仕事ができるのでは、と漠然とは思

っています。

また現在は、エレキギターのサークル活動に忙しく、就職活動にも縁がないため、パソコンにほとんど関心を示さない息子も、社会人になる前には必修教養として、パソコンやパソコン通信についての知識は不可欠だと考えている。

ただし、まったくコンピュータに関心も知識もない澄子さんには、そもそもハード以外にソフトにお金がかかるのが信じられないことのように。

母●私は、コンピュータってそれを買うと、もうそれだけで何でもできると思っていたんですね。ワープロってそうでしょう。だから電機屋さんに見に行ったとき、けっこう高い値段なのに、それにまた数万もするソフトをいろいろ買わなくちゃならないって知って、もうびっくりするやら、腹がたつやら。それもあって、パソコンについてアレルギーみたいになってしまって……。

したがって、パソコン通信についても、かなり懐疑的。

母●皆さん、コンピュータでこんなことができるのか、パソコン通信のおもしろさとかいろいろおっしゃるけど、私にはそれが便利というふうにはちっとも感じられなくて。だいたいビデオの予約もできないのですから。せいぜい主人と娘と息子が使っていたワープロを、最近やっと私も打てるようになったくらいです。

●最近も、新聞で、子どもを預けて働いている女性社員同士が、パソコン通信で交わした内容をもとに本を出版したという話を読んだんですけれど、とても不思議な感じがしました。どうして、会って話さないのかしら、と。パソコン通信で知りあって結婚するなんてことは、ですから、とても信じられません。

●ただ娘や息子がパソコン通信をするのは、別に反対ではありません。これからの若い人にとっては必要なことだと思いますから。私も今は元気で自由に動けますし、友達もいるのでパソコン通信は必要ないわという感じですが、これから年をとったり、動けなくなったりして、自由に歩けなくなったら、パソコン通信に頼るようになるかもしれません。ファックスも最初は不思議でしたけど、やっと慣れてきて、ずいぶん便利だと思えるようになったので。

パソコン通信についてイメージが描けないせいか、抵抗感が強い母親の澄子さんだが、

仲良し母娘だけに、娘の幸美さんのパソコン通信体験如何によっては、意外とそのおもしろさに開眼する日も近いのかもしれない。

(取材／1994年9月)

<補記>

インタビュー終了直後、娘の幸美さんはたまたま就職することになり、毎日の生活リズムが激変することになった。また時を同じくして、念願のニフティ・サーブにもようやく加入。不規則な勤務で拘束時間が長くなったため、友達ともなかなか会えず、また電話も通じにくくなったので、連絡やおしゃべりにパソコン通信の威力を実感しているとのこと。

「情報化による家庭の変容」取材ノート10

< CATV02 > 小田急CATV視聴家庭

畠山 君枝 (仮名/44歳/専業主婦)



大型テレビ、CATVデコーダー、ビデオなどが置かれたリビングのコーナー。夕食はここで

●家族構成

夫 (45歳/自動車メーカー勤務)、妻 (44歳/専業主婦)、息子 (17歳/高校3年生)、娘 (15歳/高校1年生) の4人家族

●居住環境

- ・川崎市麻生区の高台に建つ一戸建て (築約5年、二階建て) に在住
- ・小田急線新百合が丘駅よりバス10分、徒歩5分。高台にある小田急電鉄系のニュータウンで、第四山の手風の瀟洒で落ち着いたたたずまいの一角
- ・夫は、自宅から京浜地区の自動車工場まで約1時間かけてマイカー通勤。子どもたちはそれぞれ約1時間かけて、私立高校に通学
- ・子どもの送り迎えや買い物のため、クルマは2台保有

●情報環境

- ・CATVは新築時に難視聴解消のために契約
- ・電話は1回線。二階に子機があるが、子どもたちの部屋にはない
- ・ワープロは1台、ファックスはなし
- ・息子の部屋にパソコンはあるが、もっぱらゲーム用で通信には利用されていない。娘はパソコンにも通信にも関心なし
- ・1カ月の情報関連費は、電話代平均5000円、CATV視聴費3000円でトータル1万円未満

■■■取材概要■■■

- 5年前、新築にあたって、難視聴解消のためにCATV（小田急ケーブルビジョン）と契約。現在、32チャンネル視聴可能だが、妻はそもそもテレビを長時間視聴する習慣がないため、特に多チャンネルの恩恵をこうむってはいない。夫も、在宅時間が少ないため、仕事柄必要な新車情報以外には、特にCATVならではのメリットは享受していない。
- 息子と娘にとってCATVの最大の魅力は、MTV。次いで、海外スポーツチャンネルとなっている。彼らは、音楽、スポーツなど、より専門的なジャンルのチャンネルが増えることを望んでいる。
- CATVがこれから展開しようとしているホームショッピング、ゲーム、ビデオ・オン・デマンドなどについて、妻はいずれも、自分の欲求としても、親の視点からしても消極的。特にゲームに対しては、子どものゲームづけを心配して抵抗感が強い。
- それに対して子どもたちは、ホームショッピングとゲームに関しては、程度の差はあれ、それほど積極的ではないが、ビデオ・オン・デマンドに関してはかなり関心が高い。
- 情報生活全般に関して、年頃の子どもたちがいる家庭にしてはそれほどアクティブではなく、子ども専用の子機もなく長電話に悩まされてもいない。またポケベル、電子手帳なども携帯せず、特に欲しがってもいない。さらに、息子も娘も、いずれもパソコン通信には関心がないとしている。

1/CATV加入のきっかけと視聴状況

小田急線新百合ヶ丘からバスで約10分。丘陵地帯に広がる瀟灑なニュータウンの一角に畠山さんの家がある。近所には、巨人軍桑田投手や村井国夫・音無美紀子夫妻の家もあるという、ワイドショー・ウォッチャーにとっては興味しんしんのスポット。

畠山家の家族構成は、夫、妻の君枝さん、高3の息子、高1の娘の4人と犬1匹。ニュータウン完成とともに新築のこの家に引っ越してきたのが5年前。夫は、マイカー通勤で、約1時間かけて京浜地区の自動車メーカーの工場に通っている。2人の子どものうち、高校生の息子は坂道を駅まで自転車をとぼすが、娘は毎朝駅まで送りどけるといふ。小田急ケーブルビジョンに加入したのは、新築と同時の5年前。電気店の人にすすめられたことがきっかけだった。

- 最初、電気屋のおじさんに、このあたりはテレビが映りにくいと言われたもので。それならCATVがいいかなと思って。工事も新築のとき一緒にするほうが簡単だし、それなら最初からということで。でも、最終的には主人が決めました。
- CATVのことは以前から知っていました。というのも、ここに引っ越す前は、田園都市線の鷺沼に住んでいて、あのあたりは東急CATVの放送エリアだったので。でも、集合住宅で、ケーブルが引き込めるようになっていなかったの、その頃は加入していませんでしたけど。

現在、小田急ケーブルビジョンのチャンネル数は、再送信、衛星放送も含めて32とCATVの中では平均的。では、畠山一家はどのような見方をしているのだろうか。

- 見方といっても、特別変わったことはなく、ただ普通にテレビを見るように見ているだけです。私がわりとよく見るのは、チャンネル20（小田急沿線情報がメイン）で、これはこの地域の情報も流しているけれど、それ以外にドキュメントや教養番組など、わりといいのを放送しているの。
- それから、まあよく見ているのは30チャンネルの読売文字ニュース。これはいつでもニュースを流しているの、新聞を読むような感覚で眺めています。31チャンネルでも日本テレビ系のニュースを流しているけれど、これは文字ではなく、いつも同じようなニュースばかりなので、あまり見ませんね。後は、33チャンネルの天気予報くらいかしら。それ以外の有料のチャンネルはまったく利用していません。

君枝さんの日常は、朝5時半に起きて子どもたちのお弁当を作ることから始まり、娘の送り、犬の散歩、買い出し、近くの実家の両親の面倒と、こまぎれにあわただしい。つい最近まで学校の役員をつとめていたため、学校に赴くことも多く、なかなか自分だけの時間は持てなかったという。役員から解放された現在、カルチャーセンターでの英会話と絵付けが何よりの楽しみだという。

- 私は、もともとテレビというものをあまり見ないんです。せいぜい時間にして、一日1時間くらいかしら。NHKの朝の連続ドラマも見ないくらい。皆さん、時計がわりにとかおっしゃって、ほとんど見ているようだけど、なぜか私は昔から見る習慣がなくて。「おしん」も見っていないんですよ。その時間、犬の散歩に行ったり、片付けものをしたりで、ゆっくりしていないからかしらね。
- 朝ごはんを食べるのも、みんなが出て行ってひとしきり片付いた9時頃からだから。昼間、出かけないときは、だいたいこのリビングでぼうっとしているんだけど、でもテレビはつけないことが多いです。ワイドショーも、たまにおもしろそうな話題のときにつけるくらい。
- 夫も朝早く出て夜帰ってくる生活だから、特に決まって見ている番組はありませんね。仕事柄、新車情報番組はわりとよく見ているようだけど。土日も、特にこれといって決まって見ているものはありませんね。



畠山さんが比較的好んで見る、30チャンネルの読売文字ニュース。いつでも新聞を読む感覚でニュースが見られる点が入っているという

となると、一家でもっともCATVの恩恵にあずかっているのは、2人の子どもたちのようだ。

- 息子は、名前はよく知らないけど、海外のスポーツチャンネルとMTVに熱中してますね。スポーツはプロレスやサッカーなど、海外のものは日本とは迫力が違うとか言って、夜中もよく見てみたい。今はちょうどワールドカップサッカーね。毎晩遅くまで見えています。
- MTVもそうね。日本のロックを主に放送するチャンネルもあるけれど、あまり好まないで、MTVばかり見えます。本当は来年大学受験なので、それどころじゃないと思うんだけど……こればかりはねえ、親が言っても本人がやる気にならなければしょうがないし。

後日、息子さんに確認したところ、やはりお好みは、MTVとGAORA。GAORAの中でも、バスケットとプロレスが特に気に入っているとのこと。ただし、それ以外のチャンネルはほとんど視聴せず、自分にとってはあまり意味のないチャンネルが多いので、多チャンネル自体は彼にとってそれほど魅力ではないようだ。逆に、映画、音楽、スポーツなど、それぞれのジャンルを専門的に扱うチャンネルをもっと増やしてほしいという要望は強い。

- 娘もやはりMTVに熱中。こちらは高校の部活でギターをやっているので、それもあって関心があるみたい。そのうち、きっとエレキギターを始めるようになるんじゃないかしら。

こちらも同様に後日、娘さんに確認したところ、やはりMTVは海外の音楽が堪能できるのでよく視聴しているとのこと。ただし、外国のスポーツが好きなのは兄と同じだが、彼女のお気に入りには衛星第一。今後の要望としては、海外の芸能、スポーツチャンネルをもっと増やしてほしいということと、部活の関係か、有料でもいいから、ライブだけのチャンネルがほしいとのことだった。

2/現在の情報生活について

島山一家の情報生活は、いまどきの子どもたちがいる家庭にしては、それほどアクティブではない。多くの家庭で悩まされている子どもの長電話にも無縁だという。また息子も娘もパソコン通信にはまったく関心がなく、今後も利用したいと思わないとの点で一致している。

- 息子も娘も、自分たちの部屋に専用電話も子機も持っていません。電話は1回線で親子電話になっていて、子機が2階に一つあります。息子はもともと専用電話を欲しがらなかったし、娘は一時期、自分の部屋に電話を欲しがったこともあったけれど、今は落ち着いて、特に要求していません。たまーに娘が長く話しているくらいで、ほとんど長電話はしませんね。むしろ私のほうが、昼間べちゃくちゃ話しているかしらね。電話代も月5000～6000円くらい。もちろんポケベルや電子手帳も持っていません。
- 息子は自分専用のパソコンは持っているのね。これはおじいちゃんにせびって買ってもらったもの。なんでも NEC の98とかいうの。私は機械のことはまったくわからないから、何に使っているんだか。でもパソコン通信なんかはやってないみたい。きっとゲームでしょ。娘はパソコンには全然興味なし。

CATV視聴代は毎月3000円。したがって、島山家の情報関連コストは、電話代とCATVを合わせても1万円以内におさまっている。なお、それ以外の情報関連機器については、以下のとおり。

- ワープロは1台。これは主人が仕事の関係で、自宅でもできるようにというので買ったものです。私もしばらく前まで、子どもの学校の役員をしていたので、そのときは手紙や名簿などを作るのに使っていました。
- 私の知り合いで、はがきにワープロでしゃれた近況報告をつづって、「風のたより」と名付けて、親しい人に送っている人がいるんですね。それが100号になったとかいうことで、この間パーティがあったんですけど、とてもとても、私にはそこまでは。
- ファックスはありません。ファックスって、ときどき電話するとピーピーと音がしている、あれでしょ。最近は何かで集まろうというとき、ファックスで地図や案内を送ってね、という人が増えてきて、そのたびに、ああや

っぱりあったほうが便利かなとは思うけれど、まだそれほど必要という実感が無いので。

- 衛星放送は見ているけれど、WOWOWには加入していません。なんだかもったいない気がして。額そのものより、CATVの映画チャンネルもあまり見ないから、ほとんど見ないんじゃないかと思って。とりあえず現状で満足しています。

この一家と一緒にテレビを見るのは、せいぜい夕食のときくらいという。

- テレビは2台で、1台はリビングに、もう1台は私たちが寝室に使っている2階の和室にあります。2階の和室のは、もっぱら息子のゲーム用に使われています。
- ここのレイアウトは一応ダイニングとリビングがはっきり分かれていて、テーブル式のダイニングにはテレビがないんですね。朝食はあわただしいからダイニングで食べるけれど、夕食や休みの日は、テレビを見るために、ここのリビングでだらっと座って食べることが多いですね。本当は、ダイニングにもテレビを置いたほうがいいのかもしいわね。

3/CATVの今後の展開について

君枝さん自身があまりテレビにのめりこんでいないためか、ホームショッピングやゲーム、ビデオ・オン・デマンドなど、CATVが今後関わろうとしている双方向性の分野には消極的だ。

- ホームショッピング自体があまり好きではないんです。一度、テレビの通販でパールのネックレスを衝動買いしたことがあって、これは値段の安さにひかれて思わず申し込んでしまったのだけれど、実物が届いた瞬間に、あっ、失敗したな、と後悔しましたね。いかにも安物という感じで。
- それ以来、現物を見ないで買うことにはためらうものがあります。せいぜい利用するとしても、押し入れタンスとか圧縮ふとん袋みたいに、しまいこんでおける実用品くらいでしょうね。だから、今後24時間そういうホームショッピング番組が流されたり、すぐ申し込めるといっても、そもそもテレビをあまり見ないですからね。そういうものにつられてしまうことはないと思います。
- ゲームというのもねえ。親はもちろんしないし、今でも息子がファミコンしているのが気になっているので、これ以上ゲームづけになってもらっても困るし。日曜日なんか、父親がいないときは、半日くらいしているときもありますからね。娘はもともとファミコンはやらないし、ゲームにも興味がないみたいですけどね。いずれにしても、親としてはゲームはあまり歓迎できませんね。
- ビデオも子どもたちはときどきレンタルしているけれど、親はそういうこともしないし、録画もほとんどしませんね。だいいち機械の操作も難しくよく分からないので、子どもたちにやってもらっているくらいです。今でもCATVの映画のチャンネルでけっこういい映画もやっているから、それ以上どうしても見たいというビデオもありませんね。

では、これらのサービスについて子どもたちの反応はどのようなのだろうか。これには若干、兄妹でも差があるようだ。息子はホームショッピングについては、「あれはおばさんのするもの」とにべもないのに対して、おばさん予備軍というには気の毒かもしれないが、娘は「品物による」「値段が安ければ利用したい」とややふくみをもたせた回答。対照的にゲームについては、息子が「おもしろそうなら利用したい」と意欲をのぞかせるのに対して、娘は「ゲームの種類による」とやや消極的。

ただしビデオ・オン・デマンドについては、どちらも利用してみたいと関心を示している。

ともあれ、息子の大学受験が目下の最大の課題という君枝さんにとって、CATVは現状の多チャンネル程度でとりあえず満足というのが実情のようだ。

(取材／1994年7月)